

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第245集

SHIMOSHI BAMIYA
下芝宮遺跡VI

長野県佐久市長土呂下芝宮遺跡 第VI次調査

2017.3

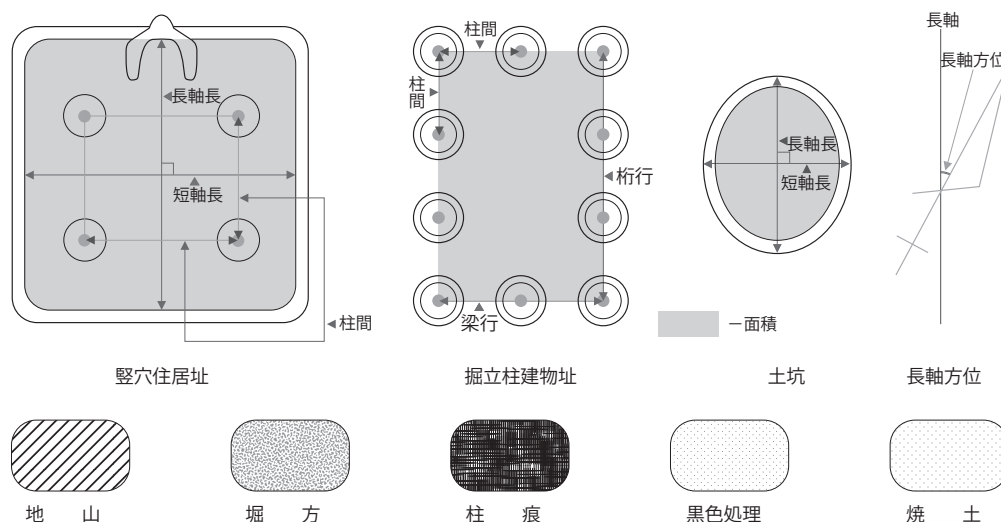
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する下芝宮遺跡の第Ⅵ次発掘調査報告書である。
- 2 調査は土橋秀治・井出喜代子・井出仁志・柳澤秀樹が行う集合住宅建設工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 芝宮遺跡群 下芝宮遺跡Ⅵ（N S S Ⅵ） 佐久市長土呂下芝宮781-5他
- 4 調査期間及び面積 発掘調査：平成28年3月1日～5月30日
整 理：平成28年5月31日～平成28年12月20日
調査面積 1,906㎡
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1：5,000）である。
- 6 本書に掲載した遺構図は、簡易遣り方測量で作成したものを、Adobe Illustrator でデジタルトレースを行った。
- 7 遺物実測図は手取りで行い、Adobe Illustrator でデジタルトレースを行った。
- 8 遺構・遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshop で補正等を行った。
- 9 本書の編集は Adobe InDesign で行った。
- 10 本書の作成・編集は小林が行った。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略記号は竪穴住居址－H、掘立柱建物址－F、土坑－D、溝址－M、ピット－Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4 を基本とする。これ以外ものは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 遺構の海拔標高は、遺構毎に統一し、水系標高をスケール上に「標高」として記してある。また、土層の色調には1999年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 調査区グリッドは公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mで設定した。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 7 挿図中における網掛は以下の表現である。例言・凡例



目 次

第 I 章	発掘調査の経緯	1
	第 1 節 調査の経緯	1
	第 2 節 調査体制	1
	第 3 節 遺跡周辺の環境	2
	1. 遺跡の地理的環境	2
	2. 遺跡の歴史的環境	3
	3. 基本層序	4
	第 4 節 検出遺構・遺物の概要	4
第 II 章	遺構と遺物	4
	第 1 節 住居址	4
	H 1 号住居址	4
	H 2 号住居址	5
	H 3 号住居址	9
	H 4 号住居址	9
	H 5 号住居址	9
	H 6 号住居址	15
	H 7 号住居址	15
	H 8 号住居址	15
	H 9 号住居址	16
	H 10 号住居址	19
	H 11 号住居址	19
	H 12 号住居址	20
	H 13 号住居址	22
	H 14 号住居址	25
	H 15 号住居址	25
	H 16 号住居址	26
	H 17 号住居址	31
	H 18 号住居址	31
	第 2 節 土坑	32
	D 1 号土坑	32
	D 2 号土坑	33
	D 3 号土坑	33
	D 4 号土坑	34
	D 5 号土坑	34
	D 6 号土坑	34
	D 7 号土坑	34
	D 8 号土坑	34
	D 9 号土坑	34

D 10 号土坑	34
D 11 号土坑	34
D 12 号土坑	34
D 13 号土坑	38
D 14 号土坑	38
D 15 号土坑	38
D 16 号土坑	38
D 17 号土坑	38
第3節 溝址	38
M 1 号溝址	38
第4節 掘立柱建物址	40
F 1 号掘立柱建物址	40
F 2 号掘立柱建物址	40
F 3 号掘立柱建物址	40
F 4 号掘立柱建物址	40
F 5 号掘立柱建物址	40
F 6 号掘立柱建物址	40
第5節 ピット	42
第6節 遺構外出土遺物	42

写真図版

PL 1	H 1 ～ H 3 号住居址
PL 2	H 3 ～ 9 号住居址
PL 3	H 10 ～ 13 号住居址
PL 4	H 13 ～ 15 号住居址
PL 5	H 16 ～ 18 号住居址、M 1 号溝址
PL 6	M 1 号溝址、D 5 ～ 10・14 号土坑
PL 7	D11 ～ 13・15 号土坑、F 1 ～ 5 号掘立柱建物址、全景
PL 8	H 1 号住居址出土遺物 (1)
PL 9	H 1 号住居址出土遺物 (2)、H 2 号住居址出土遺物、H 3 号住居址出土遺物 (1)
PL10	H 3 号住居址出土遺物 (2)、H 4・5 号住居址出土遺物
PL11	H 6・7・8・11 号住居址出土遺物、H 9 号住居址出土遺物 (1)
PL12	H 9 号住居址出土遺物 (2)、H 10・12 号住居址出土遺物
PL13	H 13 ～ 15 号住居址出土遺物
PL14	H16・17 号住居址出土遺物
PL15	H 18 号住居址出土遺物、M 1 号溝址出土遺物、土坑出土遺物、ピット出土遺物 遺構外出土遺物

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査の経緯

下芝宮遺跡は過去に 5 回の発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代の集落遺跡であることが明らかとなっている。今回発掘調査を実施した地籍は、平成 21 年に今回の調査範囲の大部分を占める部分に開発計画が立てられ、佐久市教育委員会が試掘調査を実施し、大規模な集落跡であることが確認されている場所である。平成 27 年 7 月 29 日、柳澤秀樹・土橋秀治・井出仁志・井出喜代子はこの試掘調査範囲を包括する地籍に集合住宅を建設するため、文化財保護法第 93 条第 1 項及び文化財保護法施行令第 5 条第 2 項の規定に基づく届出を長野県教育委員会に行った。これを受け佐久市教育委員会は平成 27 年 8 月 26・27 日に試掘調査が実施されていない山林部分を対象に試掘調査を実施し、竪穴住居址等の遺構群を検出した。保護協議を重ねた結果、遺跡の破壊が避けられないことが明らかとなった切土部分及び道路部分 1,906㎡について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。平成 27 年 12 月 8 日に埋蔵文化財発掘調査契約を締結し 3 月 1 日～10 日の期間に山林部分の 150㎡について発掘調査を行った。農地転用等の許可をまち平成 27 年 4 月 8 日に再度埋蔵文化財発掘調査契約を締結し、5 月 30 日まで発掘調査を実施した。また、同年 5 月 31 日～年 12 月 20 日の期間整理作業を行い、本書を刊行した。

第 2 節 調査体制

平成 27 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	榎澤晴樹		
事 務 局	社会教育部	部長	山浦俊彦		
	文化振興課	課長	小林 聖		
		企画幹	三石 建		
	文化財調査係	係長	大塚広樹		
		係	小林真寿	富沢一明	上原 学
			神津一明	生島修平	
調査担当者	富沢一明 小林真寿				

平成 28 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	榎澤晴樹		
事 務 局	社会教育部	部長	荻原幸一		
	文化振興課	課長	三石 建		
		企画幹	小林登志朗		
	文化財調査係	係長	大塚広樹		
		係	小林真寿	富沢一明	上原 学
			神津一明	生島修平	
		臨時職員	森泉かよ子		

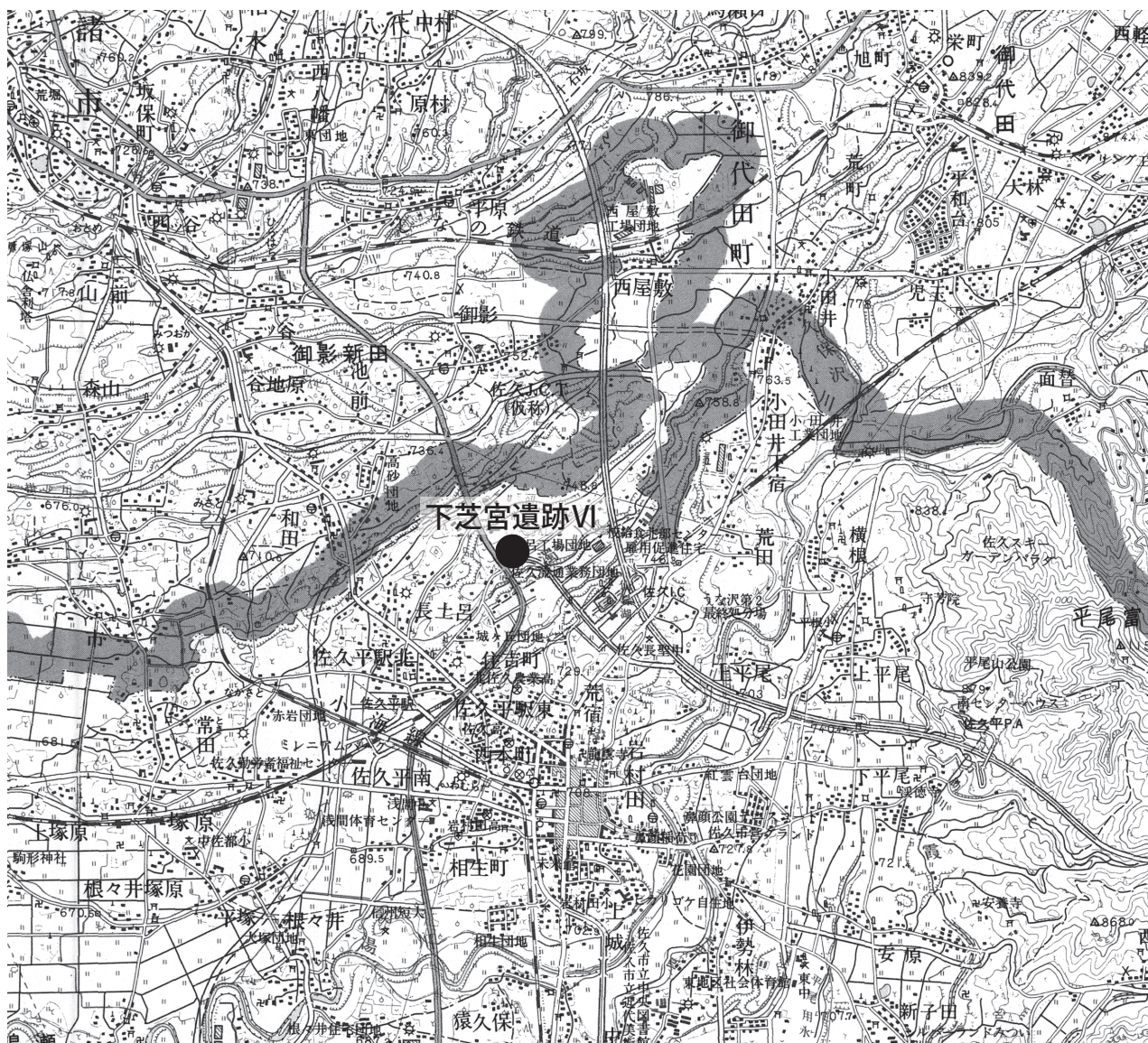
調査担当者	小林真寿						
調 査 員	赤羽根 篤	赤羽根允江	浅沼 勝男	甘利 隆雄	飯森 成英	岩松 茂年	
	加藤ひろ美	小林喜久子	小林 妙子	小林 敏雄	磯貝 律子	岩崎 重子	
	木内 修一	清水 律子	副島 充子	田中ひさ子	中沢 登	羽毛田利明	
	橋詰 勝子	橋詰 信子	花岡美津子	林 まゆみ	堀籠 滋子	堀籠 保子	

第3節 遺跡周辺の環境

1 遺跡の地理的環境

佐久平の北部は、浅間山の火山噴出部により厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物の堆積層という性格上、水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帯状台地と帯状低地の交互地形が見られる。

今回調査を実施した下芝宮遺跡も北西と南東を田切り谷に挟まれた、標高 734 m 前後の台地上に展開している。台地上には湧水、河川等は認められないため、生活水は田切り谷を流れる小川に依存していたものと推測される。また、この谷に侵食された遺構も確認されることから、集落形成時にはこの谷は現在よりも



第1図 下芝宮遺跡VIの位置 (1:50,000)

小規模であったものと考えられ、水路による集落への生活水の供給も可能であったかもしれない。

2 遺跡の歴史的環境

下芝宮遺跡を包括する芝宮遺跡群は、佐久市北部に展開する。田切り谷を挟んで南東には長土呂遺跡群が、北西には周防畑遺跡群が存在する。浅間火山の噴出物が11,000年ほど前に形成した堆積層がこの付近を広く厚く覆っているため、旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代に入ると周防畑遺跡群若宮遺跡Ⅳなどで早期の押型土器が散見されるようになる。前期・中期の遺跡は発見されていないが、後期に入ると西近津遺跡群に集落が出現するようになる。今回の調査では中期後半の土器片が数点出土しているが、遺構は確認されていない。弥生時代の遺跡は、周防畑遺跡群や西近津遺跡群の南部の標高710m以下の地域に展開しており、当遺跡群では発見されていない。この地域で人々の活動が俄かに活発になるのは古墳時代後期7世紀に入ってからであり、所謂「計画集落」が大規模に展開するようになる。その代表的な存在は長土呂遺跡群の聖原遺跡であり、900軒の竪穴住居址、800棟の掘立柱建物址が調査された。また、山梨県の古代の地名が記された甲斐型土器の「佛鉢」や石製の私印等の希少遺物の出土などから、「佐久郡衛」の有力地として捉える意見も多い。当遺跡群も聖原遺跡と遜色ない規模の計画集落であり、長野県埋蔵文化財センターの長野自動車道の調査や、佐久市が行った調査により多くの遺構・遺物が発見されている。このような状況は周防畑遺跡群でも同様であり、周防畑遺跡群内の渋右エ門地籍出土の布目瓦の存在もあり、この地域をめぐる「佐久郡衛」や「古東山道」関係の論説は絶えない。何れにせよ、近年の発掘では周防畑遺跡群から多くの「大井」刻書・墨書土器が出土したり、南下北原遺跡から「刑部仁丸」の墨書土器が出土し、こ

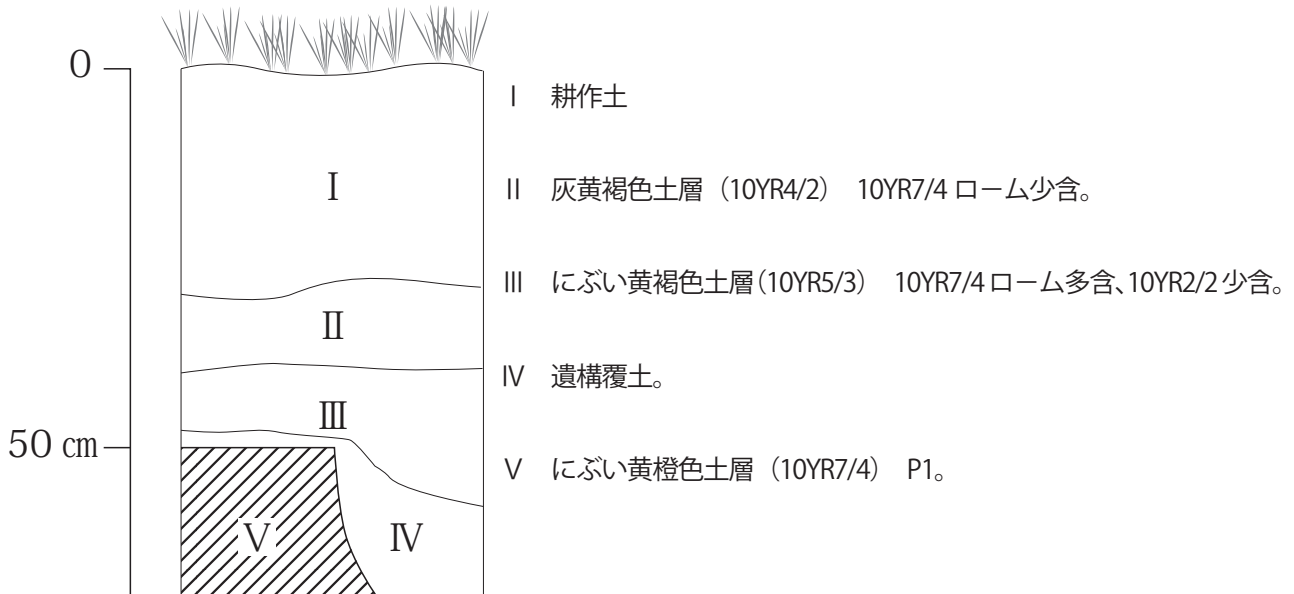


第2図 周辺遺跡分布図

の地域の重要性は更に深まっている。

3 基本層序

基本層序は第3図のとおりである。浅間火山の火砕流の堆積層であるV層（P1）が所謂「地山」であり、その上面で遺構検出は行った。部分的ではあるが、V層の上層として黒褐色土層（10YR2/2）の堆積が存在する。この層は低地部分に堆積したもので、砂粒を含む部分もある。遺構はその上面で確認出来る。



第3図 基本層序模式図

第4節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

- 遺構—竪穴住居址 18 軒、掘立柱建物址 6 棟、土坑 17 基、溝址 1 条、ピット 468 基
- 遺物—縄文土器、土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 住居址

●H1号住居址 (第4・5図)

ひ31グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため、全容は不明である。N-20°-Eに長軸方位をとり、長軸長(3.22 m)、短軸長(2.81 m)壁残高0.58 m、面積(9.92㎡)の規模である。平面形態は長方形で、長方形に均等配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴であり、柱はφ20cm前後である。

南壁下中央に位置する P6 は出入口関連の施設であろう。P1 北に位置する P5 の性格は不明である。北東、北西隅を含む北壁下以外には周溝が巡らされている。カマドは焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分の石が抜き取られ破壊されていた。掘方の観察から、支柱は掘方埋設後、張床構築前に掘られていることが判明した。覆土は自然堆積である。

遺物は、カマド西脇と東壁下中央付近からまとめて出土している。縄文土器、土師器、石器・石製品が認められる。縄文土器は 6 片の破片資料であるが、同一個体の可能性が高い。時期的には前期が推測される。土師器には坏、鉢、甕、壺、甌の器種が認められる。坏 (1) は内外面にヘラミガキ調整が施されるもので黒色処理は認められない。半球状の形態である。甕は大 (6・7)・中 (4・5)・小 (3) の法量に区分できる。3 や 5 のように胴部に最大径を有するものと、その他の口縁部に最大径を有する者が存在する。器面調整は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデを基本とする。壺 (8～10) は外反する口縁部から肩が強く張り出し、球形の体部を形成するもので、ヘラナデ→ヘラミガキ調整が施される。甌には大 (12)、小 (11) の法量が。大は底部全体が開口するもので、口縁部に最大径を有し、底部やや上部に 2 箇所の円孔が穿たれている。刷毛目→ヘラミガキ調整が施される。小は底部に 8 ケの小孔が穿たれるもので、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ調整が施される。石器は黒曜石製の打製石鏃、川原石を用いた編物石が出土している。石鏃は縄文土器に伴うものである。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 7 世紀第 I 四半期の所産と考えられる。

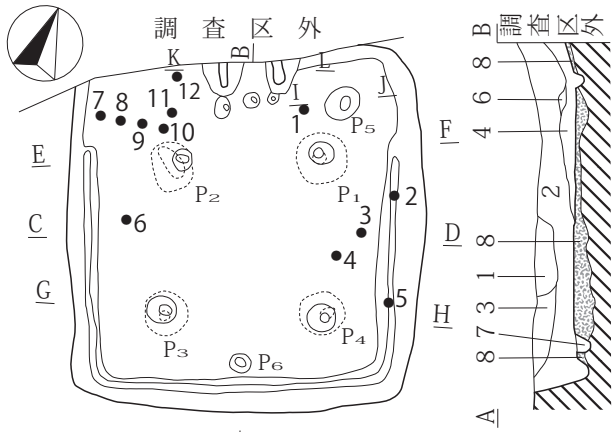
H 1 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	坏	14.6	—	5.7	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	鉢	17.3	7.6	13.2	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No3
3	土師器	甕	9.6	6.3	9.7	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No9
4	土師器	甕	15.1	6.9	17.0	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No11・12・カマド
5	土師器	甕	15.6	6.2	20.0	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No7・II区
6	土師器	甕	20.1	—	<32.0>	—	ハケ目	ハケ目・ヘラナデ	完全実測	No2・II・III・IV区
7	土師器	甕	21.0	4.6	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No10・II区・カマド
8	土師器	壺	16.1	9.1	22.7	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	完全実測	No5
9	土師器	壺	17.9	8.2	29.1	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	回転実測	No7
10	土師器	壺	19.9	8.2	30.0	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	完全実測	No6・IV区
11	土師器	甌	13.8	4.8	8.0	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No8
12	土師器	甌	20.2	10.9	21.2	—	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ・穿孔 2ヶ所	完全実測	No3・4
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁部、後期か?		破片実測・拓本	III区
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	ケン
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文、縄文		破片実測・拓本	II区
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文、縄文		破片実測・拓本	IV区
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片土器・拓本	IV区
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片土器・拓本	II区
19	石器	石鏃	1.8	1.3	0.25	0.32	黒曜石		完全実測	IV層
20	石器	編物石	10.8	6.4	3.4	323.39	片側に挟り・端部に使用痕		完全実測	II区
21	石器	編物石	12.3	7.3	2.8	378.89	2ヶ所に使用痕		完全実測	III区

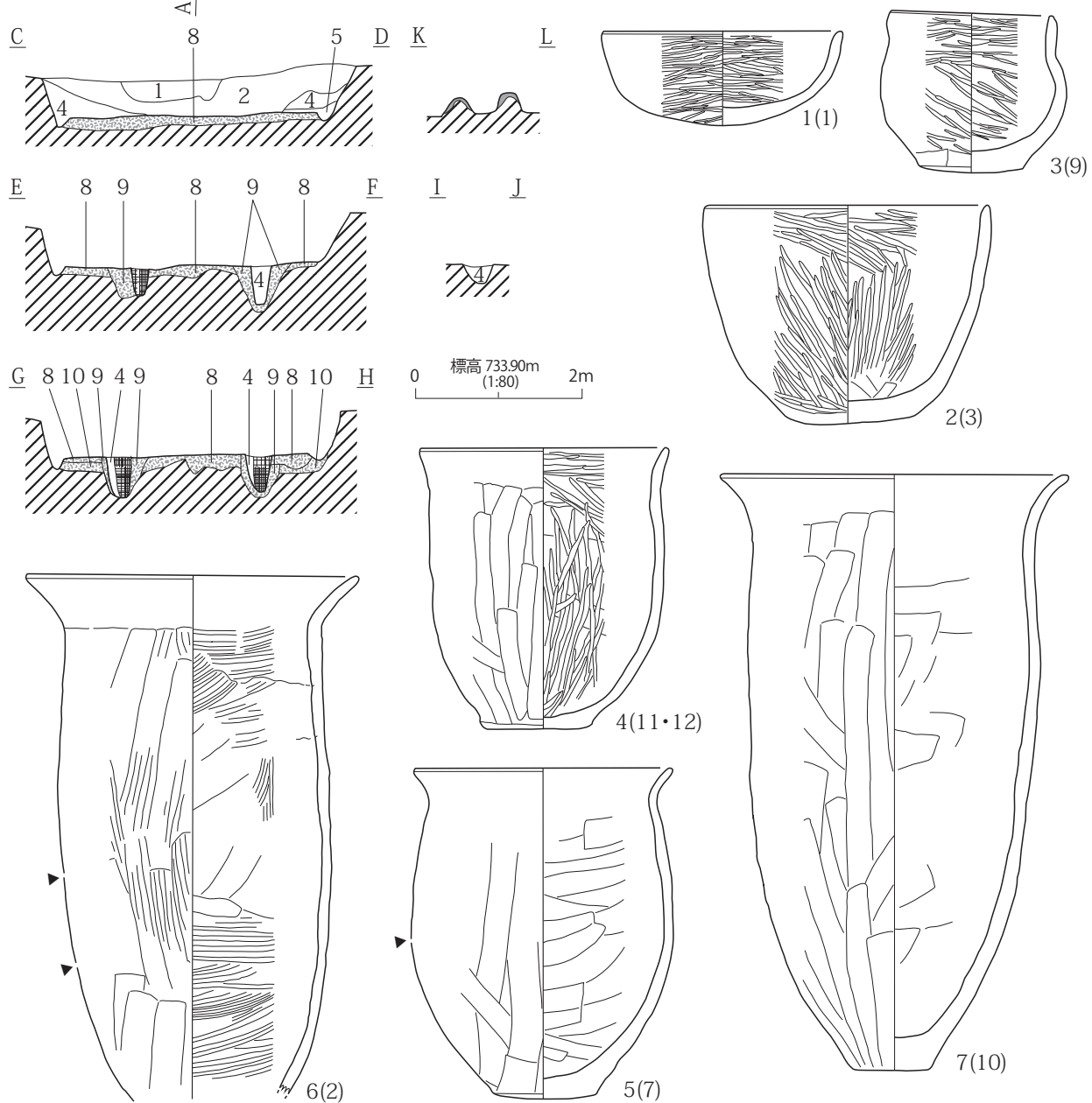
● H 2 号住居址 (第 6 図)

し 15 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため、全容は不明である。D17 号土坑に切られる。壁残高 0.61 m 以外の規模は不明である。平面形態は長方形と思われる。2 基検出されたピットの内、P2 は支柱穴と思われる。柱痕が検出出来なかったため柱の規模も不明である。カマドはカマドは焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分及び支脚の石が抜き取られ破壊されていた。周溝はカマド部分を除く壁下に巡らされていた。覆土は自然堆積である。

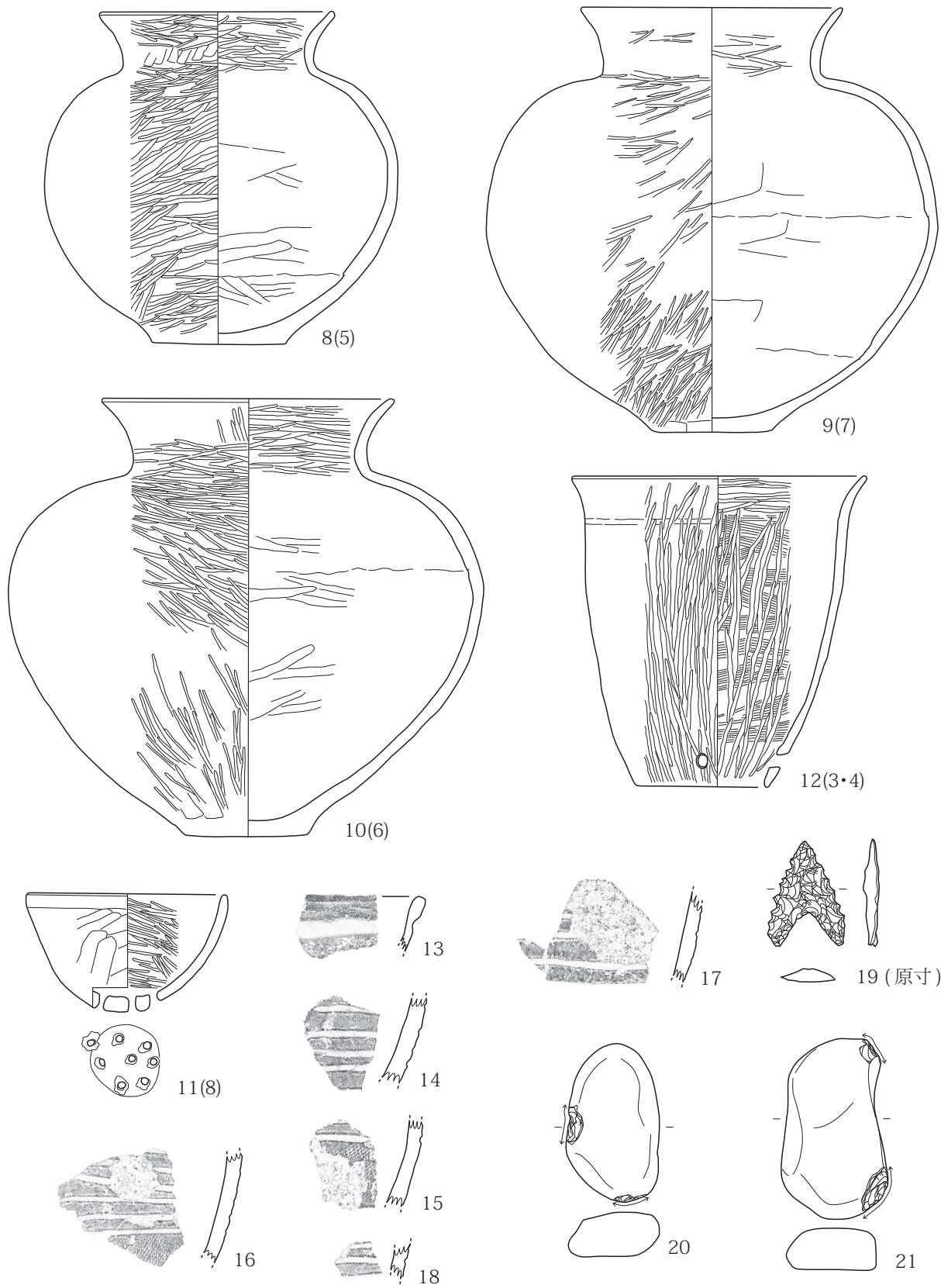
遺物は縄文土器、土師器、石器が出土している。縄文土器は中期後半加曾利 E 系の破片で、深鉢の体部である。土師器には坏と甕の器種が認められる。坏 (1) は内外面ヘラミガキ調整後、内面には黒色処理が施



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/3 ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/3 ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/3 ローム少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) 10YR7/3 ローム多含。
5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
6. 7.5YR6/2 粘土・10YR7/4 ローム混在。
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土主体、ロームブロック少含。
- ⑧ 黄褐色土層 (10YR8/6) ローム主体。
- ⑨ にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 黒色土ブロック多含。
- ⑩ 明黄褐色土層 (10YR7/6)。
- 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱痕。
- 橙色土層 (5YR7/6) カマド構築粘土。



第4図 H1号住居址(1)



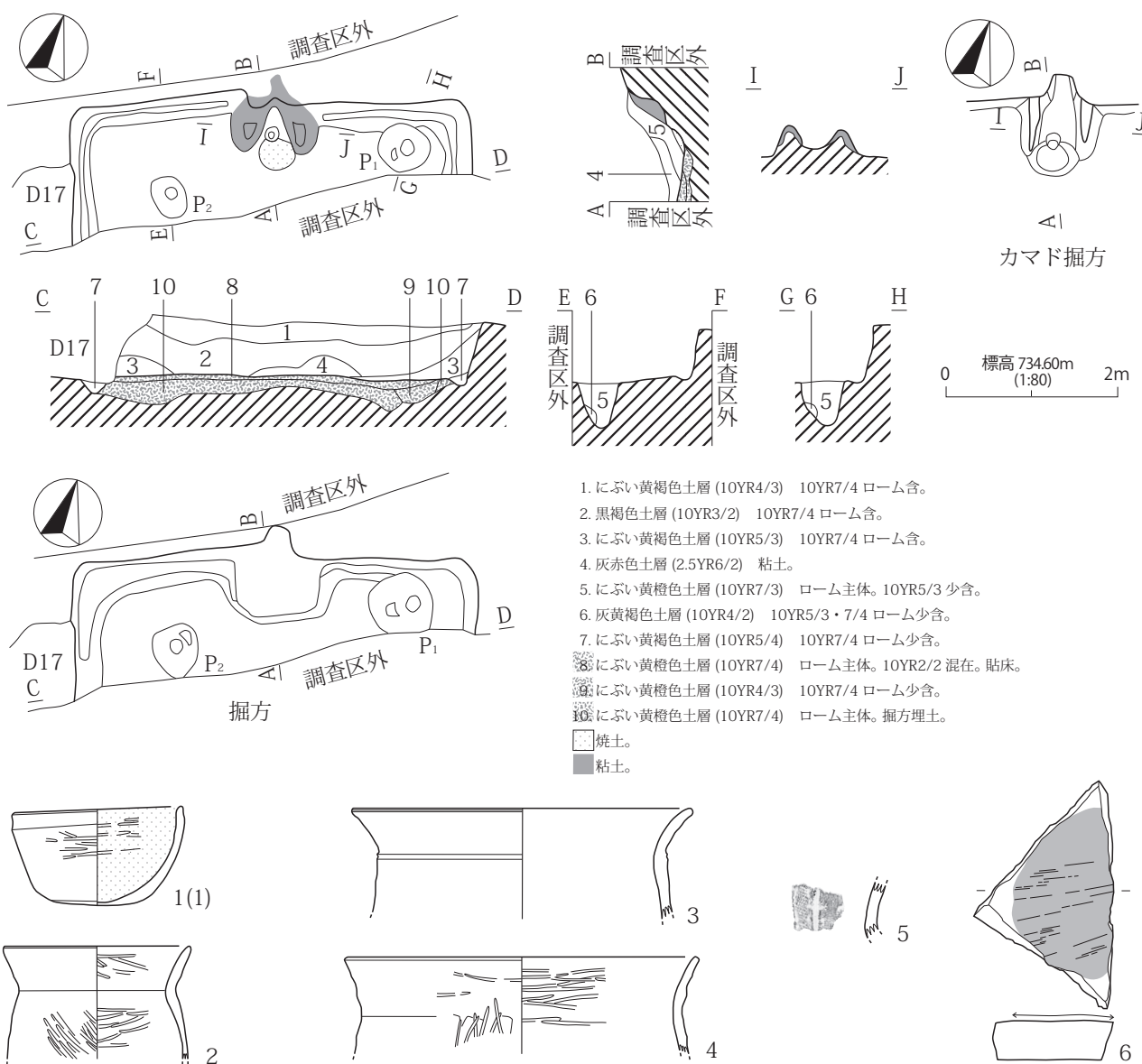
第5図 H1号住居址(2)

されている。甕は小型（2）のものと大型（3・4）の法量のもの認められる。何れも口縁部に最大径を有している。石器は砥石（6）が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期後期7世紀第I四半期の所産と考えられる。

H2号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	坏	10.0	5.2	5.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	甕	(11.0)	—	<6.6>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	I区・II区
3	土師器	甕	(20.0)	—	<6.5>	—	摩耗	摩耗	回転実測	I区
4	土師器	甕	(20.4)	—	<5.7>	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	P2
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	I区
6	石器	砥石	13.3	8.2	2.3	300.88	磨り面	—	完全実測	II区



第6図 H2号住居址

●H 3号住居址（第7図）

し11グリットで検出された。M1号溝址に切られる。北側と南側が調査区外にのびるため全容は不明である。また、住居址の北壁は、田切り谷により侵食されている。そのため、壁残高0.32m以外の規模は不明である。2基検出されたピットは何れも主柱穴である。調査範囲内にはカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は縄文土器、土師器、須恵器、石器が出土している。縄文土器は中期後半の深鉢型土器の口縁部破片である。土師器には坏（1）、甕（3・4）、壺（5～7）、甑（8）の器種が認められる。坏は内外面ヘラケズリ調整後、内面に黒色処理が施されている。半球状の形態である。甕は口縁部に最大径を有し、外面にはヘラケズリ、内面にはナデ調整が施される。壺は外反する口縁部と、球形の体部を有する。H1号住居址出土ものは肩が強く張り出しているが、本例は肩が張り出さない。ヘラナデ→ヘラミガキ調整が施される。甑は把手が付く大型のもので、底部が開口する。内外面共にヘラミガキ調整が施される。須恵器坏はロクロから回転ヘラ切りにより切り離されており、内外面に火襷が認められる。混入遺物と考えられる。石器は、川原石を用いた編物石が2点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

H 3号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	14.0	—	4.8	—	ヘラミガキ→黒色処理	摩耗	完全実測	No4・M1
2	須恵器	坏	(13.4)	(8.8)	3.5	—	ロクロナデ・火襷	ロクロナデ→底部ヘラケズリ・火襷	回転実測	ケン
3	土師器	甕	18.6	—	<27.7>	—	摩耗	摩耗	完全実測	ケン・M1
4	土師器	甕	—	—	<13.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	壺	16.1	—	<7.7>	—	口縁ヘラミガキ・体部ナデ	ヘラミガキ	完全実測	No2
6	土師器	壺	21.3	7.2	30.6	—	ヘラミガキ・摩耗	ヘラミガキ・摩耗	完全実測	No3・M1
7	土師器	壺	—	10.9	<9.8>	—	ヘラミガキ	摩耗	完全実測	No5・Ⅰ区
8	土師器	甑	23.6	9.2	29.2	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No1・Ⅰ区
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	Ⅱ区
10	石製品	編物石	10.2	7.6	3.5	385.59	片側に挟り		完全実測	ケン
11	石製品	編物石	13.1	6.9	3.3	390.06	片側に挟り		完全実測	ケン

●H 4号住居址（第8図）

う6グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められない。壁残高0.56m以外の規模は不明である。調査範囲にはピット及びカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と鉄器が出土している。土師器は鉢であり、内外面にヘラミガキ調整後、内面に黒色処理を施している。鉄器は長茎鏃の鏃身部の破片である。

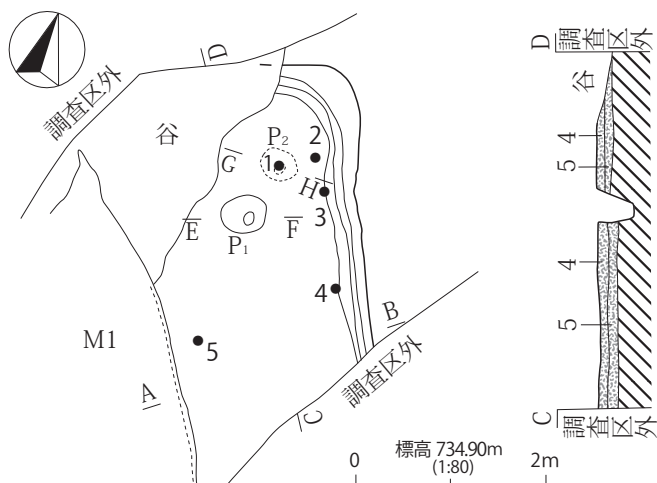
以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期7世紀第Ⅰ四半期の所産と考えられる。

H 4号住居址出土遺物観察表

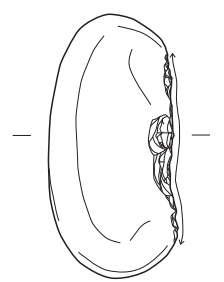
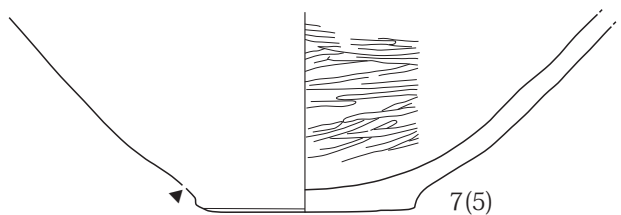
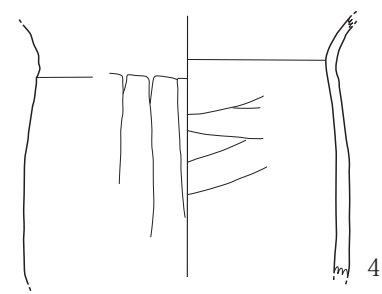
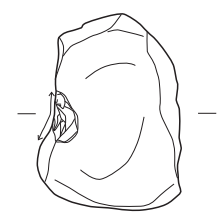
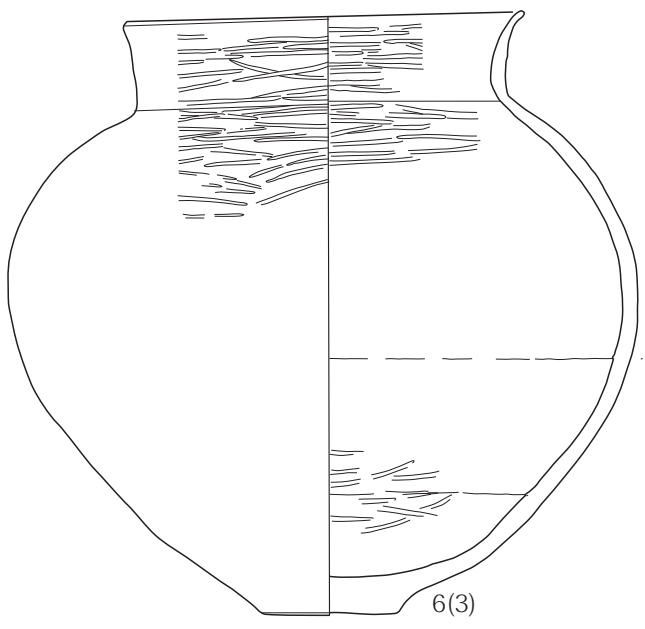
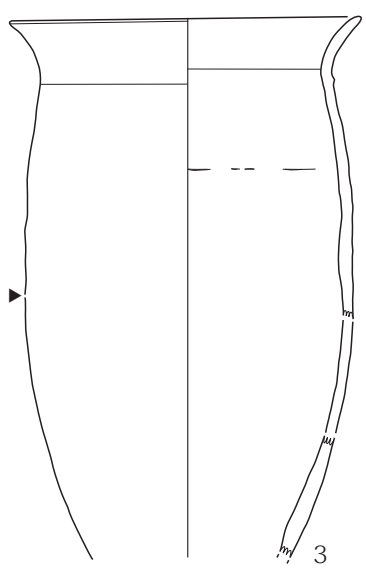
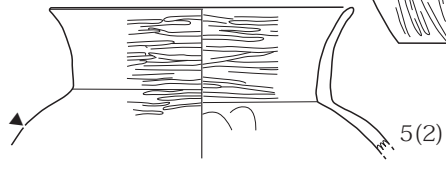
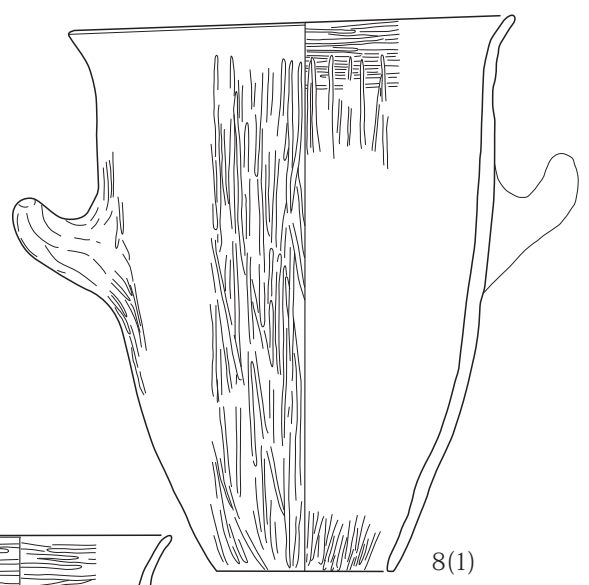
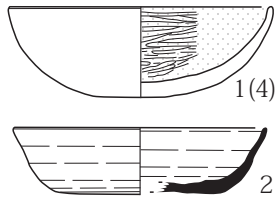
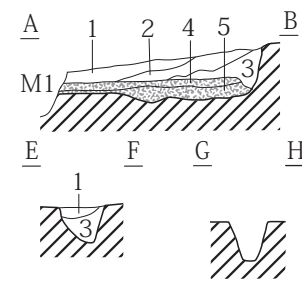
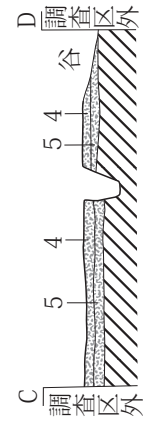
No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	鉢	12.5	—	8.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	鉄器	長茎鏃	<8.5>	<10.8>	<0.4>	<11.57>	鏃身部・茎部欠損		完全実測	No2

●H 5号住居址（第9・10図）

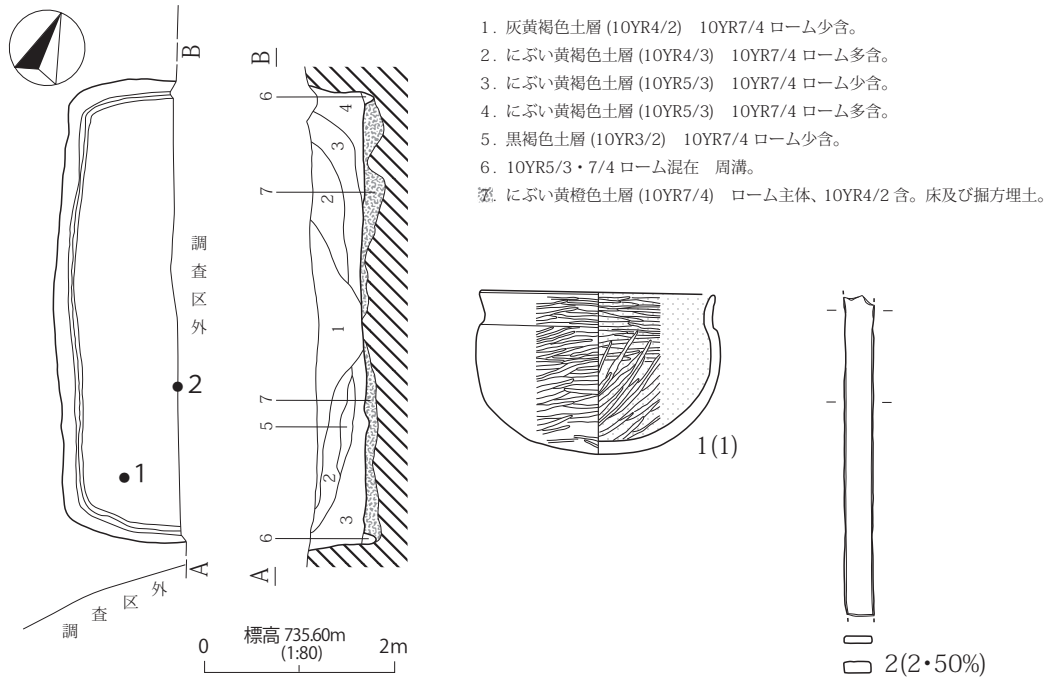
う8グリットで検出された。南東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲内においては



- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR7/3) ローム主体、10YR5/3 含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム少含。
- 3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3 少含。
- ※ 10YR7/4 ローム・3/2 混在 貼床。
- ※ にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR3/2 少含。堀方埋土。



第7図 H3号住居址



第8図 H4号住居址

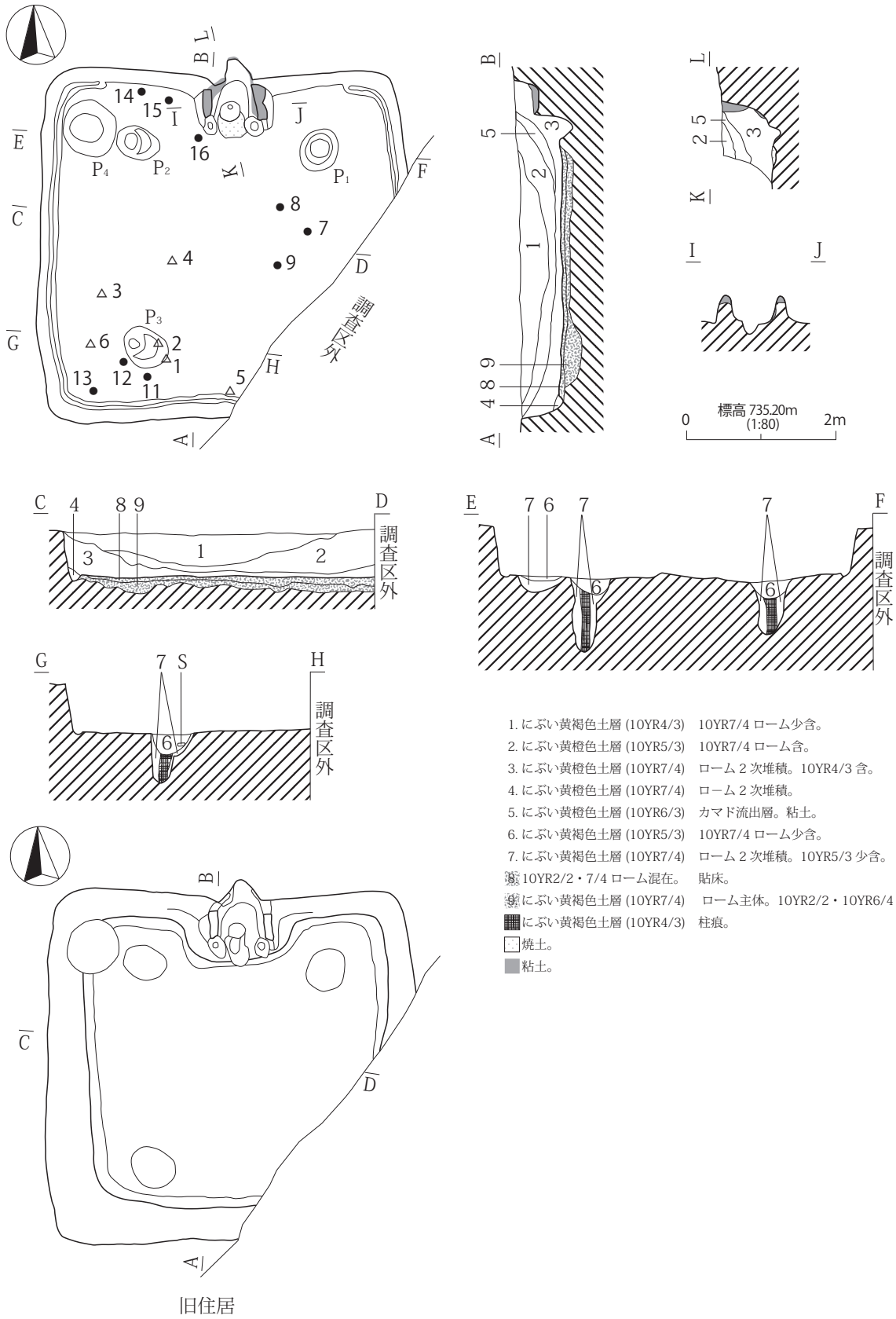
他遺構との重複関係は有さない。正方形の平面形態を呈し、N-4°-Wに長軸方位をとる。長軸長（4.21 m）、

短軸長（3.87 m）壁残高0.55 m、面積（17.86㎡）の規模である。長方形に均等配置されるであろうP1～P3の3基のピットが支柱穴であり、柱はφ14cm前後である。北西隅に位置するP4は貯蔵穴である。カマドは北壁中央に検出された。焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分及び支脚石が抜き取られ破壊されていた。カマド付近を除く壁下には周溝が巡っている。掘方の調査により本址は、カマドを起点として拡張された住居址であることが判明した。

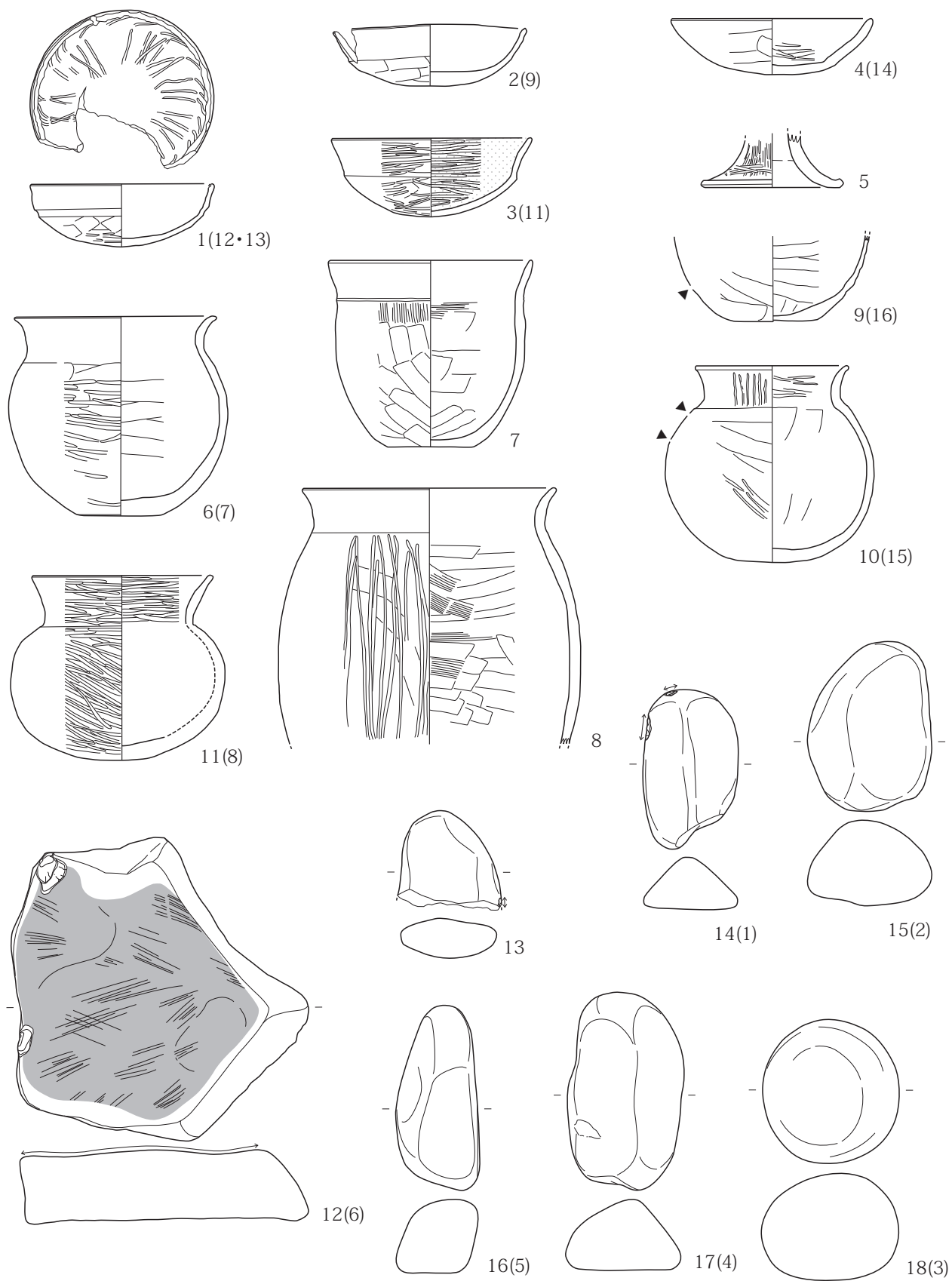
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏（1～4）、高坏（5）、甕（6～9）、壺（10・11）の器種が認められる。坏は1が所謂「有段口縁坏」であり、内面にはヘラミガキではなく、粗い放射暗文

H5号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	坏	12.9	11.4	4.4	—	暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No12・13
2	土師器	坏	13.5	11.4	4.3	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No9
3	土師器	坏	14.1	12.1	5.5	—	ヘラミガキ→黒色処理?	ヘラミガキ→黒色処理?	完全実測	No11・Ⅲ区
4	土師器	坏	14.2	8.1	3.9	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No14
5	土師器	高坏	—	9.5	<3.8>	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区
6	土師器	甕	14.2	6.1	14.0	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No7・I区
7	土師器	甕	(14.4)	(6.0)	13.1	—	ハケ目→ヘラナデ	ハケ目→ヘラケズリ	回転実測	I区・カマド
8	土師器	甕	(17.8)	—	<17.9>	—	ハケナデ?	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区・P1
9	土師器	甕?	—	6.1	<6.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No16・カマド
10	土師器	壺	10.8	—	13.8	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No15
11	土師器	壺	12.7	—	12.9	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No8
12	石器	台石	21.3	20.8	5.6	3405	正面に使用面	—	完全実測	No6
13	石器	編物石	<7.0>	<7.2>	<3.2>	<161.61>	下部欠損・側面に挟り	—	完全実測	IV区
14	石器	編物石	11.1	6.6	3.8	355.28	端部に使用痕	—	完全実測	No1
15	石器	編物石	11.9	8.7	6.0	544.16	—	—	完全実測	No2
16	石器	編物石	12.9	5.9	5.2	590.68	—	—	完全実測	No5
17	石器	編物石	13.9	8.2	5.2	845.76	—	—	完全実測	No4
18	石器	磨石	10.1	9.6	7.6	983.70	全体に磨り	—	完全実測	No3



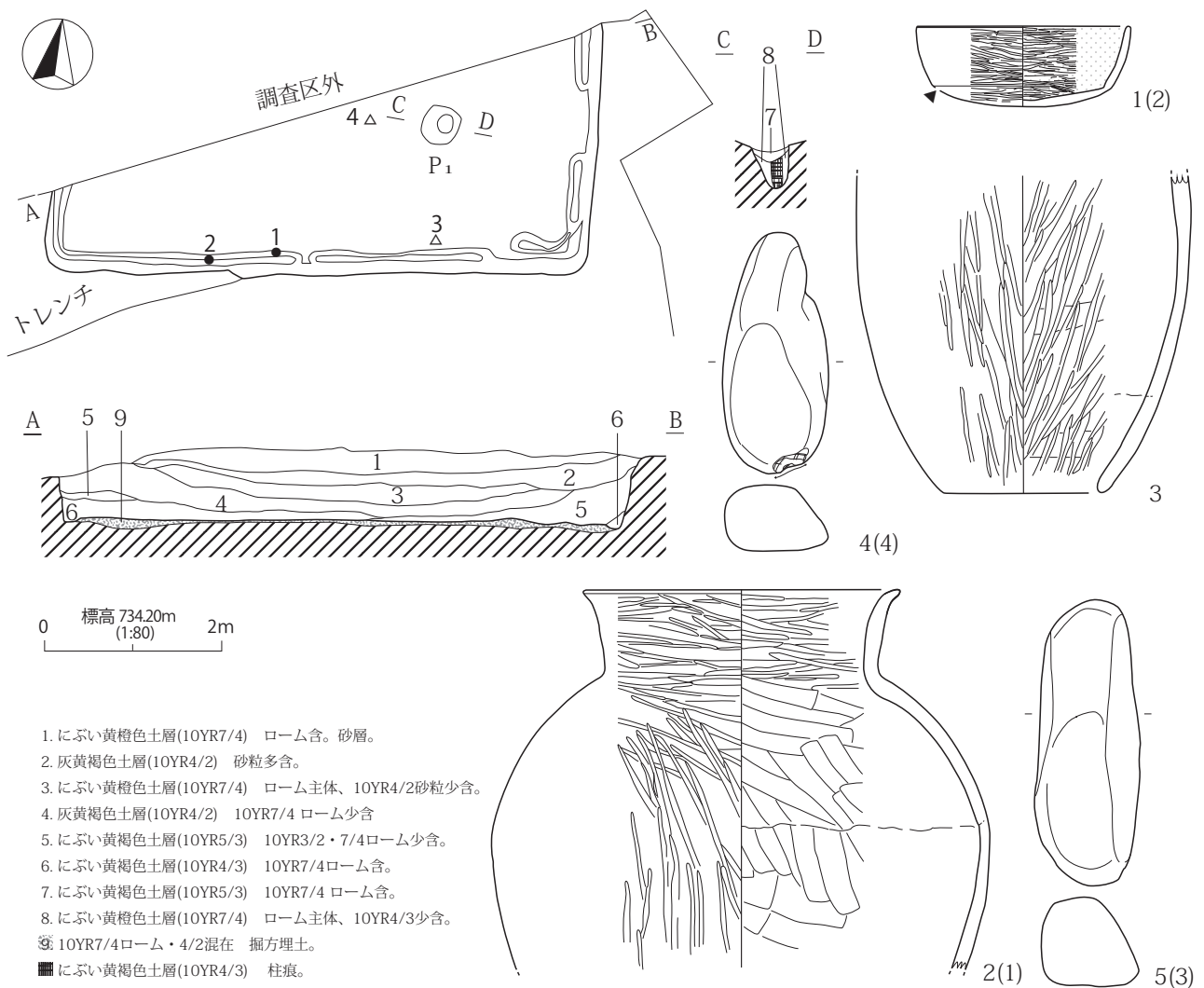
第9図 H5号住居址(1)



第10図 H5号住居址(2)

が施される。他のものは体部と口縁部の境に稜を形成するもので、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ調整を基本とする。黒色処理は3のみ施されている。高坏は脚部裾部分のみの破片である。甕には小と大の法量が認められる。小型の6は鉢としたほうが良いのかもしれない。7は口縁部に最大径を有し、下地調整に刷毛状工具を使用している。大型の8は体部に最大径を有する。外面にはヘラケズリ後に、粗いヘラミガキを施している。内面は刷毛状工具によるナデ調整が施されている。壺は2点共に小型のもので外反する口縁部と、球形の体部を有する。内外面共にヘラミガキ調整が施されている。石器は扁平な川原石を利用した砥石(12)、同じく川原石を用いた編物石(13~17)、磨石(18)が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末~7世紀初頭の所産と考えられる。



第11図 H6号住居址

H6号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(12.2)	(10.2)	4.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	No2
2	土師器	壺	(18.0)	—	<21.5>	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	No1
3	土師器	甕	—	(9.6)	<18.0>	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	覆土
4	石器	編物石	13.5	6.0	4.1	373.32	端部に使用痕		完全実測	No4
5	石器	編物石	16.2	6.0	5.0	682.20	—		完全実測	No3

●H 6号住居址（第 11 図）

か 17 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.75 m 以外の規模は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められなかった。床面上で 1 基検出されたピットは支柱穴であり、 ϕ 13cm の柱痕が確認された。カマドは調査範囲には存在しない。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏（1）、壺（2）、甑（3）の器種が認められる。坏は内外面ヘラミガキ調整後、内面に黒色処理が施されている。壺は大型のもので外反する口縁部と、球形の体部を有する。内面口縁部と外面にヘラミガキ調整が、内面体部にはヘラナデ調整がほどこされている。甑は大型で、底部が開く形態で内外面共にヘラケズリ後にヘラミガキ調整が施されている。石器は川原石を用いた編物石が 2 点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 6 世紀末～7 世紀初頭の所産と考えられる。

●H 7号住居址（第 12 図）

え 20 グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.67 m 以外の規模は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められなかった。西南隅から南壁下には周溝が巡らされている。また、支柱に向かい壁下から間仕切りと思われる溝がのびている。床面上で 2 基検出されたピットの内、南側の間仕切り溝に連結するピットは支柱穴であり、 ϕ 22cm の柱痕が確認された。調査範囲内にはカマドは存在しなかった。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と鉄器が出土している。土師器には鉢（1）、甕（2）、壺（3）の器種が認められる。鉢は外面がヘラケズリから粗いヘラミガキ調整が、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されている。甕は口縁部に最大径を有し、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ調整が施されている。壺は口縁部が広く、頸部であまりすばまらない器形を呈する。内外面にヘラミガキ調整が施されている。鉄器は刃部を欠損する刀子が 1 点出土した。

H 7号住居址出土遺物観察表

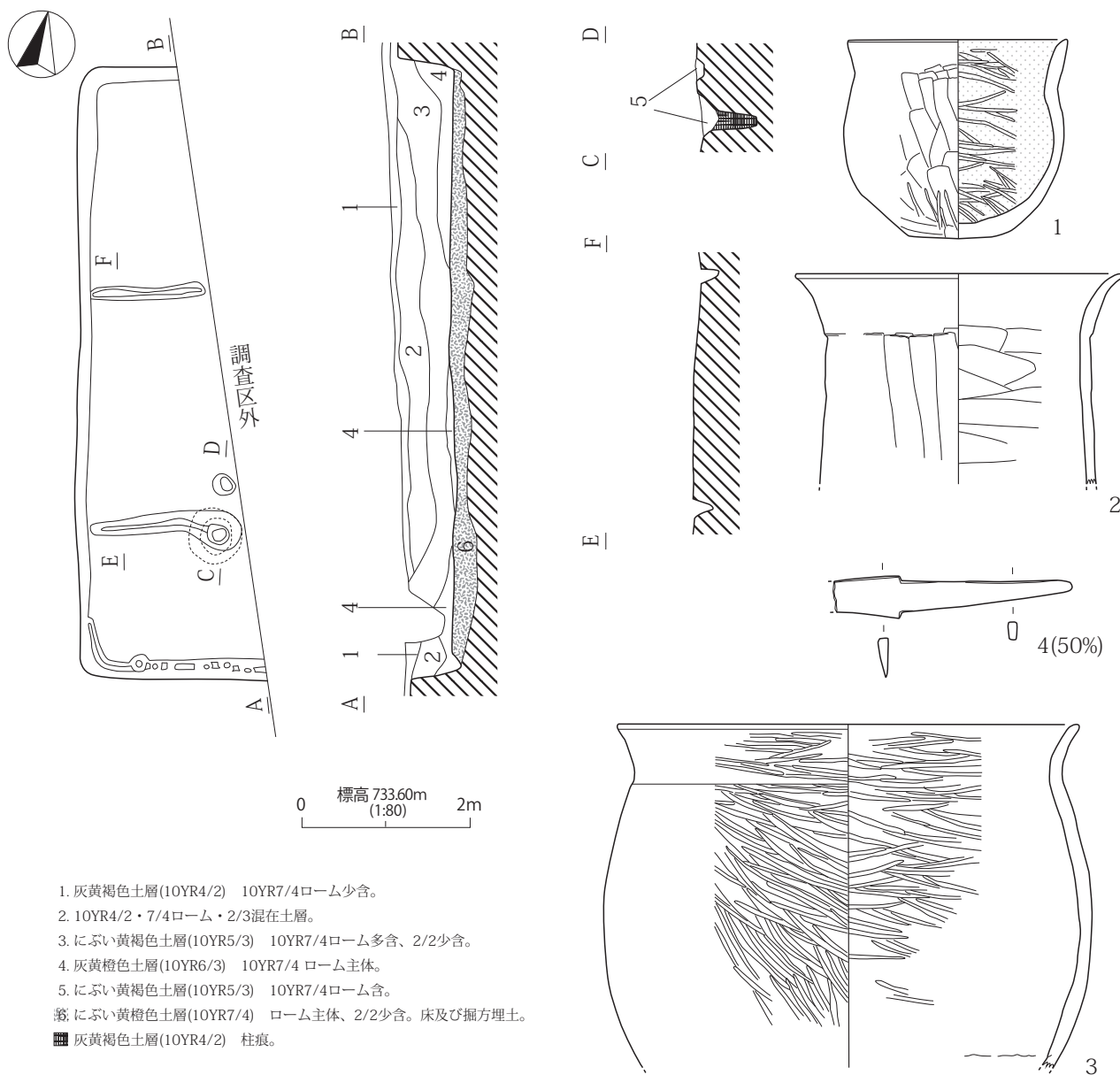
No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	鉢	13.2	5.9	11.9	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	覆土
2	土師器	甕	(19.6)	—	<12.6>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	壺	(27.6)	—	<20.5>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土
4	金属製品	刀子	<7.2>	1.3	<0.3>	<7.28>	刃部欠損		完全実測	覆土

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 7 世紀第 I 四半期の所産と考えられる。

●H 8号住居址（第 13 図）

う 24 グリットで検出された。F 3号掘立柱建物址、P 345、P 474 に切られる。正方形の平面形態で、N—38°—E に長軸方位をとる。長軸長 2.88 m、短軸長 2.73 m、壁残高 0.24 m、面積 8.60m² の規模を有する。北壁下を除き周溝が巡るが、南壁下は壁下ではなく内回りである。床面上、掘方から計 4 基のピットが検出されたが、支柱は判然としない。カマドは北壁中央部分に構築されており、石芯を粘土で被覆していたものと思われるが、石が抜かれ破壊されていた。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器、須恵器、鉄器が出土している。土師器は 2 点共に坏（1・2）であるロクロ成型で、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。底部が残存する 1 は右回転の糸切痕が残されており、判読はできないが、体部には墨書が認められる。須恵器は甕（3）の体部片で外面に平行叩目、内面には当具痕が認められ



第12図 H7号住居址

る。鉄器は4が刀子、5は器種は不明である。4の刀子は茎部に木質が残存している。

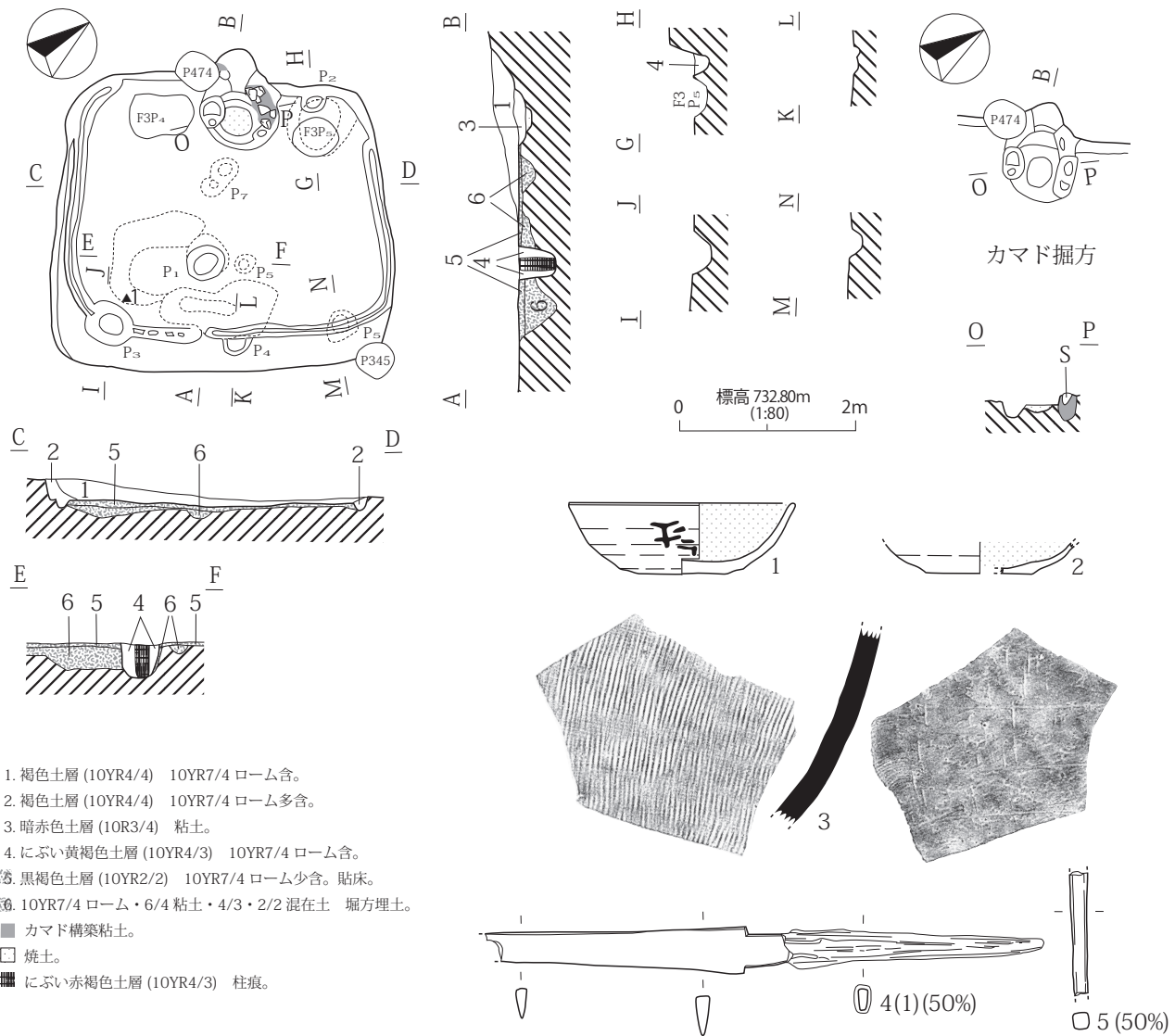
H8号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(13.0)	(5.0)	4.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切・墨書「？」	回転実測	I区
2	土師器	坏	—	(6.2)	<1.8>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	カマド
3	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測	I区
4	鉄器	刀子	<16.0>	1.3	<0.7>	<18.44>	刃部欠損、木質残る		破片実測	No1
5	鉄器	不明	<3.5>	<0.5>	<0.5>	<3.17>	両端欠損		破片実測	II区

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代10世紀前半の所産と考えられる。

●H9号住居址 (第14・15図)

ひ28グリットで検出された。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.31m以外の



第13図 H8号住居址

規模は不明である。P449を切っている。ピットは掘方から1基検出されているが性格は不明である。カマドは北壁の中央に構築されているが、破壊されていた。石芯を粘土で被覆していたものと思われる。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。土師器には坏(1・2・3)、碗(4・5)、甕(8・9)の器種が認められる。坏は内面へラミガキ後黒色処理を基本とし、底部は1が右回転糸切痕を残すのに対し、2は底部周縁を含めた範囲にヘラケズリを加え糸切痕を消している。3は墨書が認められるが、判読できない。碗も坏同様に内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。ロクロからの切り離しは回転糸切で、その後高台を貼付している。甕は武蔵甕で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施されている。口縁部は「コ」字である。須恵器には坏(6・7)と甕(10・11)の器種が認められる。坏は2点共に底部に回転糸切痕を残す。甕は10が広口甕の口縁部片、11は大型の甕の肩部分の破片である。10は内外面ロクロナデが、11は外面に平行叩目、内面には当具痕が認められる。石器は12の磨石が1点出土している。鉄器は背部分に木質が残る器種不明品が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。

H 10 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	甕	11.4	7.0	13.2	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	カマド
2	土師器	甕	21.8	6.7	33.1	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	No1・Ⅱ区・カマド
3	土師器	壺	—	—	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	覆土

●H 10 号住居址 (第 16 図)

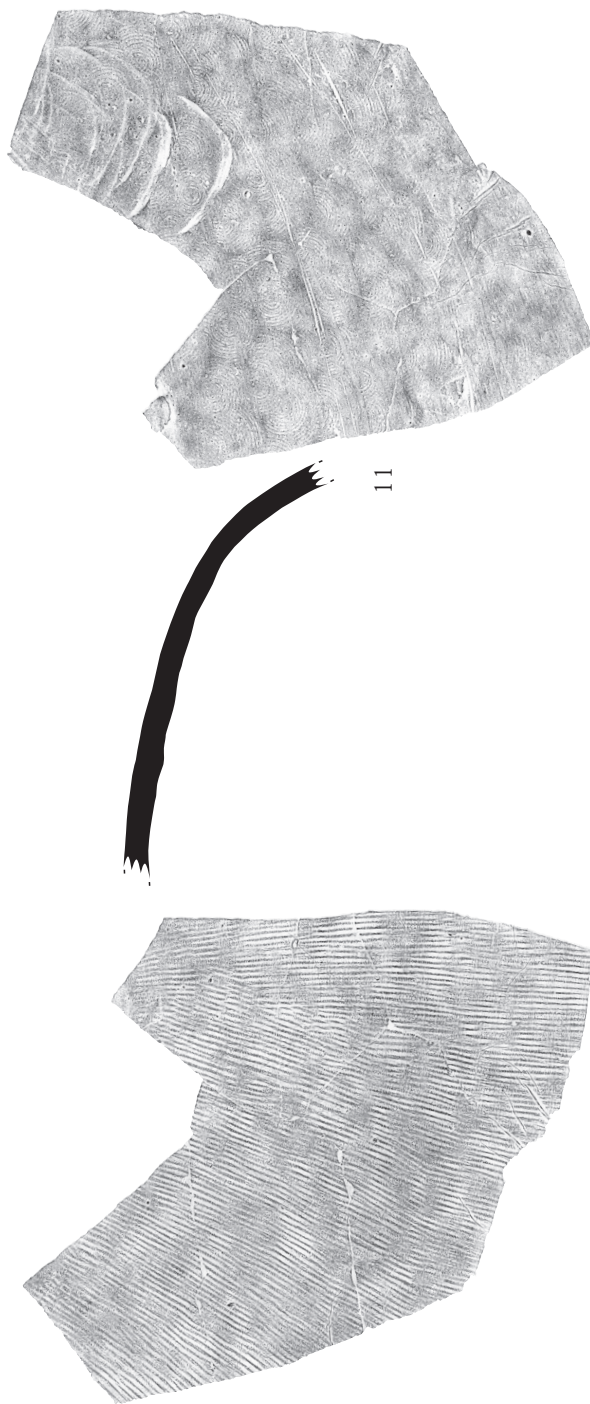
と 26 グリットで検出された。H 11 号住居址を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.51 m 以外の規模は不明である。カマドは北壁中央に構築されていた。所謂「地山削出」の構造であるが、焚口部分の石は抜き取られていた。カマドを除く壁下には周溝が巡らされていた。床面及び掘方からもピットは検出されなかった。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器が 3 点出土している。器種的には甕 (1・2) と壺 (3) が認められる。1 は小型の甕で、内面ハケメ、外面ハケメ→ヘラケズリ調整が施される。2 は大型の甕で、調整は 1 と同様である。1 は体部に、2 は口縁部に最大径を有する。3 は壺の底部である。内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ→ヘラミガキ調整が施される。外面に認められるヘラの痕跡が、文字等のような意図的なものなのか否かは判断できない。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 7 世紀第 I 四半期の所産と考えられる。

●H 11 号住居址 (第 17 図)

て 25 グリットで検出された。H 10 号住居址、P 473 号ピットに切られる。正方形の平面形態で、N - 14° - E に長軸方位をとる。長軸長 4.53 m、短軸長 4.49 m、壁残高 0.45 m、面積 22.25㎡の規模である。カマド部分と、北西隅以外の壁下には周溝が巡らされる。P1 から P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われるが、柱痕は確認できなかった。南壁下中央の P10・11 の 2 基のピットは出入口に関連する施設と思われるが、北西隅の P13 ~ 15 の 3 基のピットで構成される部分も出入口の可能性が否定できない。カマドは所謂「地山削出」の構造であるが、石が全て抜き取られ破壊されていた。覆土は人為埋土ないし、人為的に攪拌された土の二次堆積土である。



第 15 図 H 9 号住居址 (2)

遺物は土師器、石器が出土した。土師器には坏（1～3）、甕（4）の器種が認められる。坏は全て内外面ヘラミガキ調整で、内面には黒色処理が施される。甕は口縁部に最大径を有するもので、内面口縁部にハケメ、体部にナデ、外面はヘラケズリご粗いヘラミガキ調整が施されている。石器（5～7）は川原石を用いた編物石が3点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

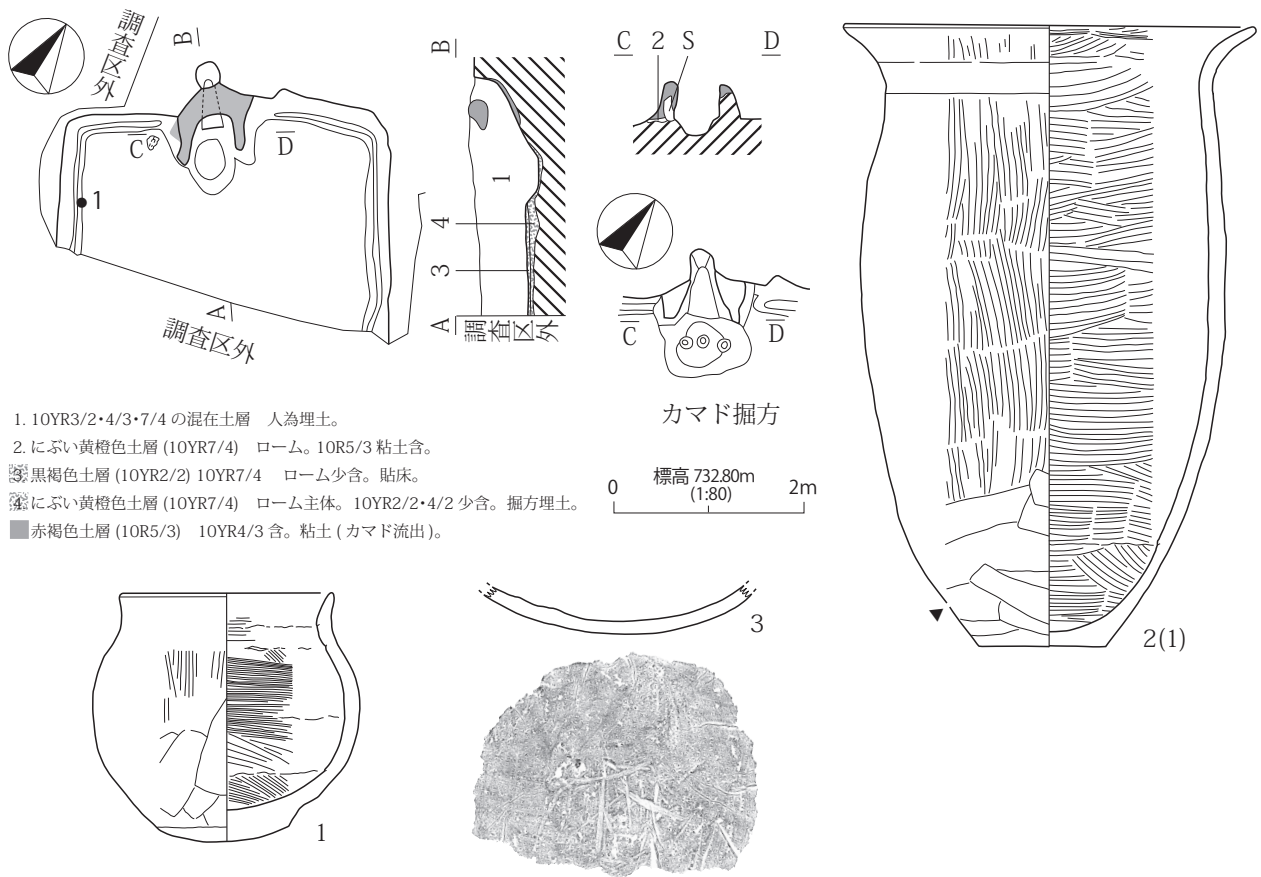
H 11 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(10.9)	—	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅲ区・
2	土師器	坏	(15.4)	—	<3.9>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区・P11
3	土師器	坏	(16.0)	(10.0)	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	摩耗	回転実測	Ⅲ区・カマド・P5
4	土師器	甕	(20.2)	—	<21.6>	—	口縁ハケ目?体部ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	No1・Ⅱ区
5	石器	編物石	11.7	5.0	3.7	291.19			完全実測	I 区
6	石器	編物石	11.7	6.0	4.0	420.04	端部の剥離は使用痕か		完全実測	I 区
7	石器	編物石	13.3	7.6	4.0	498.23			完全実測	I 区

●H 12 号住居址（第 18 図）

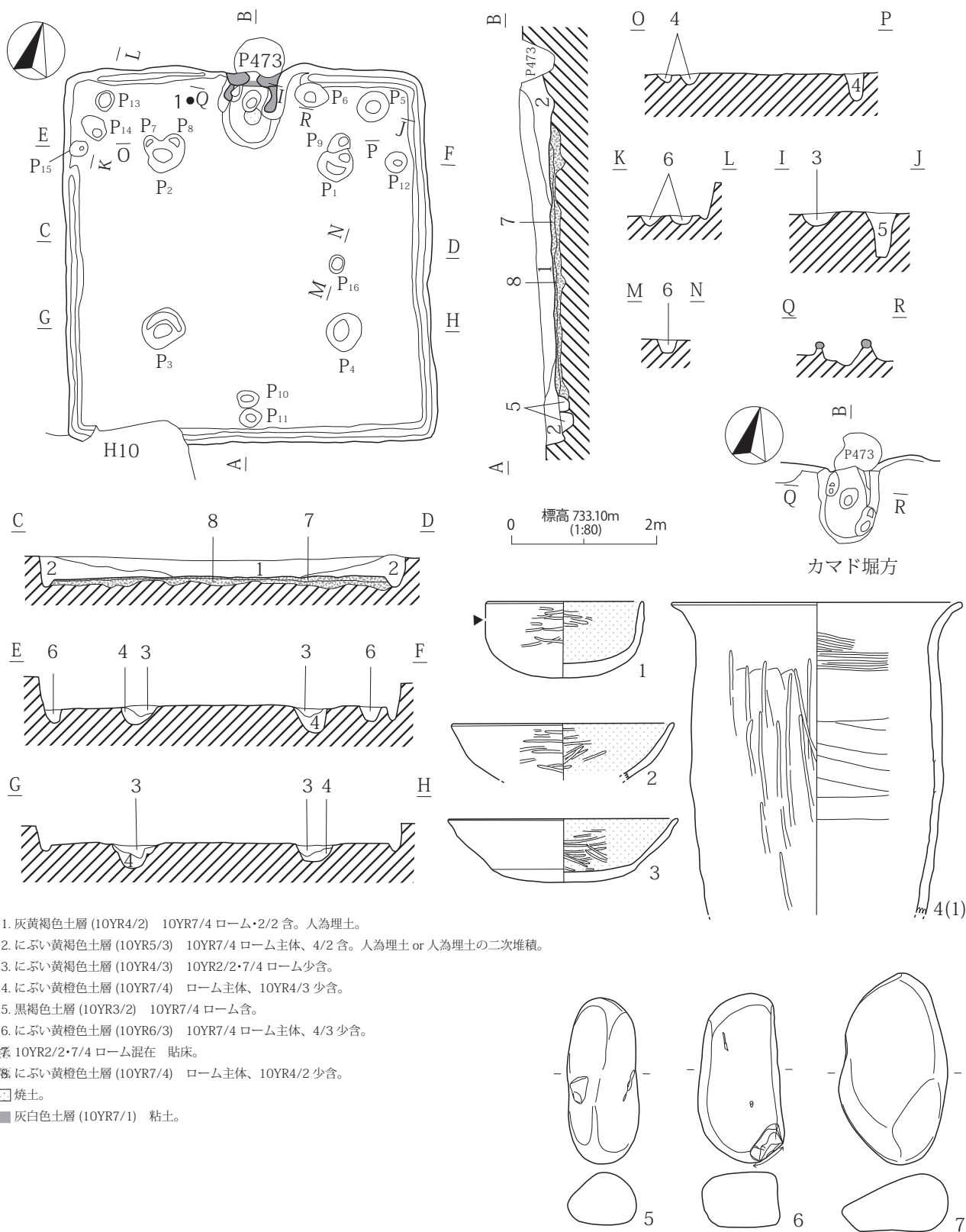
つ 21 グリットで検出された。P267・268 ピットに切られる。西および南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.58 m 以外の規模は不明である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされている。P1 は支柱穴であり、φ 0.12 m の柱痕が確認された。カマドは所謂「地山削出」の構造であるが、石が全て抜き取られ破壊されていた。覆土は人為埋土ないし、人為的に攪拌された土の二次堆積土である。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土した。縄文土器 7 は後期堀之内式の深鉢体部片である。8 は後期の



- 1. 10YR3/2・4/3・7/4 の混泥土層 人為埋土。
- 2. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム。10R5/3 粘土含。
- 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。貼床。
- 4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR2/2・4/2 少含。掘方埋土。
- 5. 赤褐色土層 (10R5/3) 10YR4/3 含。粘土 (カマド流出)。

第 16 図 H10 号住居址



第17図 H11号住居址

H 12 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(12.2)	(10.6)	<3.0>	—	ヘラミガキ	口縁ヘラミガキ・底部ヘラケズリ	回転実測	I 区・II 区
2	土師器	坏	(14.6)	(11.6)	<4.5>	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	カマド
3	土師器	坏	(16.8)	(9.2)	<4.3>	—	ヘラミガキ→黑色処理	ヘラミガキ	回転実測	ケン
4	土師器	高坏	—	—	<9.8>	—	坏部ヘラミガキ・脚部ヘラナデヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	No2
5	土師器	甕	20.2	7.6	36.4	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	No1
6	土師器	甕	—	(9.4)	<3.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I 区
7	縄文土器	深鉢				—	後期堀之内式		破片実測・拓本	II 区
8	縄文土器	土器片円盤	7.0	7.1	1.0	—	後期		完全実測・拓本	I 区
9	石器	編物石	11.2	6.0	3.3	279.64	縁辺に使用痕		完全実測	I 区
10	石器	編物石	11.9	7.1	4.0	456.30	両側に挟り		完全実測	I 区
11	石器	磨石	7.0	6.8	2.5	150.28	表面に磨り面		完全実測	I 区

無文深鉢土器片を利用した土器片円盤である。土師器は坏（1～3）、高坏（4）、甕（5・6）の器種が認められる。坏は1が内面ヘラミガキ、外面体部ヘラケズリ・口縁部ヘラミガキ、2は所謂「有段口縁坏」で外面体部ヘラケズリ調整の他は内外面ナデ調整である。3は内面ヘラミガキ後黑色処理、外面体部ヘラケズリ・口縁部ヘラミガキ処理が施されている。高坏は長脚で、坏部に稜を有する。脚内を除く内外面にヘラミガキ調整が施される。脚内はナデ調整である。甕5は口縁部に最大径を有する。底部と体部の境に稜を形成する。内面ハケ目、外面ハケ目→ヘラケズリ調整が施される。甕6は底部片であり、内面ナデ、外面ヘラケズリ調整が施される。石器は3点共に川原石を用いている。9・10が編物石、11が磨石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

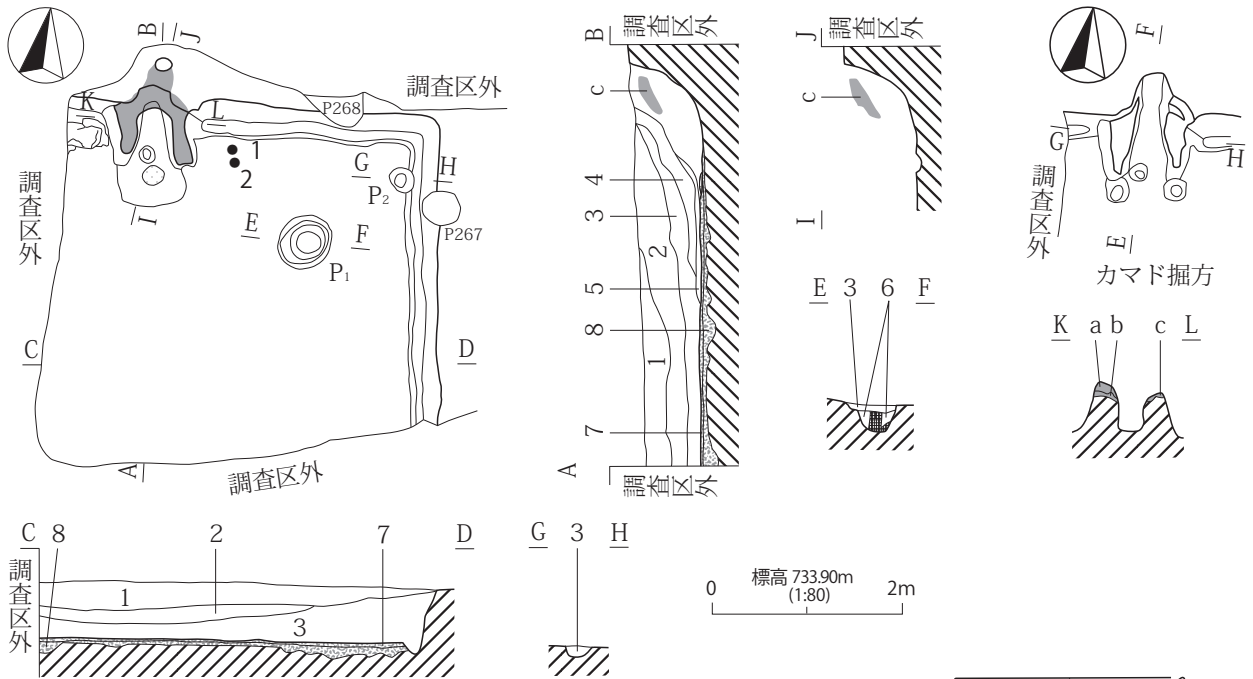
●H 13 号住居址（第 19 図）

く 22 グリットで検出された。P167・185 号ピットに切られる。正方形の平面形態で、N－40°－Wに長軸方位をとる。長軸長 2.94 m、短軸長 2.73 m、壁残高 0.43 m、面積 8.95m²の規模である。カマドは東壁の東南隅よりの位置に構築される。石芯を粘土で被覆しているが、天井部分は現存しない。南西・南東隅と南壁部分を除き壁下には周溝が巡っている。カマド北脇の掘方から 1 基検出された他はピットは存在しない。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には坏（1～9）、皿（10～12）、甕（14）の器種が認められる。坏は底部に回転糸切痕を残す。回転方向は右である。ヘラミガキ→黑色処理のものと、黑色処理が施されないもの、ナデ調整だけのものが混在する。皿は付高台で、底部に回転糸切痕を残す。内面はヘラミガキ→黒

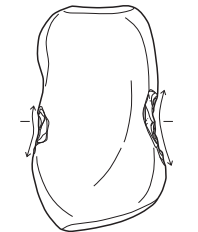
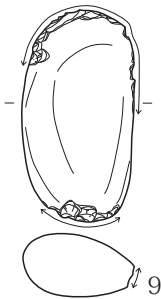
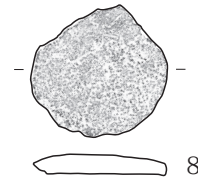
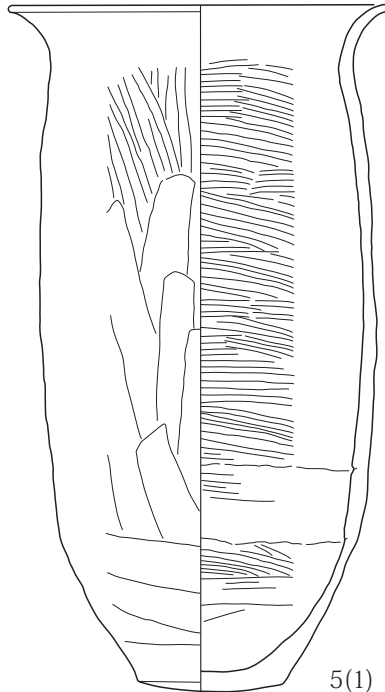
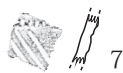
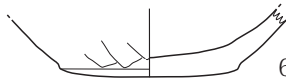
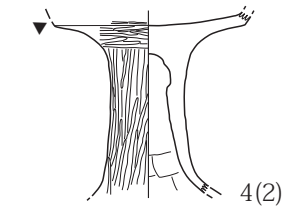
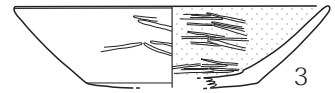
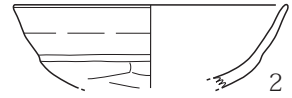
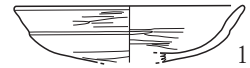
H 13 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(12.2)	(6.0)	3.5	—	ヘラミガキ→黑色処理	回転糸切	回転実測	カマド
2	土師器	坏	(13.0)	(5.2)	4.9	—	ヘラミガキ	ロクロナデ	回転実測	IV区
3	土師器	坏	(13.2)	(6.0)	4.0	—	ヘラミガキ	回転糸切	回転実測	IV区・カマド
4	土師器	坏	13.3	(5.7)	3.5	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	II区ホリ・III区・IV区ホリ・カマド
5	土師器	坏	13.4	6.8	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド
6	土師器	坏	(13.8)	(6.0)	3.8	—	ヘラミガキ	右回転糸切	回転実測	カマド
7	土師器	坏	(14.0)	(5.6)	4.5	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I 区
8	土師器	坏	(14.0)	(5.6)	4.3	—	ヘラミガキ→黑色処理	回転糸切	回転実測	カマド
9	土師器	坏	(14.7)	5.9	3.6	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区・カマド
10	土師器	皿	(13.2)	—	<1.8>	—	ヘラミガキ	ロクロナデ	回転実測	カマド
11	土師器	皿	(13.8)	6.4	3.6	—	ヘラミガキ→黑色処理	回転糸切→付高台	完全実測	カマド
12	土師器	皿	—	7.4	<1.9>	—	ヘラミガキ→黑色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	No1
13	須恵器	有台坏	—	(12.0)	<1.5>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→付高台	回転実測	II 区
14	土師器	甕	(22.0)	—	<15.2>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	III区・IV区・ケン
15	須恵器	甕	—	(14.4)	<13.7>	—	当具痕	平行叩目	回転実測・拓本	IV区・カマド



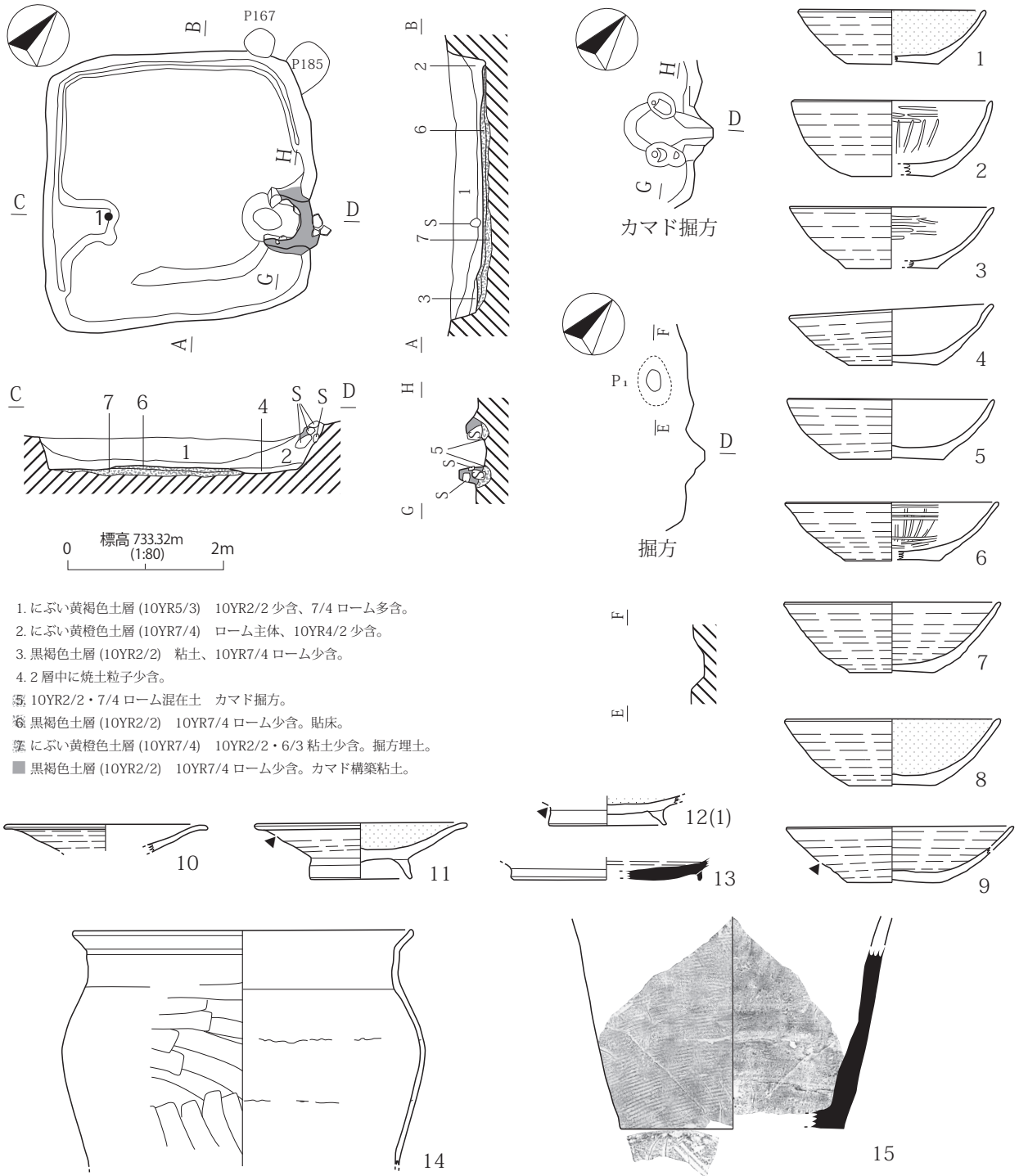
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム少含。人為埋土 or 人為埋土二次堆積。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ローム主体、10YR4/3 少含。人為埋土 or 人為埋土二次堆積。
3. 10YR2/2・4/3・7/4 ローム混在 人為埋土 or 人為埋土二次堆積。
4. にぶい赤褐色土層 (10R6/3) 粘土とカマド流出層。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) ローム主体。煙道からの流込。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム多含。

- 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。貼床。
 にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2・2/2 少含。
 焼土。
 a 10YR8/3 ロームと粘土の混在土。
 b a層が焼土化したもの。
 c にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) 粘土。
 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱痕。



第 18 図 H12 号住居址

色処理のものと黒色処理が施されないものが混在する。甕は「コ」字口縁の武蔵甕で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。須恵器は有台坏（13）、甕（15）の器種が認められる。有台坏はロクロから回転ヘラ切で切り離され、高台が貼付されている。甕は底部片で外面には平行叩目、内面には当具痕が認められる。以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。



第19図 H13号住居址

●H 14 号住居址 (第 20 図)

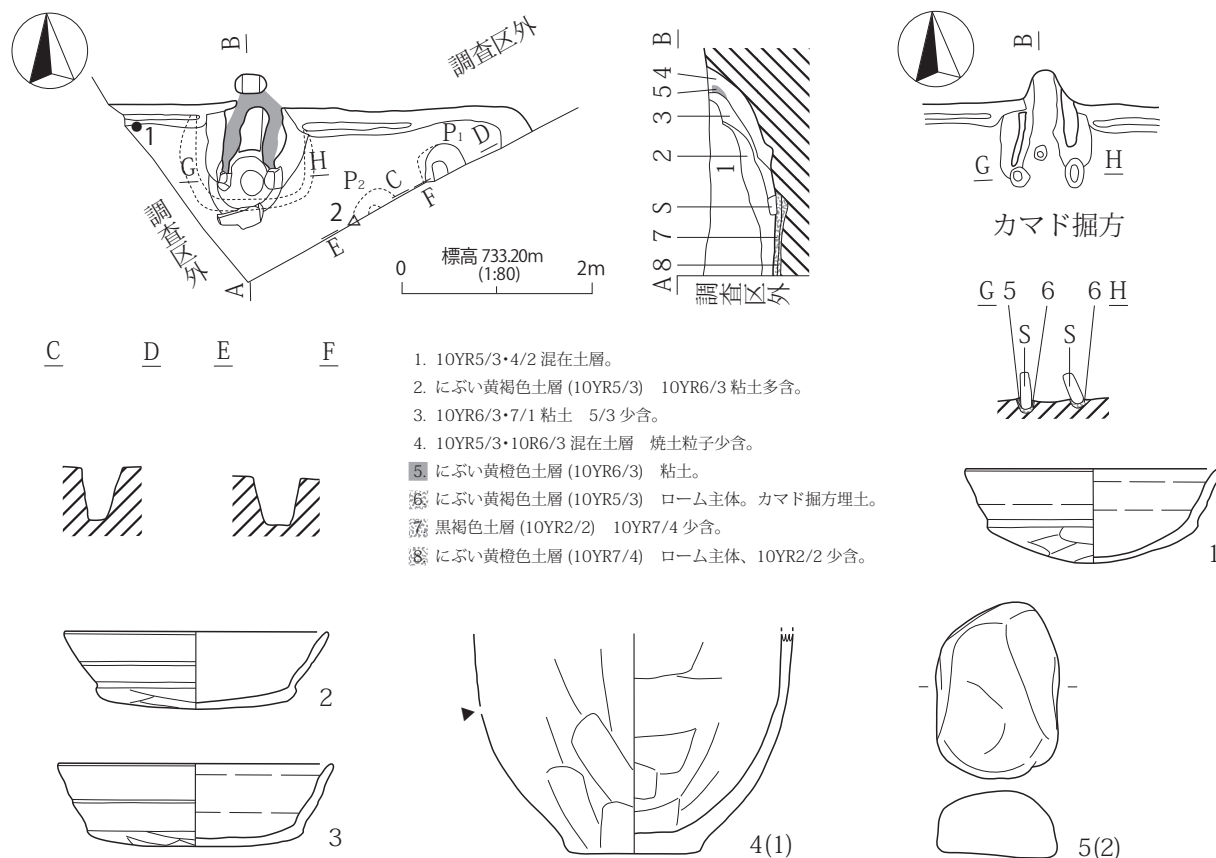
く 24 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.66 m 以外の規模は不明である。カマドは北壁の中央部分に構築されており、所謂「地山削出」の構造であるが、天井部分は現存していなかった。東北隅、およびカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。床面及び掘方から 2 基検出されたピットの性格は不明である。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と石器が出土した。土師器には坏 (1~3) と甕 (4) の器種が認められる。坏は 3 点共に所謂「有段口縁坏」で外面体部にヘラケズリ調整を施すほかは、ナデ調整である。甕は底部付近の破片であり、内面ヘラナデ、外面にはヘラケズリ調整が施される。石器 (5) は川原石を用いた編物石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 6 世紀末~7 世紀初頭の所産と考えられる。

H 14 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	13.5	11.1	5.0	—	ナデ	底部ヘラケズリ	完全実測	I 区
2	土師器	坏	(14.0)	(10.6)	4.1	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	II 区
3	土師器	坏	(14.6)	(13.0)	4.4	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	II 区
4	土師器	甕	—	7.0	<11.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
5	石器	編物石	9.4	6.5	3.5	331.71			完全実測	No 2



第 20 図 H14 号住居址

●H 15 号住居址 (第 21・22 図)

と 30 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。正方形の平面形態で、N-20°-W に長

軸方位をとる。長軸長 4.29 m、短軸長 4.02 m、壁残高 0.67 m、面積 18.31㎡の規模である。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが主柱穴であり、掘方から検出された P7～P10 の 4 基は古い主柱穴である。本址は一度拡張し建て直されていることが判明した。柱痕はφ 0.26 mであった。カマドは北壁の中央に位置し、石芯を粘土で被覆して構築されていた。掛穴付近が崩壊している他は比較的良好な残存状況であった。カマドと南西隅を除く壁下には周溝が巡らされていた。南壁下中央に構築される P6 は出入口施設と考えられる。覆土は人為埋土ないしは人為的な攪拌を受けた土の堆積である。

遺物は土師器、石器、鉄器が出土している。土師器には坏（1・2）、高坏（3）、甕（4～6）の器種が認められる。坏は 2 点共に半球状の形態で 1 は外面底部にヘラケズリ調整が施されるほかはナデ調整、2 は内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。高坏は脚部は内外面ヘラケズリ、坏部内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。甕 5・6 は武蔵甕化の傾向が看取される。4 は口縁部に最大径を有する従前からの甕である。3 点共に外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。石器（7～11）は川原石を用いた編物石が 5 点出土している。鉄器（12）は短頸鍬の鍬身部が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代終末から奈良時代第 I 四半期の所産と考えられる。

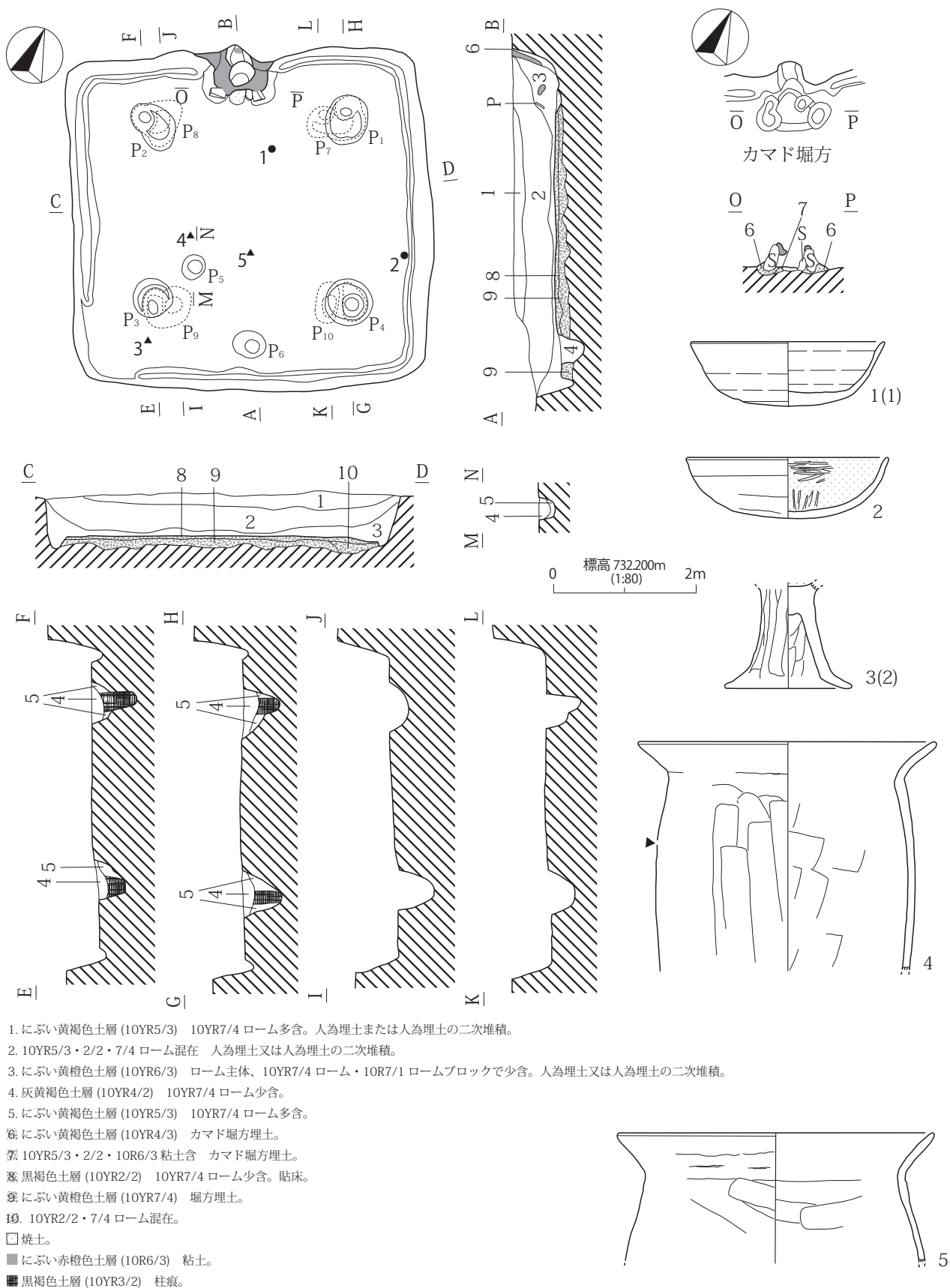
H 15 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	13.7	6.2	4.6	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	No1
2	土師器	坏	14.3	13.6	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ	完全実測	IV区・カマド
3	土師器	高坏	—	9.0	<7.5>	—	坏部ヘラミガキ→黒色処理・脚部ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	No2
4	土師器	甕	21.1	—	<16.1>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	カマド
5	土師器	甕	(22.4)	—	<9.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド・ケン
6	土師器	甕	<22.8>	—	<22.5>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	I区・IV区・カマド
7	石器	編物石	<5.1>	<6.4>	<2.5>	<113.74>	下部欠損、右側は挟りか		完全実測	IV区
8	石器	編物石	11.1	6.3	3.8	287.90	両側に挟り		完全実測	No5
9	石器	編物石	11.8	5.7	3.8	275.41			完全実測	IV区
10	石器	編物石	12.0	8.5	4.5	433.26	両側に挟り		完全実測	No4
11	石器	編物石	13.2	5.0	2.8	237.01	片側に使用痕		完全実測	No5
12	鉄器	短頸鍬	<4.8>	<2.5>	<0.3>	<5.53>	鍬身部 3ヶ所、茎部欠損		完全実測	No3

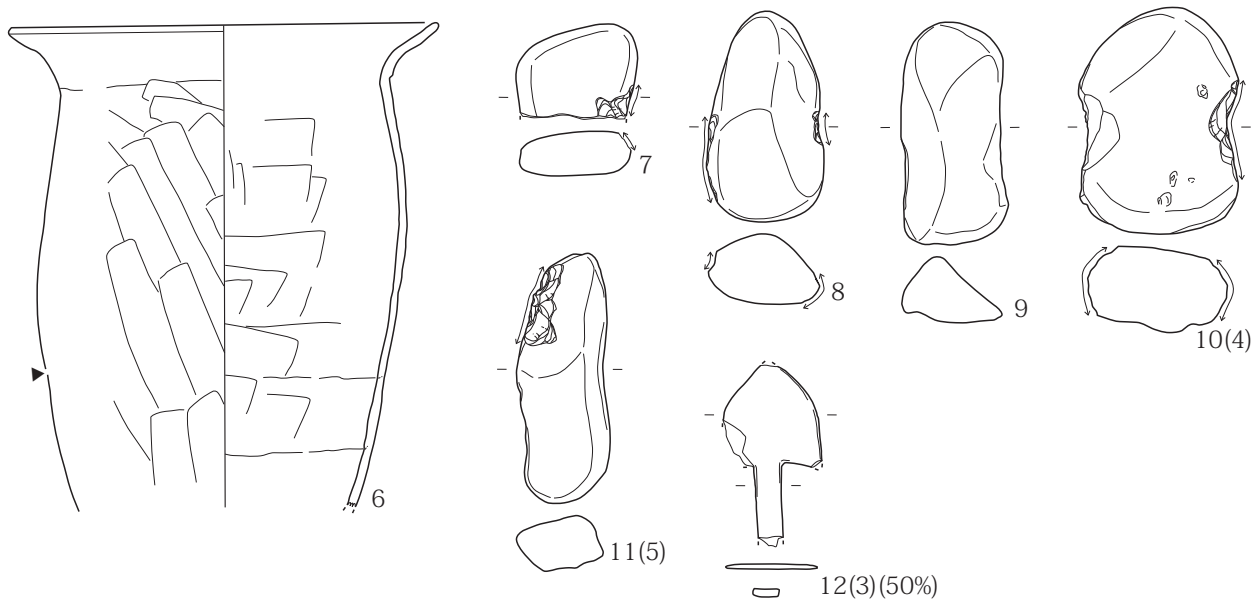
●H 16 号住居址（第 23・24 図）

せ 20 グリットで検出された大型の住居址である。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。D15 号土坑に切られている。壁残高 0.72 m 以外の規模は不明である。北壁中央と思われる部分に旧カマドの痕跡が残されている。新カマドは東壁中央部分に存在する。石芯を粘土で被覆して構築されているが、焚口、天井部分は破壊により残存していなかった。P4・P6・P9 の 3 基のピットは主柱穴であり、φ 0.12 m の柱痕が確認出来た。東カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされている。掘方の調査から、本址は拡張され建て替えられていることが判明した。覆土は人為的な攪拌土の堆積土層であった。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土している。縄文土器（20～27）は全て破片であり、混入遺物である。21 と 23 が中期後半のほかは前期の土器である。器種は全て深鉢である。土師器は坏（1～8）、高坏（9～11）、甕（12～16）、壺（17）鉢（18・19）の器種が認められる。坏は外面底部ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ→黒色処理が基本であるが、1・6 は黒色処理が施されない。また、4 は所謂「有段口縁坏」である。高坏は 9・10 が坏部、11 が脚部片である。坏部は内外面ヘラミガキ調整後、内面には黒色処理が施されている。脚は長脚で外面ヘラミガキ、内面ナデ調整が施されている。甕は小型の 12 と他の大型のものが存在する。12・15 が体部に最大径を有する他は口縁部に最大径を有する。調整は 14・15 がハケメのほかは外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。壺は外反する口縁部と球形の体部を有するもので、外面及び内面口縁部はヘラミガキ、口縁部以外の内面はナデ調整が施される。鉢 18 は口縁部が大きく開く、内外面



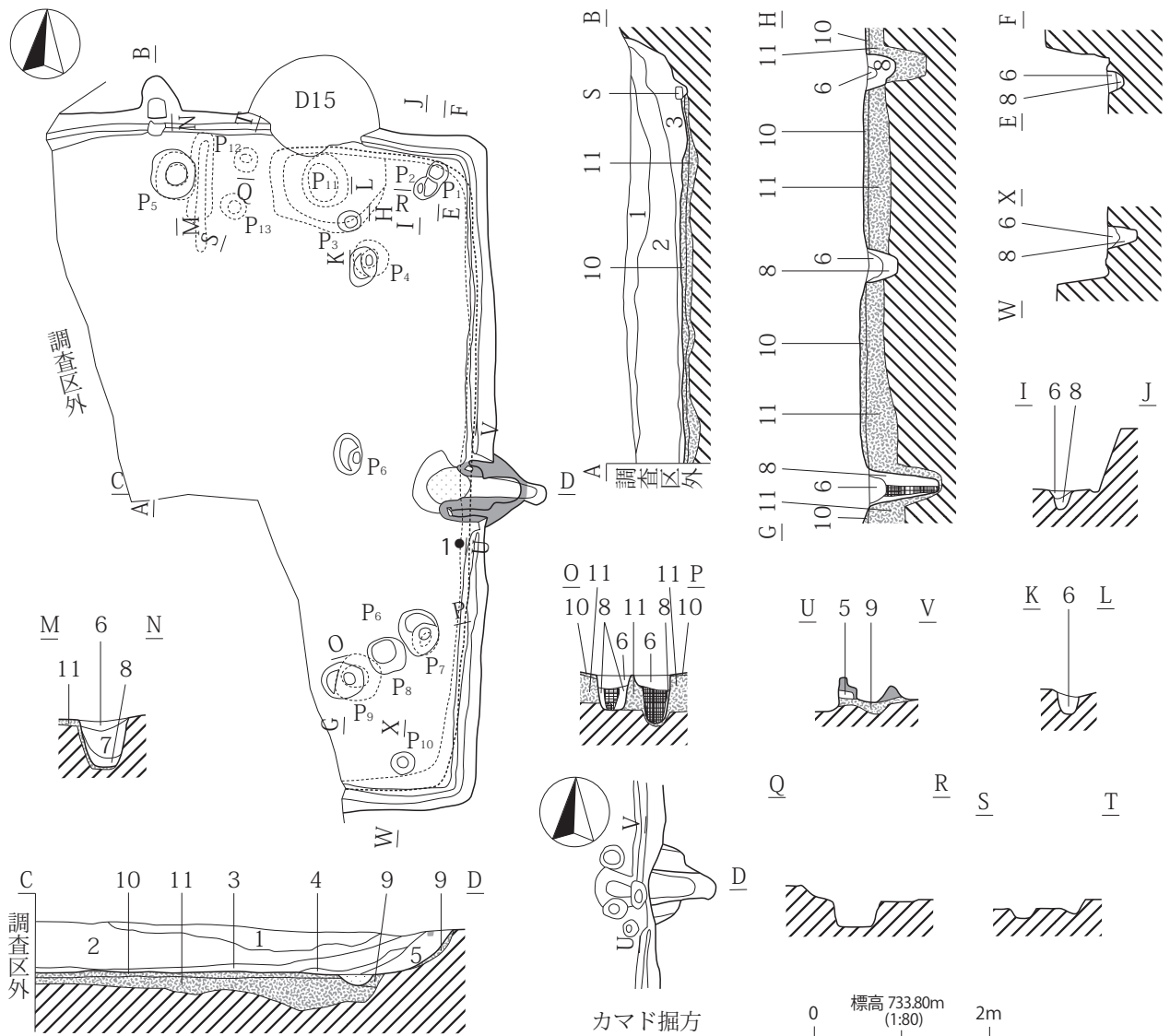
第21図 H15号住居址(1)



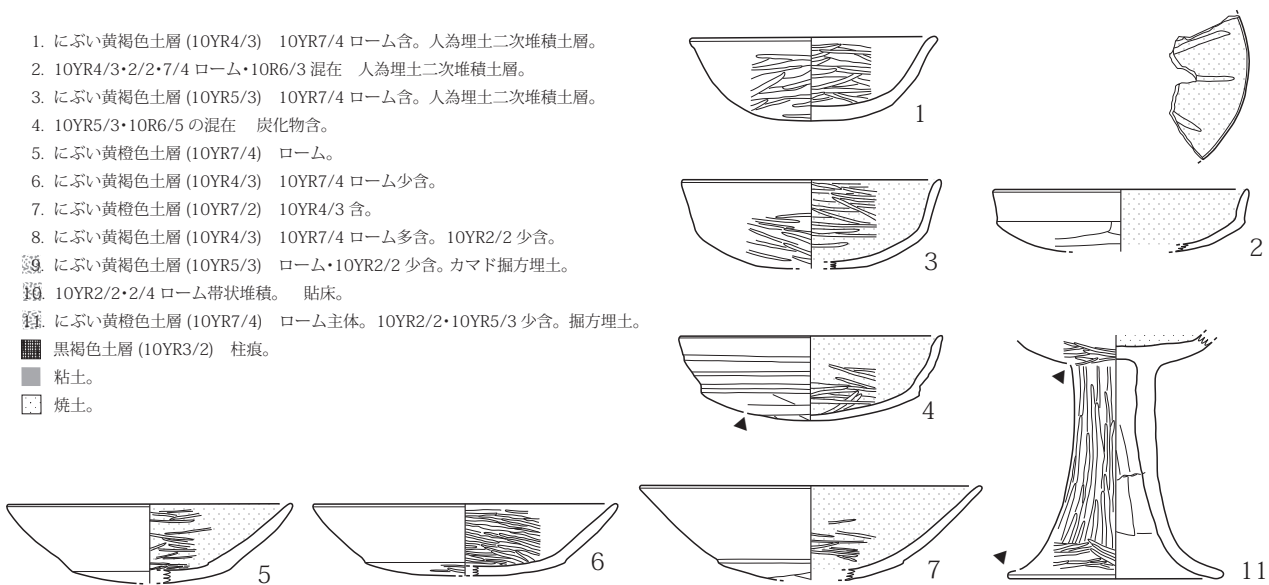
第22図 H15住居址(2)

H16号住居址出土遺物観察表

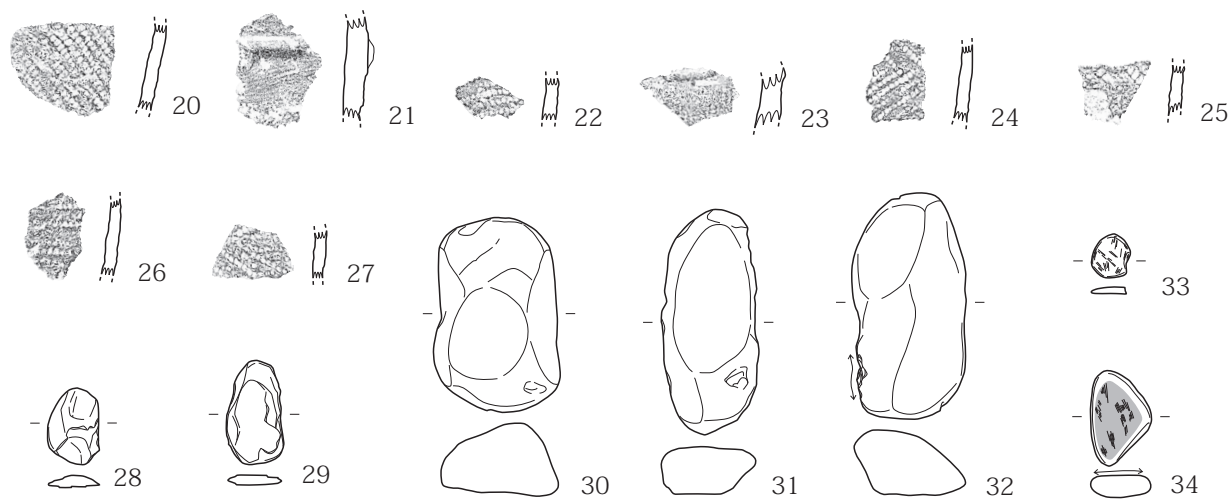
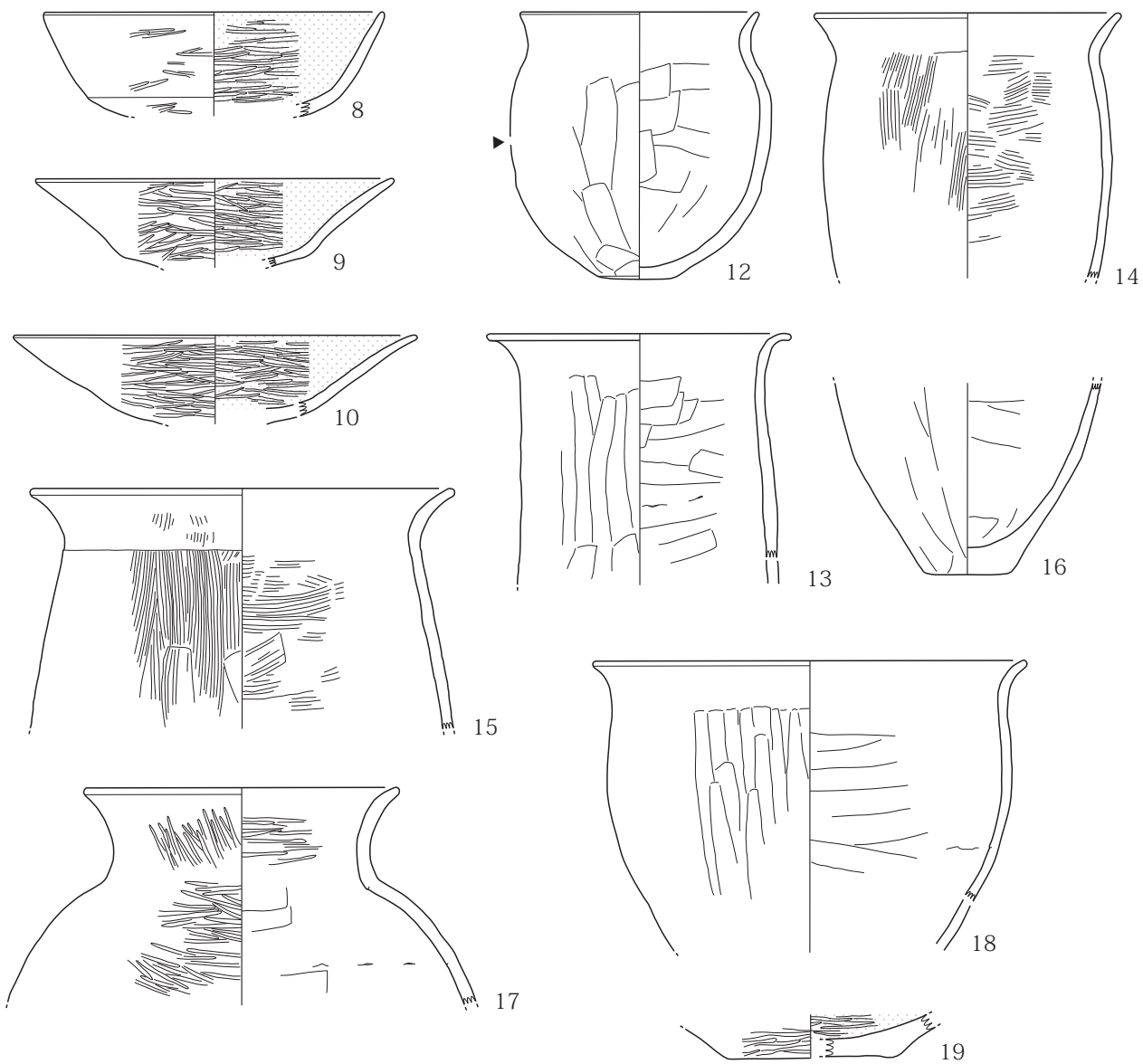
No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	13.2	—	4.5	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	IV区
2	土師器	坏	(13.6)	(13.2)	3.3	—	暗文→黒色処理	底部ヘラケズリ	回転実測	IV区
3	土師器	坏	(13.8)	—	4.7	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	I区・IV区
4	土師器	坏	14.0	11.6	4.5	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ	完全実測	IV区・カマド
5	土師器	坏	(15.2)	(8.2)	(4.2)	—	ヘラミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	P5
6	土師器	坏	(16.2)	(10.6)	(3.8)	—	ヘラミガキ	底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	覆土
7	土師器	坏	(18.2)	(9.8)	<5.0>	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ	回転実測	I区・P1・H15ホリ
8	土師器	坏	(20.0)	(14.8)	<6.1>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	I区
9	土師器	高坏	(21.0)	(10.8)	<5.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	No1・カマド・P10
10	土師器	高坏	23.6	—	<5.2>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	IV区
11	土師器	高坏	—	(11.4)	<13.9>	—	坏部ヘラミガキ→黒色処理・脚部ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区
12	土師器	甕	14	4.5	15.6	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	I区・II区・IV区・カマド・P7
13	土師器	甕	17.8	—	<14.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1・IV区
14	土師器	甕	(18.0)	—	<15.5>	—	ハケ目	ハケ目	回転実測	I区・IV区
15	土師器	甕	(24.8)	—	<14.1>	—	ハケ目	ハケ目	回転実測	IV区・カマド
16	土師器	甕	—	(5.2)	<11.2>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
17	土師器	壺	(18.4)	—	<12.7>	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	IV区
18	土師器	鉢	(25.4)	—	<16.9>	—	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	IV区
19	土師器	鉢	—	9.8	<2.5>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	II区
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	I区
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半		破片実測・拓本	I区
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	ホリ
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中期後半		破片実測・拓本	II区
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	ホリ
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	ホリ
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	IV区
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	前期		破片実測・拓本	IV区
28	石器	原材	4.1	2.7	0.7	7.31			完全実測	I区
29	石器	原材	5.5	3.0	0.7	13.15			完全実測	ホリ方
30	石器	編物石	10.3	6.7	3.8	363.16			完全実測	P7
31	石器	編物石	11.9	5.2	3.3	240.03			完全実測	P7
32	石器	編物石	12.0	6.1	3.4	309.2	片側に使用痕		完全実測	P7
33	石器	磨石	2.3	2.1	0.4	330	全体に磨り		完全実測	IV区
34	石器	磨石	5.1	3.2	1.3	29.11	正面に磨り面		完全実測	IV区



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム含。人為埋土二次堆積土層。
 2. 10YR4/3・2/2・7/4 ローム・10R6/3 混在 人為埋土二次堆積土層。
 3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム含。人為埋土二次堆積土層。
 4. 10YR5/3・10R6/5 の混在 炭化物含。
 5. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム。
 6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム少含。
 7. にぶい黄褐色土層 (10YR7/2) 10YR4/3 含。
 8. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム多含。10YR2/2 少含。
 9. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) ローム・10YR2/2 少含。カマド掘方埋土。
 10. 10YR2/2・2/4 ローム帯状堆積。 貼床。
 11. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR2/2・10YR5/3 少含。掘方埋土。
- 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。
 - 粘土。
 - 焼土。



第 23 図 H16 号住居址 (1)



第 24 图 H16 号住居址 (2)

共にナデ調整である。19は底部片であり、全容は不明であるが内面にはヘラミガキ後、黒色処理が施されている。外面はヘラミガキ調整である。石器（30～34）は川原石や河床礫を用いた編物石・磨石である。28・29は石器という呼称は不適切であるが、石製品模造品の加工前の原石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

●H 17号住居址（第25図）

そ34グリットで検出された。D16号土坑を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。規模も壁残高0.33m以外の規模は不明である。床面、掘方を合わせ12基検出されたピットの内、P1・P2の2基は支柱穴の可能性が高い。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていたようであるが、破壊されていた。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には坏（1・2）、碗（3・4）、甕（5～10・12）鉢（11）の器種が認められる。坏は底部に右回転の糸切痕を残し、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されている。碗も坏同様の成形・調整であるが、高台が貼付けられている。甕は5・10・12がロクロ甕、他は武蔵甕である。武蔵甕の口縁部形態は「コ」字である。鉢は底部片である。外面ヘラケズリ、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されている。須恵器は壺の肩部片が1点出土している。所謂「凸帯文坏四耳壺」である。

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。

H17号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(15.5)	5.9	4.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No4
2	土師器	坏	(16.0)	6.8	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No1
3	土師器	碗	(15.2)	8.0	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No2
4	土師器	碗	(18.3)	8.4	6.2	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No3・II区
5	土師器	甕	(20.0)	—	<7.6>	—	ロクロナデ・ハケ目	ロクロナデ	回転実測	I区
6	土師器	甕	(20.2)	—	<4.8>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
7	土師器	甕	(20.6)	—	<6.1>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
8	土師器	甕	(21.0)	—	<10.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
9	土師器	甕	(22.0)	—	<7.6>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
10	土師器	甕	—	(2.4)	<3.2>	—	ハケ目	ヘラケズリ	回転実測	II区
11	土師器	鉢	—	3.6	<1.1>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	II区
12	土師器	甕	—	(6.0)	<2.5>	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
13	須恵器	壺	—	—	—	—	ロクロナデ	凸帯貼付、ロクロナデ	破片実測・拓本	P3

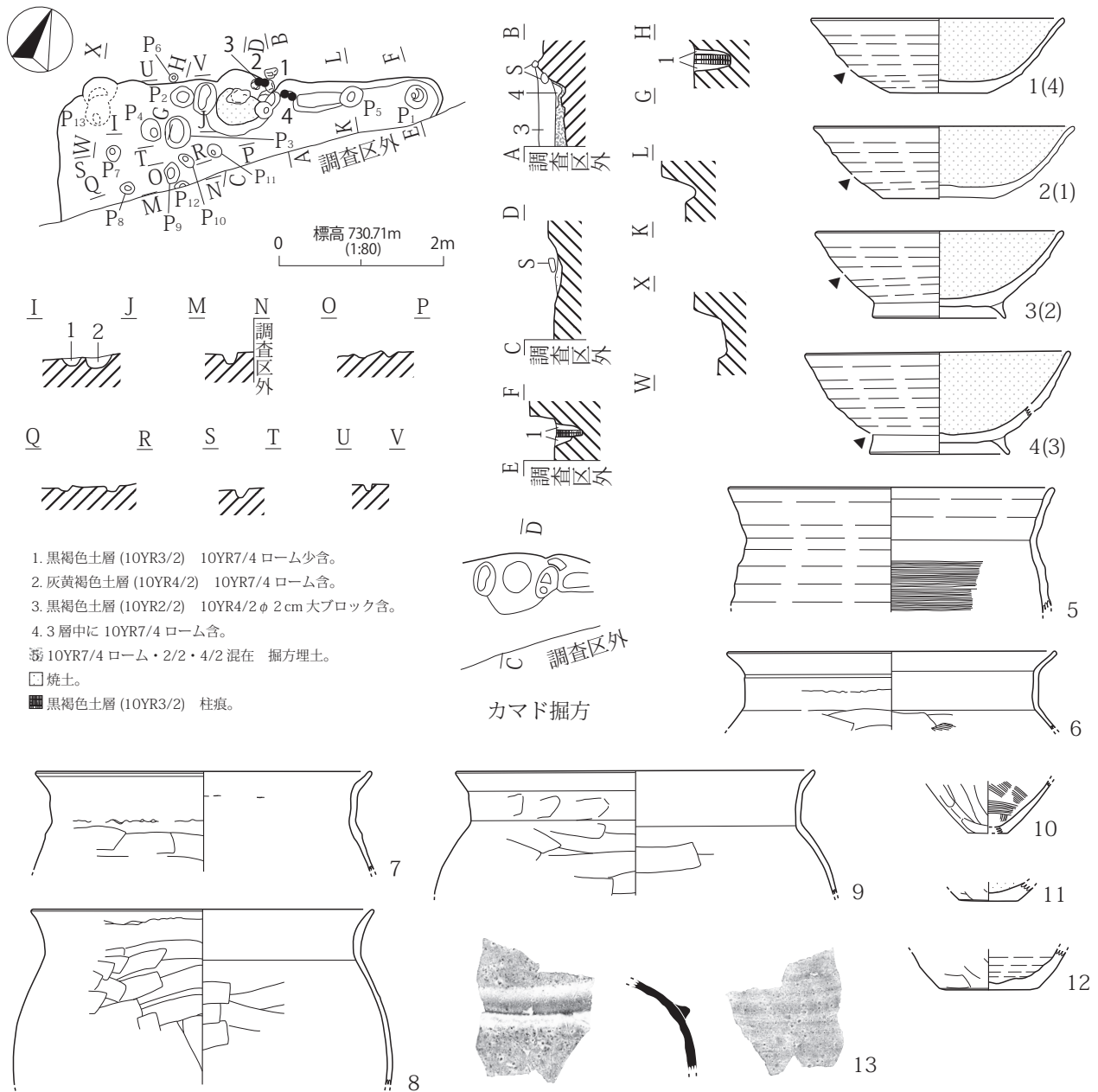
H18号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	ミニチュア土器	7.5	5.9	3.4	—	ナデ	ナデ	完全実測	No1
2	土師器	甕	14.1	5.1	10.9	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No4・III区
3	土師器	甕	16.7	—	<20.6>	—	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	No2・I区
4	土師器	甕	(21.0)	—	<14.9>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区・II区・IV区
5	土師器	壺	—	6.1	<17.3>	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	No3
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	III区

●H 18号住居址（第26図）

け14グリットで検出された。P73号ピットを切る。正方形の平面形態で、N-72°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.01m、短軸長1.94m、壁残高0.31m、面積4.70m²の小型の住居址である。カマドは北壁の東北隅よりに石芯を粘土で被覆して構築されるが、破壊されていた。カマド部分から北東隅を除く壁下には周溝が巡らされる。掘方か1基検出された以外にピットは存在しない。覆土は自然堆積である。

遺物は縄文土器と土師器が出土している。縄文土器は深鉢の体部片であり、中期後半のものと思われる。土師器には手捏土器（1）、甕（2～4）、壺（5）の器種が認められる。手捏土器は坏型で、内外面にナデ



第25図 H17号住居址

調整が施される。甕は小型の2、中型の3、大型の4の法量が認められる。小型2が口縁部に最大径を有する他は、体部に最大径を有する。調整は2・4が外面ヘラケズリ、3が粗いヘラミガキで、内面は3点共にナデ調整が施される。壺は底部片である。内面ナデ調整、外面ヘラミガキ調整が施される。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

第2節 土坑

● D1号土坑 (第27図)

へ23グリットで検出された。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.38 m以外の

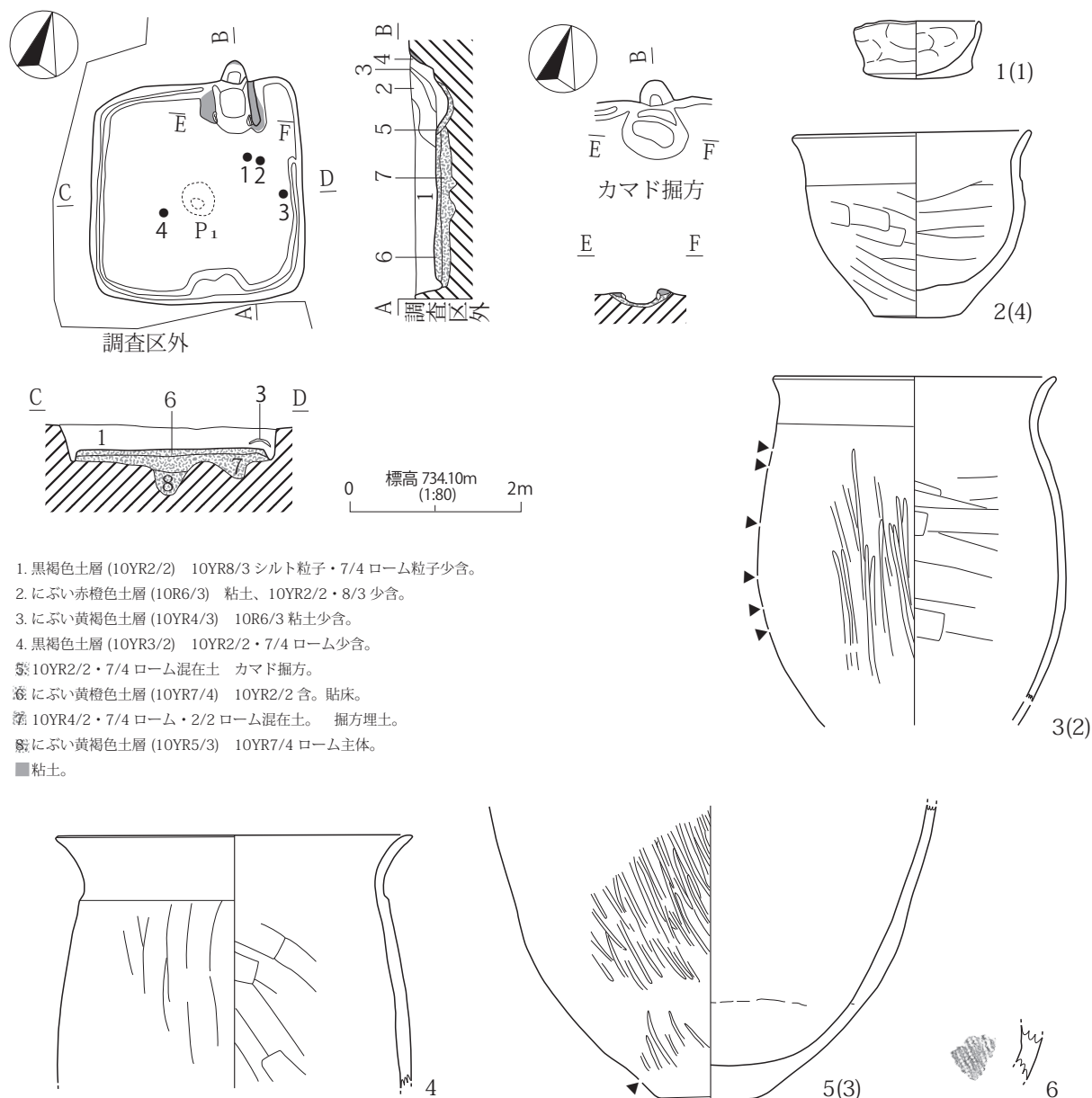
規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 2号土坑 (第27図)

に21グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.74 m以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 3号土坑 (第27図)

ね20グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.49 m以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。



第26図 H18号住居址

●D 4号土坑（第 27 図）

つ 17 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.62 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 5号土坑（第 27 図）

か 3 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.66 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。本址は粘土採掘坑である。

●D 6号土坑（第 27 図）

き 5 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 21° - E に長軸方位をとる。長軸長 1.42 m、短軸長 1.21 m、壁残高 0.88 m、面積 0.22m²の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 7号土坑（第 28 図）

く 6 グリットで検出された。東・西両方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.39 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。本址は粘土採掘坑である。

●D 8号土坑（第 27 図）

し 12 グリットで検出された。M1 号溝址、田切谷に切られるため全容は不明である。壁残高 0.21 m 以外の規模は不明である。出土遺物は川原石を用いた編み物石が 1 点出土している。時期は不明であるが、M1 より古い時期の所産である。本址は粘土採掘坑の可能性が高い。

●D 9号土坑（第 28 図）

か 20 グリットで検出された。円形の平面形態で、N - 65° - E に長軸方位をとる。長軸長 1.33 m、短軸長 1.20 m、壁残高 0.48 m、面積 0.18m²の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 10号土坑（第 28 図）

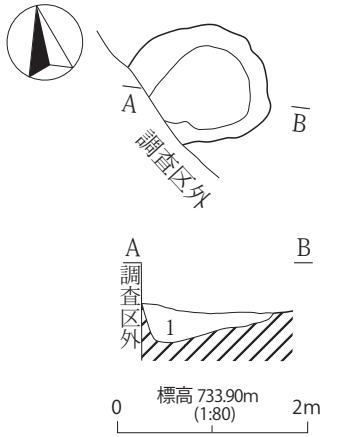
か 21 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 68° - E に長軸方位をとる。長軸長 2.83 m、短軸長 1.77 m、壁残高 0.40 m、面積 3.27m²の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 11号土坑（第 29 図）

え 25 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 27° - W に長軸方位をとる。長軸長（2.78 m）、短軸長（2.17 m）、壁残高（1.69 m）の規模である。出土遺物は土師器の壺、土製紡錘車が出土している。時期は古墳時代後期で、所謂「氷室」や「塵芥処理土坑」とされる土坑である。

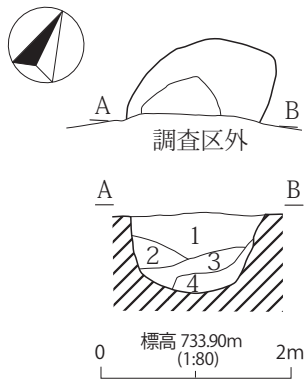
●D 12号土坑（第 28 図）

お 26 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 1.28 m 以外の規模は不明である。遺物は土師器坏 2 点と甕 1 点が出土している。坏 2、甕 3 の特徴から平安時代の所産と



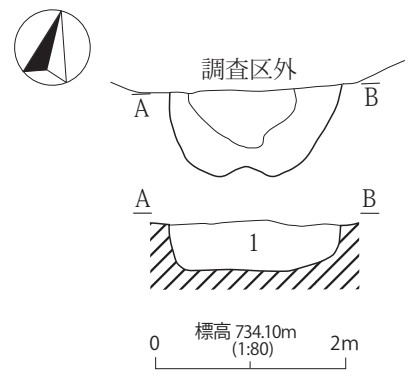
1. 褐色土層 (10YR4/6) ロームブロック少含。

D1号土抗



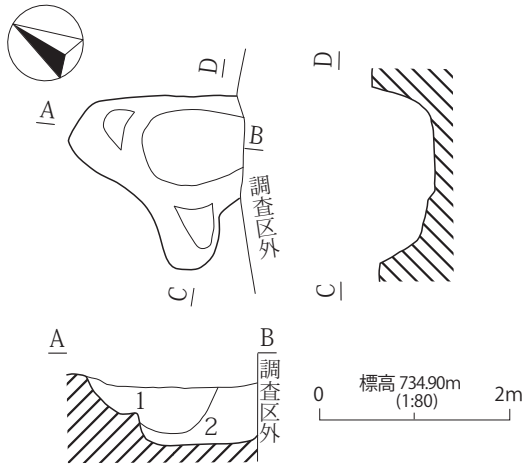
1. 黄褐色土層 (10YR5/8)。
2. 黄橙色土層 (10YR8/6) ローム土掘くずれ。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック含。
4. 褐色土層 (10YR4/6)

D2号土抗



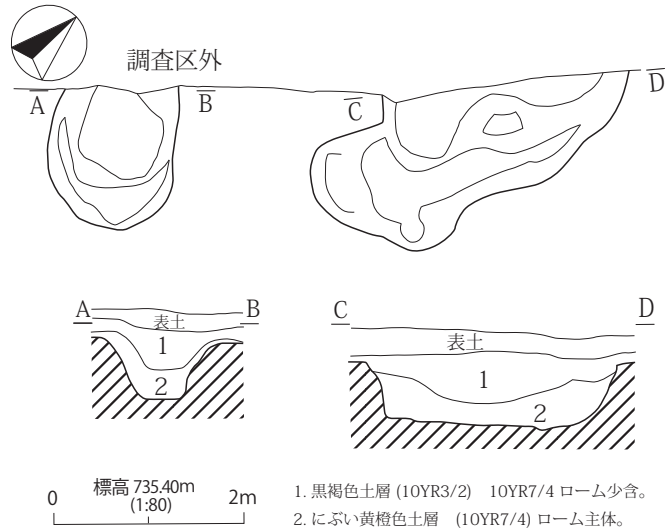
1. 褐色土層 (10YR4/4) 上部に軽石。

D3号土抗



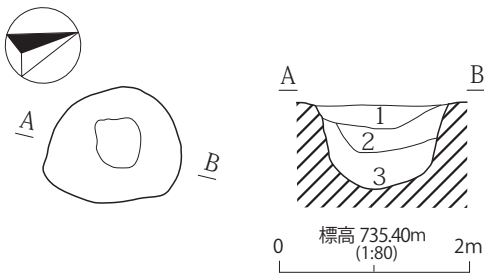
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 褐色土ブロック含。
2. 明黄褐色土層 (10YR6/8) ロームブロック堆積。

D4号土抗



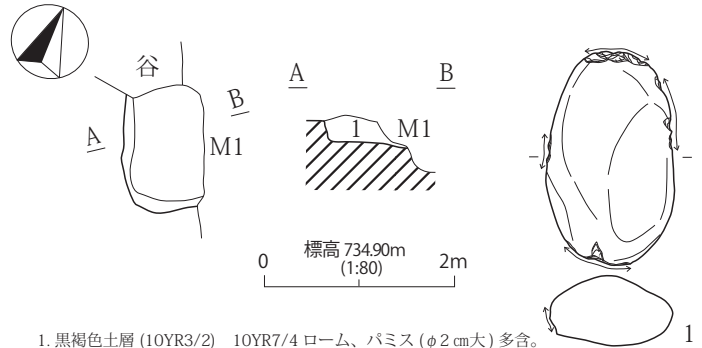
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。
3. 灰白色土層 10YR8/2 粘土粒子・10YR3/2 少含。

D5号土抗



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR6/6 ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR6/6 ローム少含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/6 ローム含。

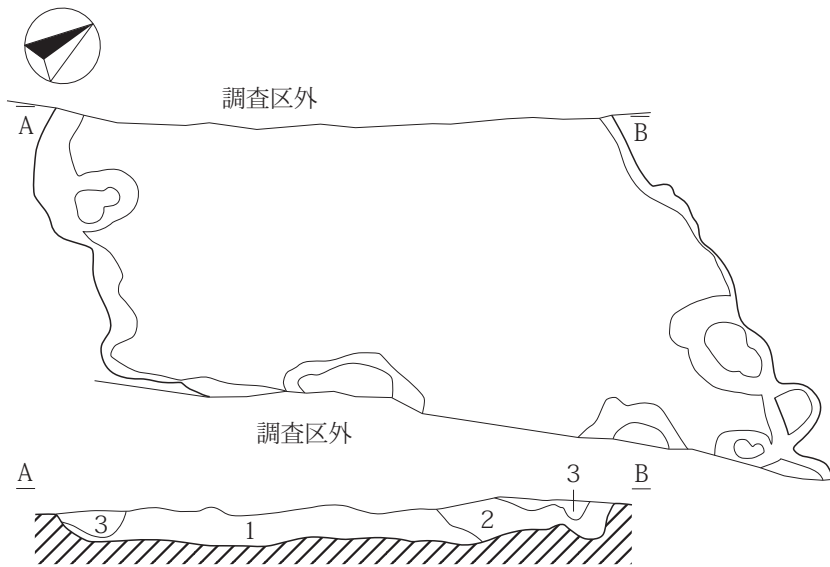
D6号土抗



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム、パミス (φ2cm大) 多含。

D8号土抗

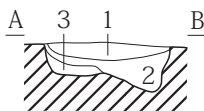
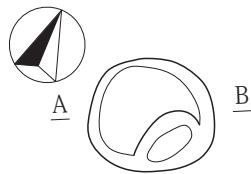
第27図 土抗(1)



1. 浅黄橙色土層 (10YR8/4) 粘土二次堆積。
2. 浅黄橙色土層 (10YR8/4) 粘土・10YR3/2 混在。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)。

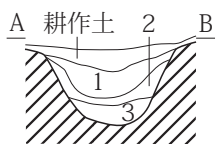
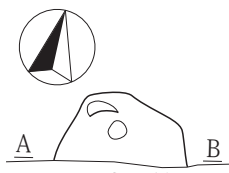
0 標高 735.50m (1:80) 2m

D7号土坑



0 標高 736.80m (1:80) 2m

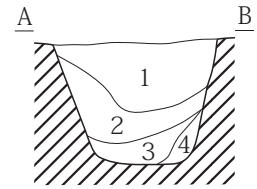
D9号土坑



0 標高 733.30m (1:80) 2m

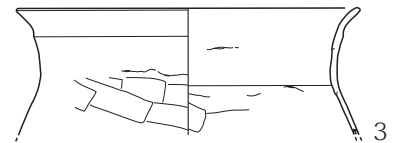
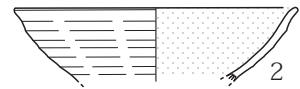
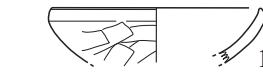
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム極少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 含。

D13号土坑

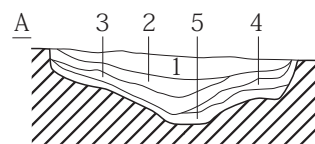
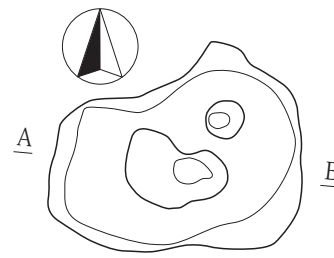


0 標高 732.80m (1:80) 2m

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4 ローム少含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/3 ローム少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム主体。



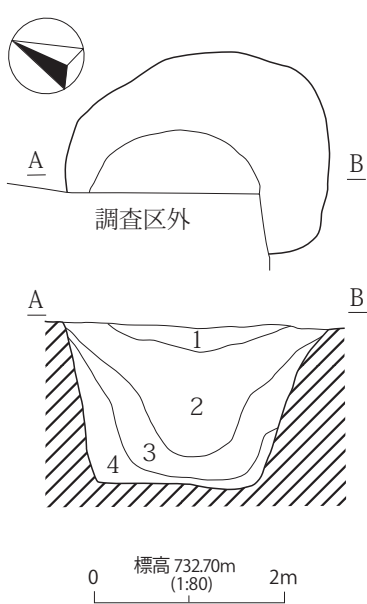
D12号土坑



0 標高 736.80m (1:80) 2m

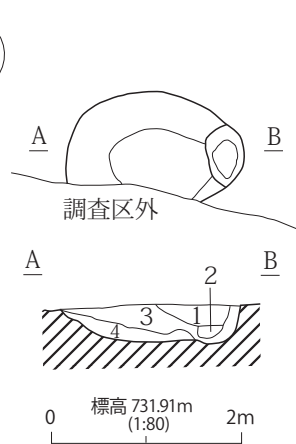
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR3/2・10YR7/4 ローム少含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 少含。

D10号土坑



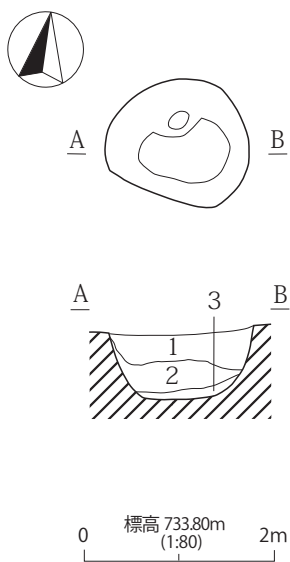
1. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR4/2 含。人為埋土。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/3) ローム主体、10YR4/2・3/2・7/4 ローム多含。人為埋土。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/3 ローム含。人為埋土。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム多含。

D11 号土抗



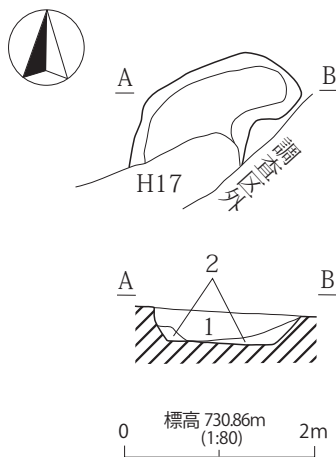
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム多含。
3. 10YR2/2・7/4 ローム混在。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積、10YR2/2 極少含。

D14 号土抗



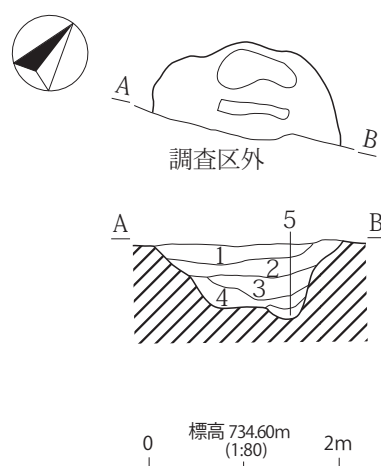
1. 10YR3/2・4/3・7/4 ローム混在。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2 少含。
3. 灰白土層 (10YR7/1) ローム、10YR7/4 ローム・4/2 少含。

D15 号土抗



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) シルト質
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。

D16 号土抗



1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム極少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3 少含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR3/2 少含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム少含。

D17 号土抗

第 29 図 土抗 (3)

考えられる。D11 同様に、所謂「氷室」や「塵芥処理土坑」とされる土坑である。

●D 13号土坑（第 28 図）

ち 24 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.77 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 14号土坑（第 29 図）

さ 31 グリットで検出された。P447号ピットを切る。楕円形の平面形態で、N-43°-E に長軸方位をとる。長軸長 1.89 m、短軸長（1.13 m）、壁残高 0.38 m、面積（0.66㎡）の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 15号土坑（第 29 図）

せ 20 グリットで検出された。H16号住居址を切る。楕円形の平面形態で、N-73°-E に長軸方位をとる。長軸長 1.53 m、短軸長 1.32 m、壁残高 0.66 m、面積 0.58㎡の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 16号土坑（第 29 図）

そ 33 グリットで検出された。H17号住居址に切られる。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.34 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は H17 よりも古い時期の所産である。性格は不明である。

●D 17号土坑（第 29 図）

す 15 グリットで検出された。H 2号住居址を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.74 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	石器	編物石	11.3	6.8	3.9	239.47	両面抉り、両端使用痕?		完全実測	D8 No1
1	土師器	甕	(18.2)	—	<5.7>	—	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ・沈線?	回転実測	D11 E
2	土製品	紡錘車	7.3	5.4	2.6	137.18		ヘラナデ・孔径 1.2	完全実測	D11 E
1	土師器	坏	(11.2)	—	<2.9>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	D12 S
2	土師器	坏	(15.0)	—	<3.9>	—	黒色処理	ロクロナデ	回転実測	D12 S
3	土師器	坏	(18.0)	—	<6.7>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	D12 S

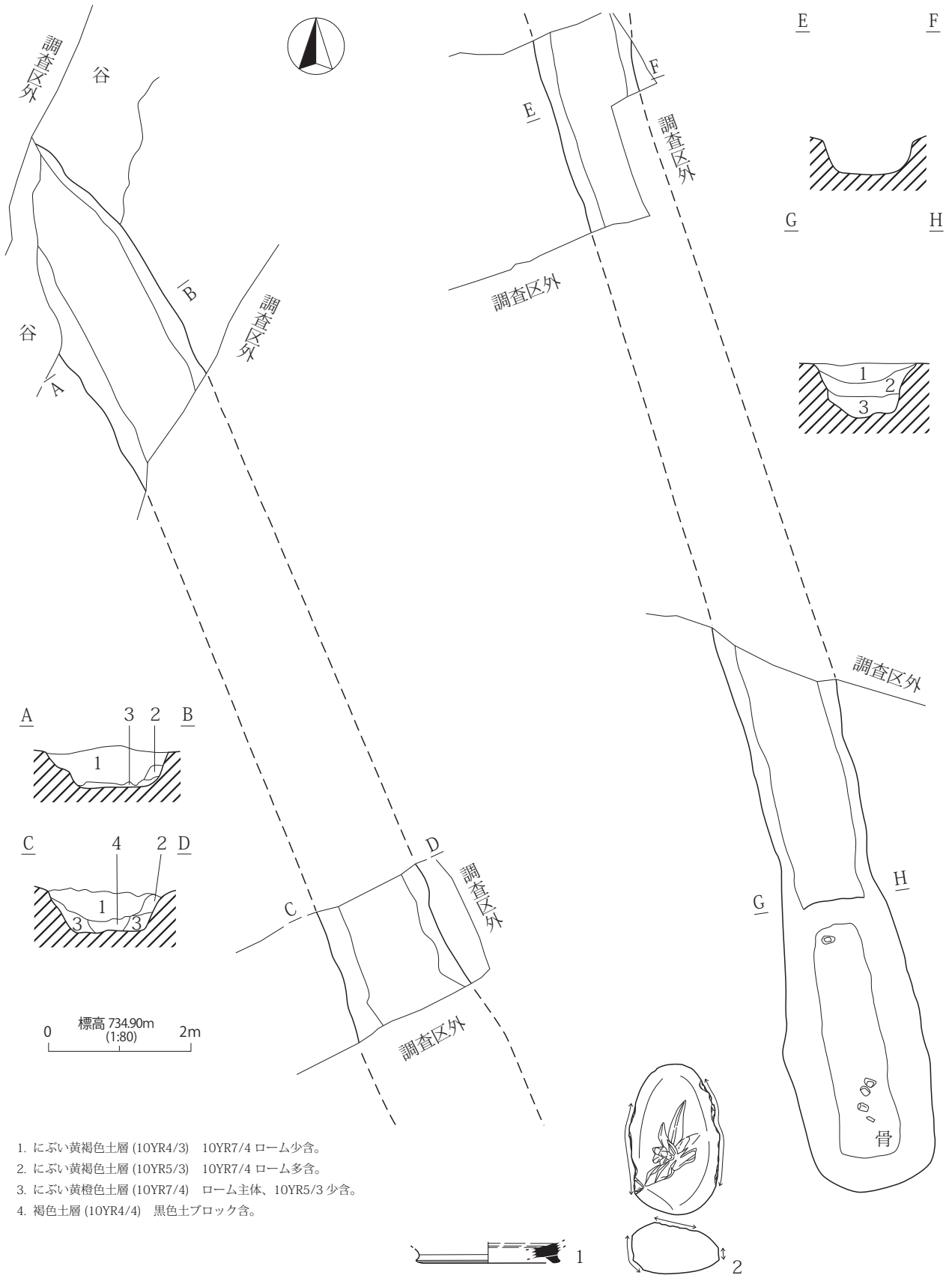
M 1号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	須恵器	有台坏	—	(10.0)	<1.5>	—	ロクロナデ	付高台	回転実測	S
2	石器	敲石	1.06	6.5	3.6	285.78	両側辺に敲打痕、正面条痕		完全実測	N

第 3 節 溝址

●M 1号溝址（第 30 図）

け 22～す 12 グリットにかけて検出された。け 22 グリットに端部があり、もう一端は田切谷に接続し消滅している。断面形状は逆梯形であり、人工の溝である。性格は不明であるが、須恵器有台坏や川原石を用いた敲石、獣骨などが出土しており、平安時代以降の年代が推測される。



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム多含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3 少含。
4. 褐色土層 (10YR4/4) 黒色土ブロック含。

第30図 M1号溝址

第4節 掘立柱建物址

● F 1号掘立柱建物址 (第31図)

き19グリットで検出された。P464を切る。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲では2間×2間の長方形の側柱形態である。N-87°-Wに長軸方位をとり、桁行長(3.59 m)、梁間長2.79 m、面積(10.02㎡)の規模である。桁行柱間寸法1.76~1.83 m、梁間柱間寸法1.34~1.43 mで柱痕はφ0.17 mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は鍋ないし逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 2号掘立柱建物址 (第31図)

は28グリットで検出された。H9号住居址に切られ、西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲ではN-35°-Wに長軸方位をとり、桁行長3.59 mの規模の側柱形態である。桁行柱間寸法1.10~1.28 m、梁間柱間寸法1.29 m、柱痕φ0.24 mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は鍋ないし逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 3号掘立柱建物址 (第31図)

う23グリットで検出された。H8号住居址を切る。2間×1間の長方形の側柱形態である。N-57°-Eに長軸方位をとり、桁行長3.3 m、梁間長2.57 m、面積7.21㎡の規模である。桁行柱間寸法1.25~1.91 m、梁間柱間寸法2.17~2.65 m、柱痕φ0.18 mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 4号掘立柱建物址 (第31図)

つ30グリットで検出された。北・西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。桁行柱間寸法1.10~1.17 m、梁間柱間寸法0.92 m、柱痕φ0.17 mの規模であった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 5号掘立柱建物址 (第32図)

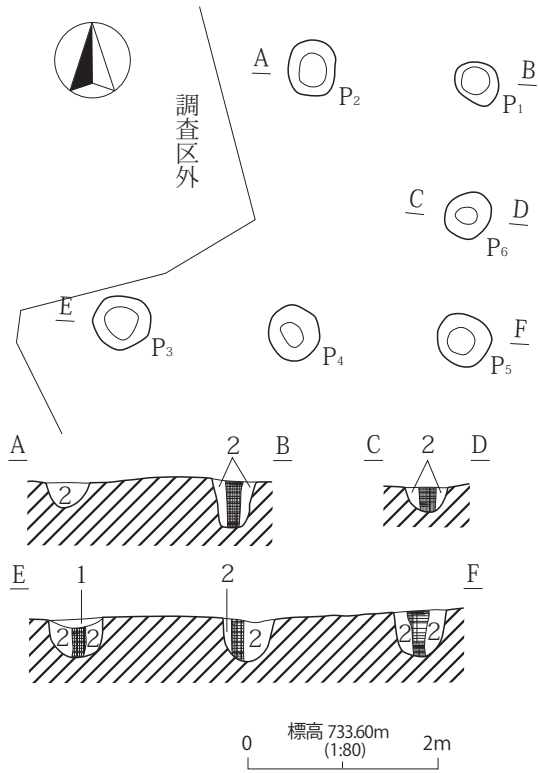
え9グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。桁行柱間寸法1.98 m、梁間柱間寸法1.85 mの規模であった。個々のピットは平面が円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 6号掘立柱建物址 (第32図)

え23グリットで検出された。他遺構との重複間関係は有さない。1間×1間の正方形の形態である。N-48°-Wに長軸方位をとり、桁行長2.58 m、梁間長2.55 m、面積6.35㎡の規模である。桁行柱間寸法2.55~2.85 m、梁間柱間寸法2.49~2.85 mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

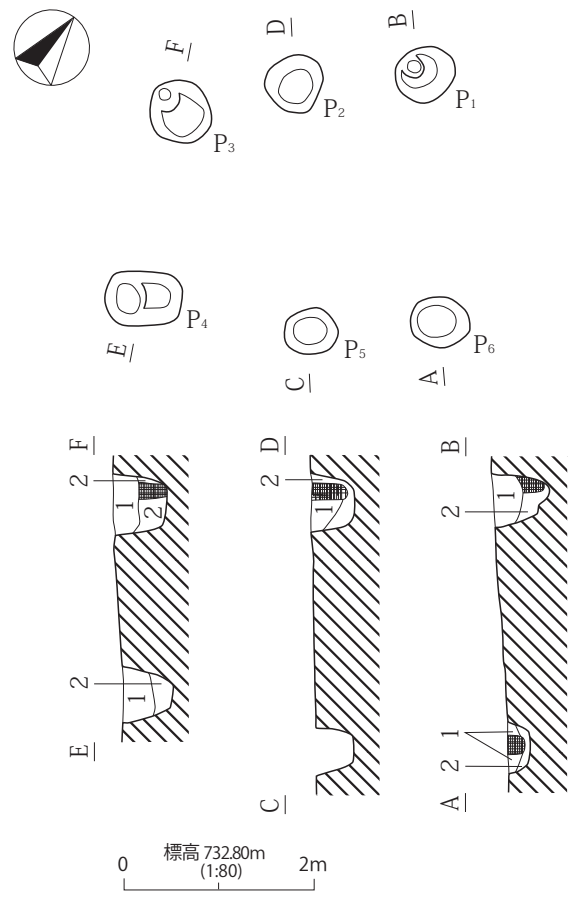
ピット出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	石器	台石	<12.5>	<6.2>	<9.1>	949.46	右側~下側欠損、正裏に使用痕		完全実測	P170 覆土
1	土師器	坏	(16.0)	—	<3.4>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	P320 覆土
1	土師器	坏	—	(6.0)	<1.6>	—	ヘラミガキ	回転糸切・底部外周ヘラケズリ	回転実測	P449 覆土
2	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	平行叩き目・沈線	破片実測・拓本	P449 覆土



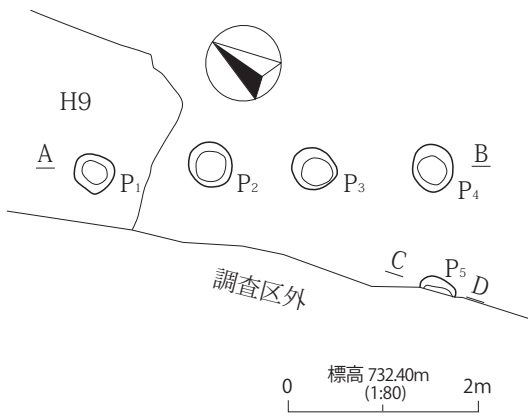
- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム少含。
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。
- 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

F1号掘立柱建物址



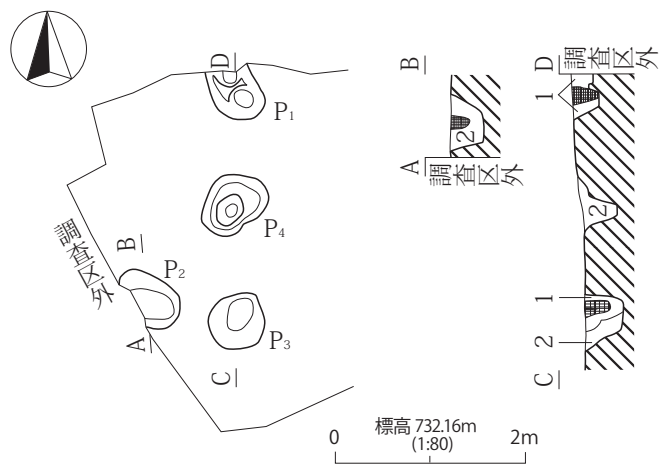
- 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム極少含。
- 2. 10YR7/4 ローム二次堆積 10YR4/3 少含。
- 10YR2/2・7/4 ローム混在土層 柱痕。

F3号掘立柱建物址



- 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム。
- 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム含。柱痕。

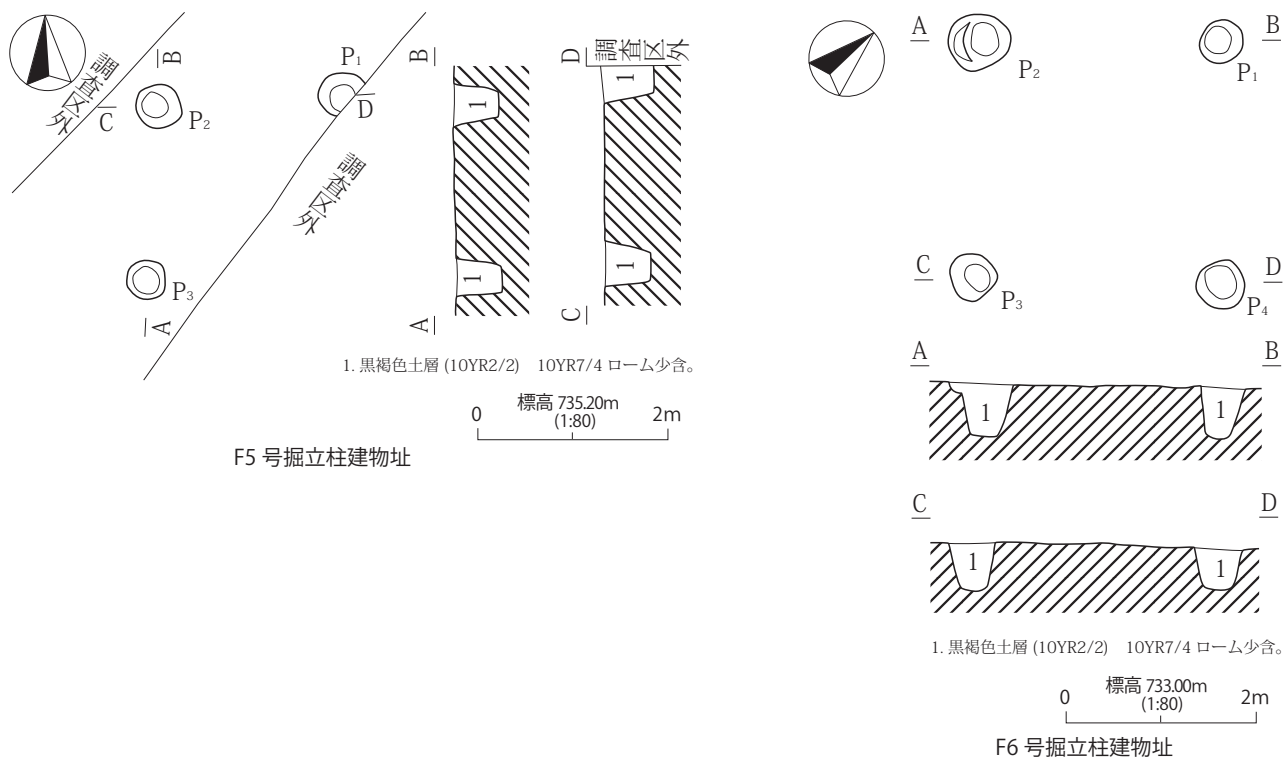
F2号掘立柱建物址



- 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR3/4 ブロック (φ2cm 以下) 含。
- 2. 10YR2/2・7/4・6/4 混在。
- にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 柱痕。

F4号掘立柱建物址

第31図 F1～F4号掘立柱建物址



第 32 図 F5・F6号掘立柱建物址

第5節 ピット

● P 1～468号ピット (第33～50図)

調査区全域からまんべんなく検出された。多くは柱状のものを立てるため掘削されたものと思われる。遺物を出土したものは P170・320・449 の3基のみである。詳細は表を参照されたい。

第6節 遺構外出土遺物 (第51図)

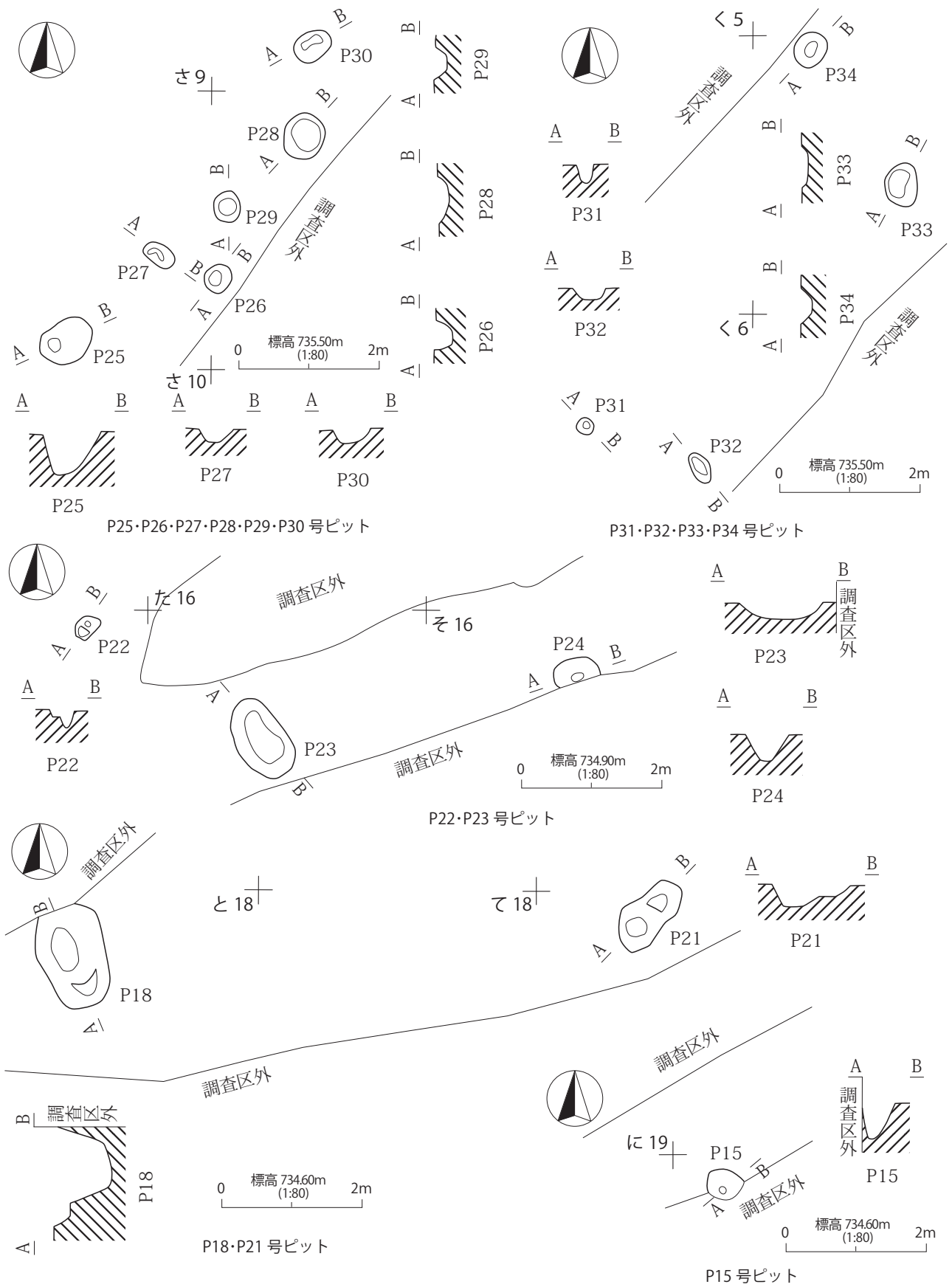
●底部に右回転糸切痕を残す土師器坏と「コ」字口縁の武蔵甕が各々1点出土した。



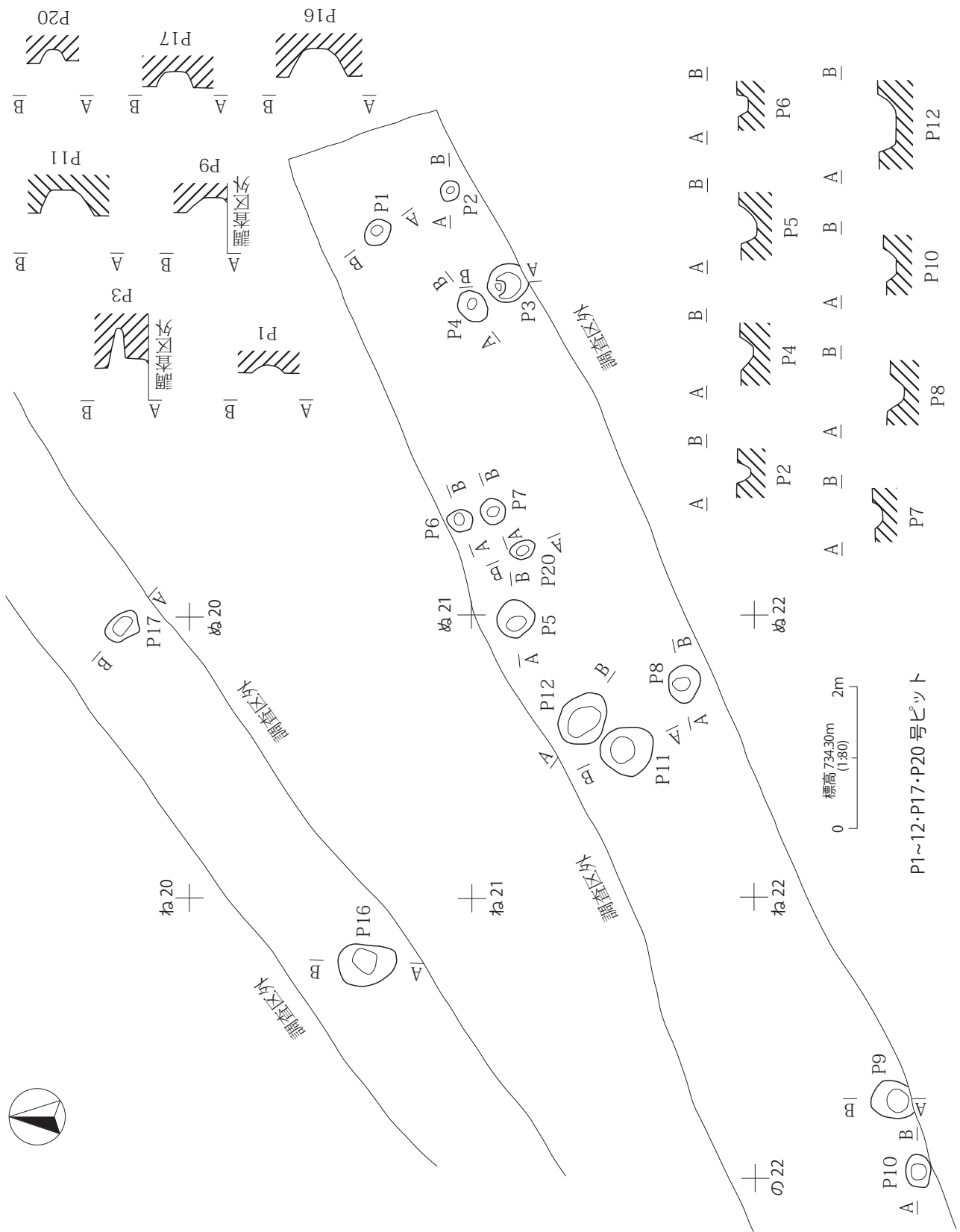
第 51 図 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

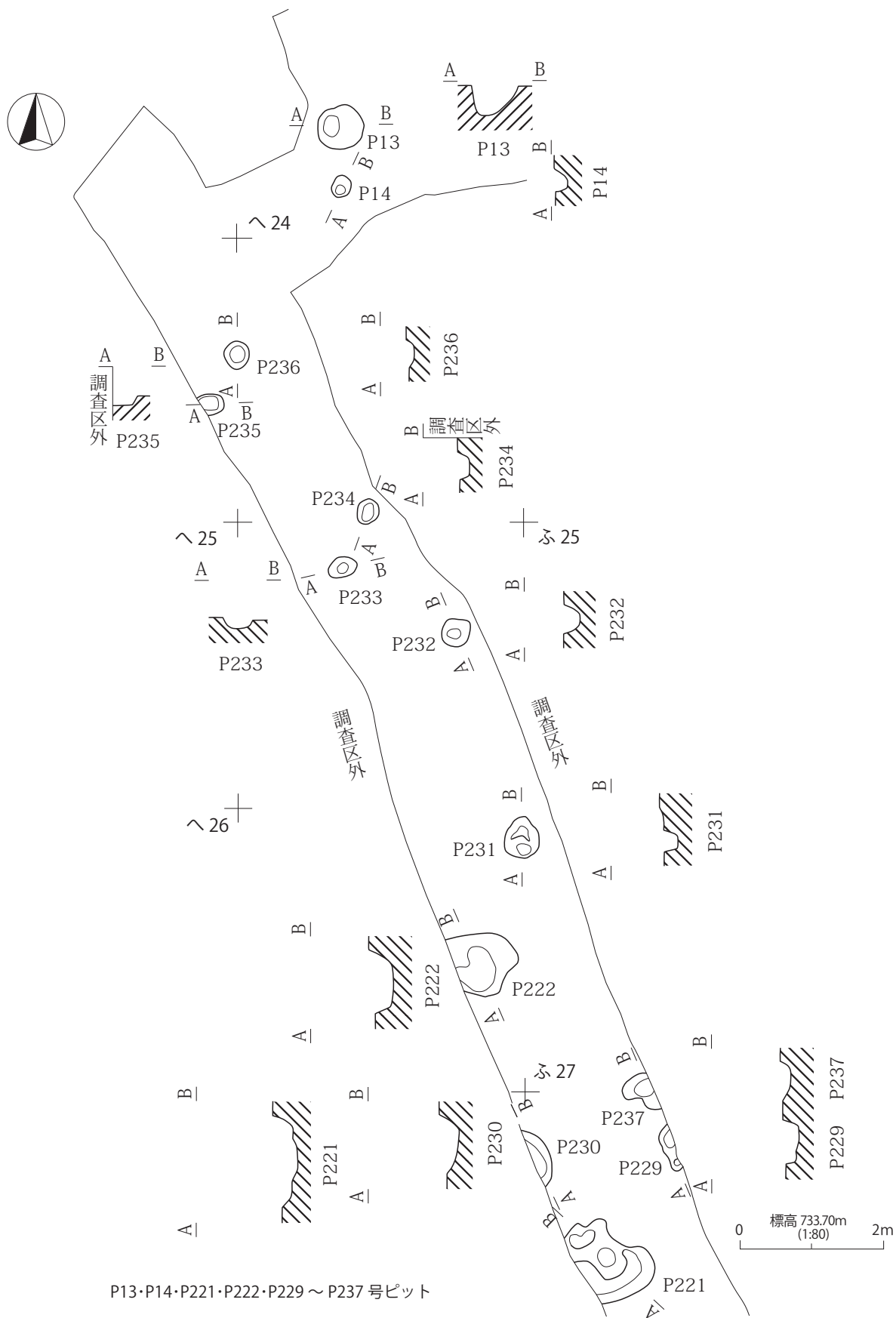
No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	坏	—	6.4	<3.2>	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Z
2	土師器	甕	(14.0)	—	<4.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Z



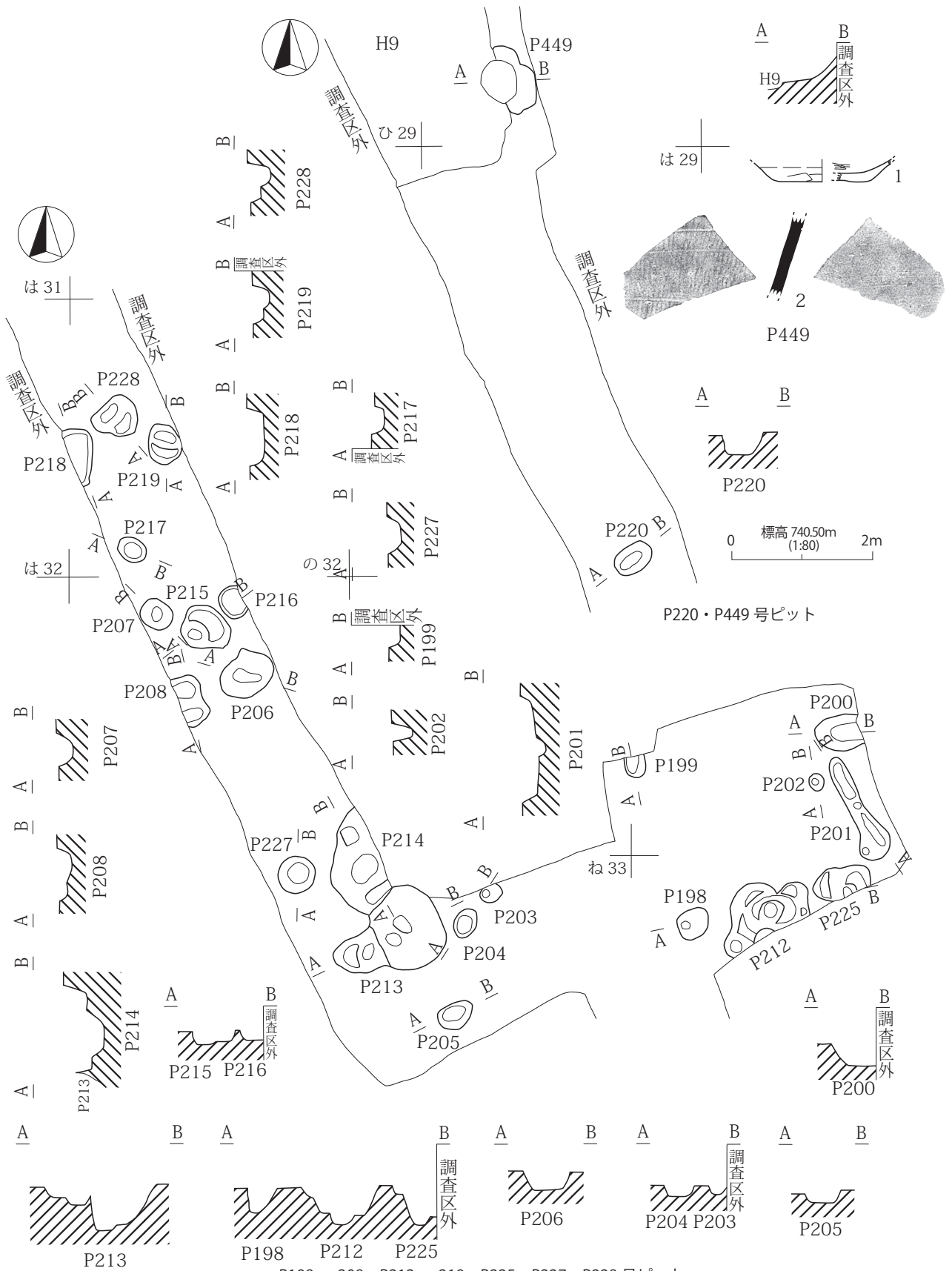
第33図 ピット(1)



第34図 ピット(2)

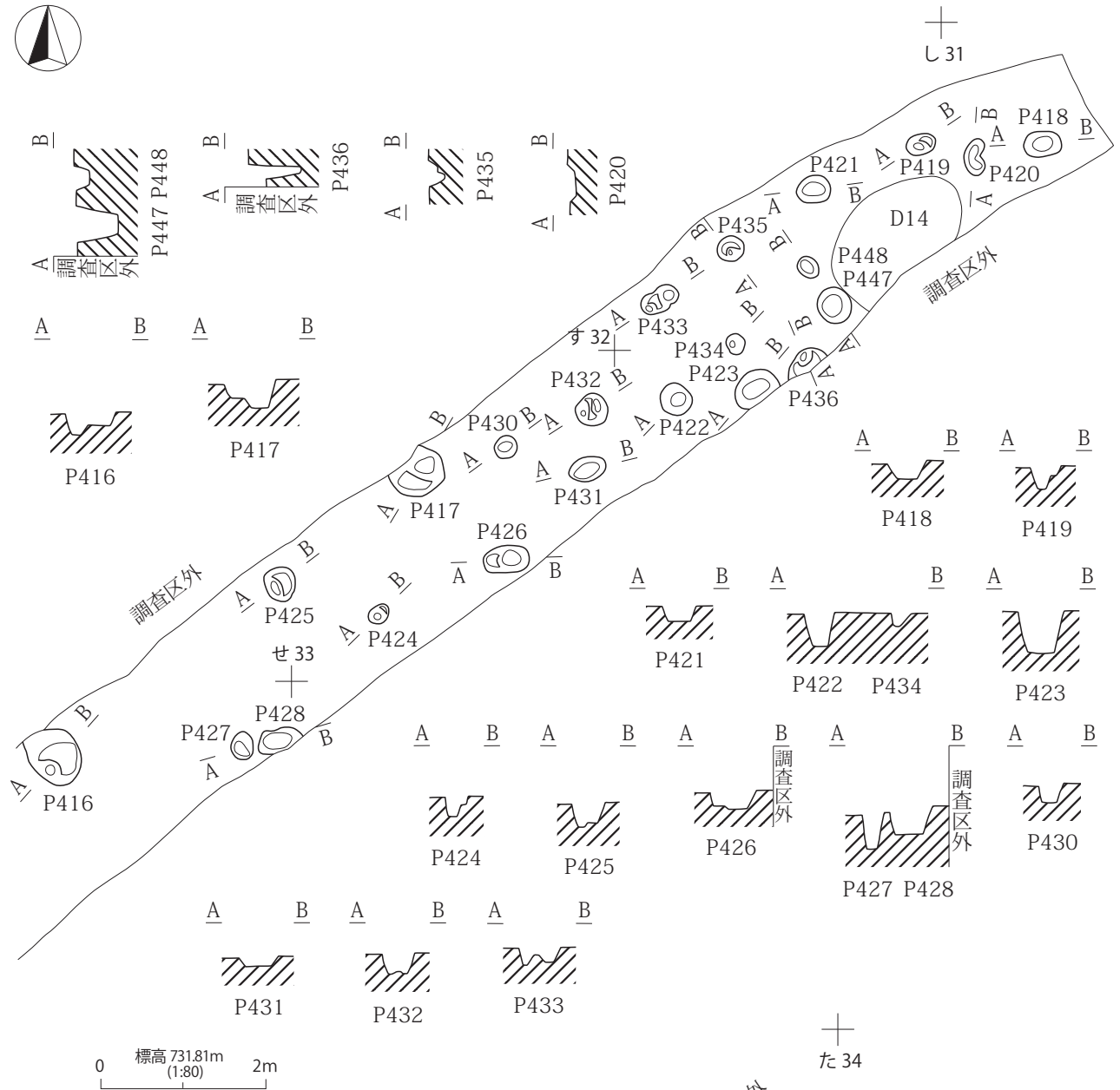


第35図 ピット(3)

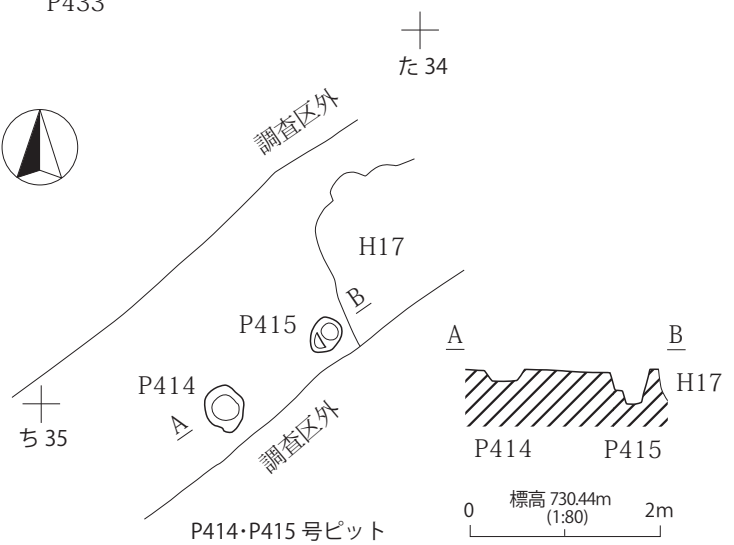


P198 ~ 208・P212 ~ 219・P225・P227・P228号ピット

第36図 ピット(4)

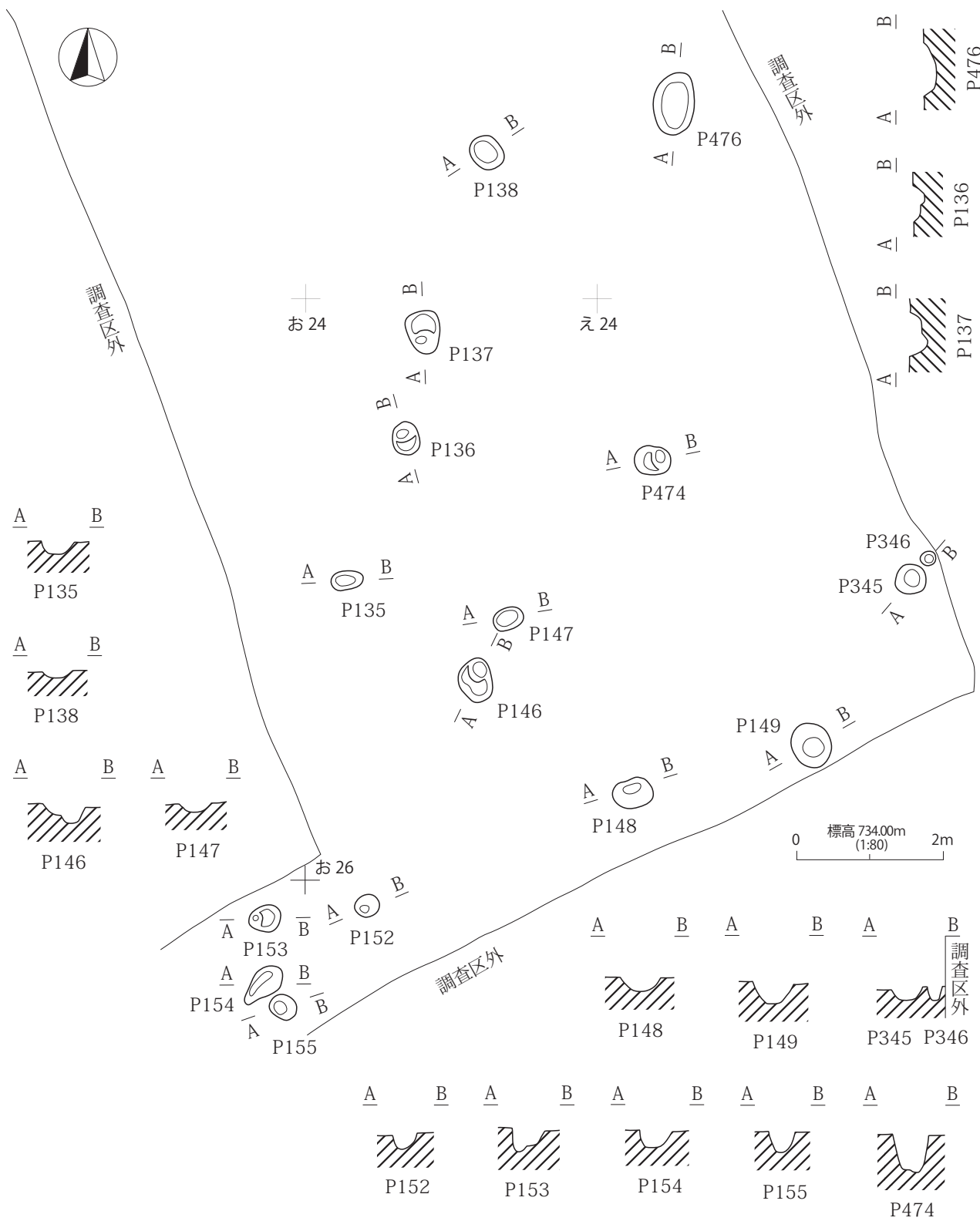


P416~428・P430~436・P447・P448 号ピット



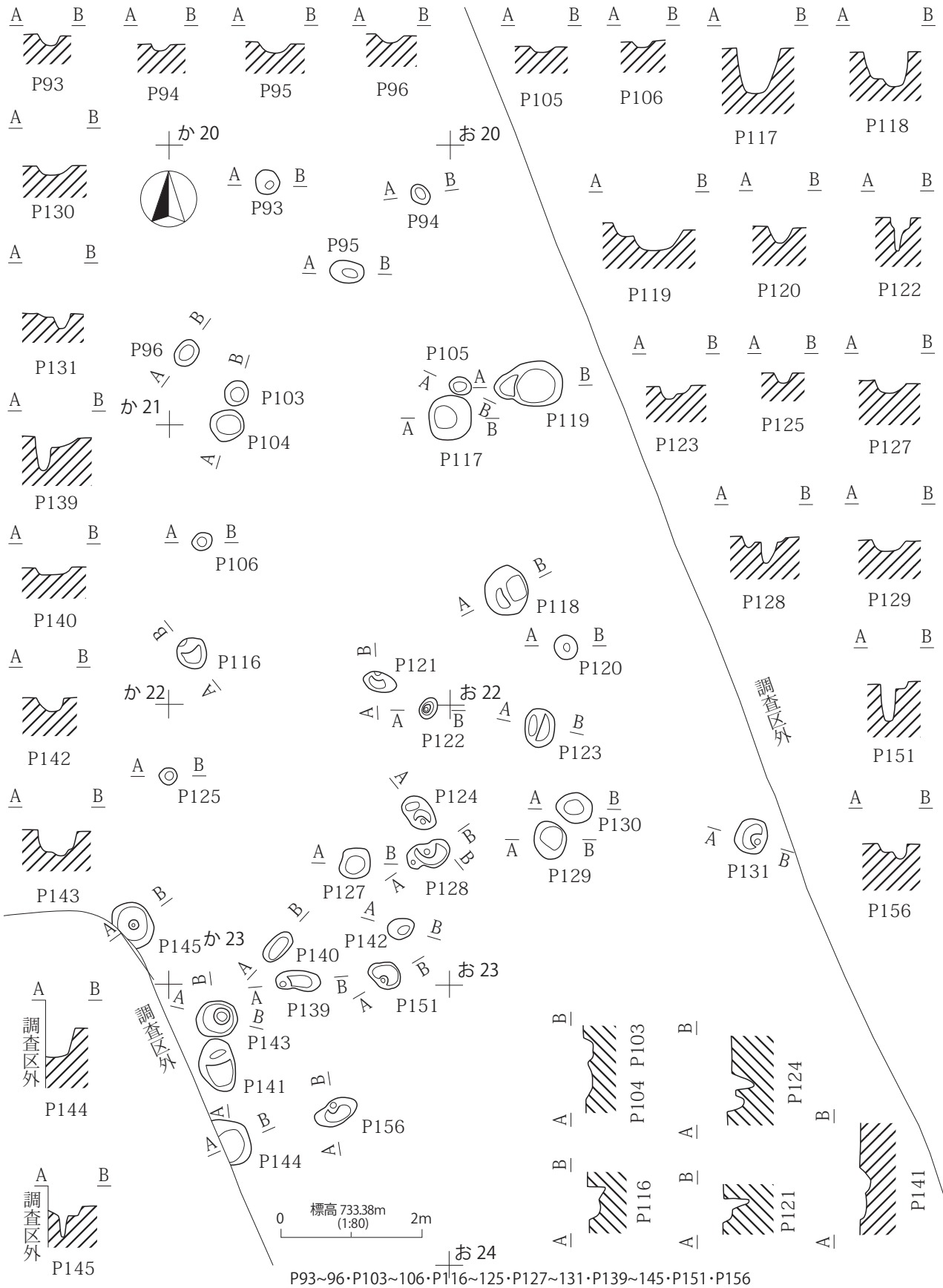
P414・P415 号ピット

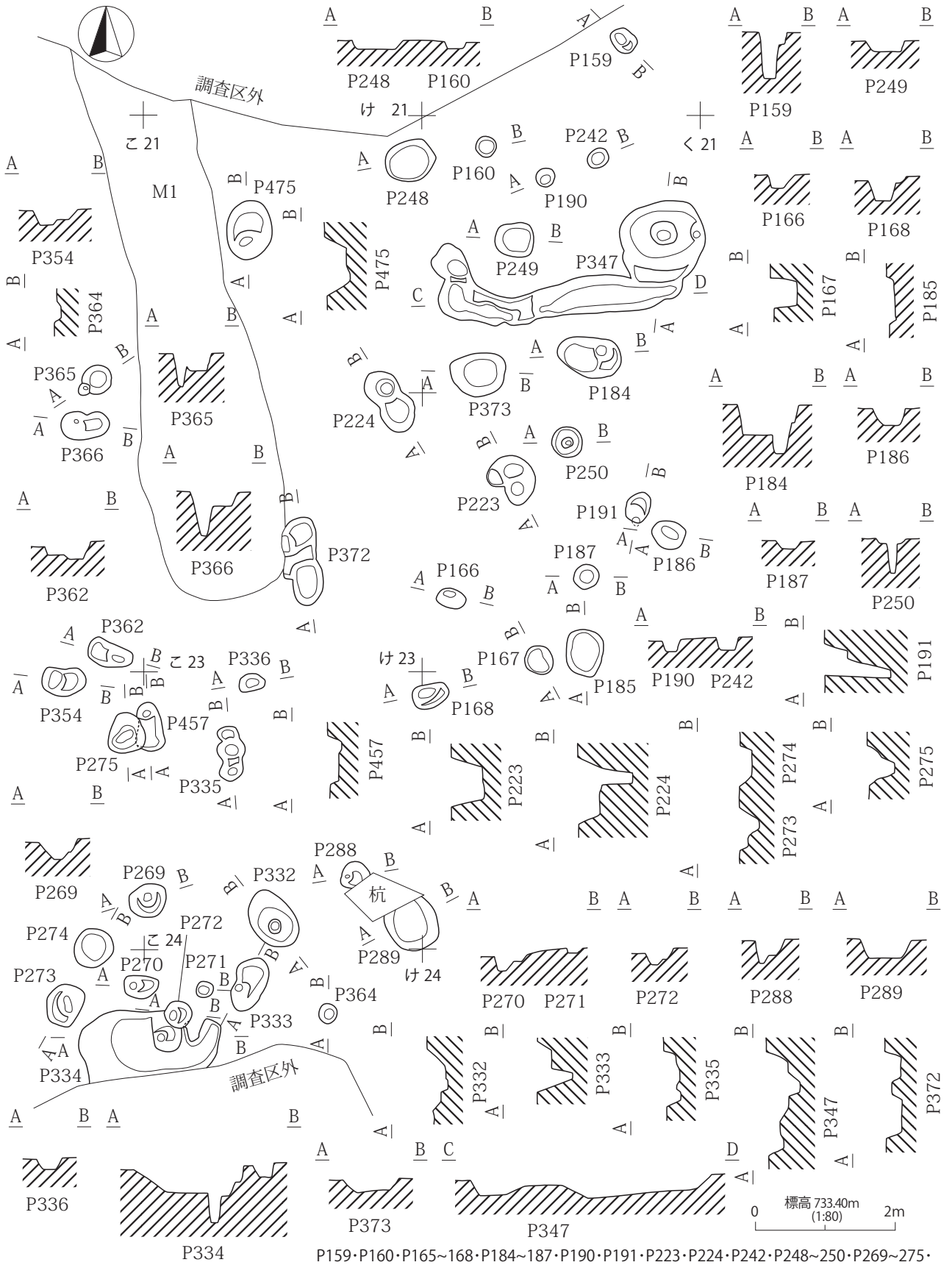
第 38 図 ピット (6)



P135~138・P146~149・P152~155・P345・P346・P474・P476 号ピット

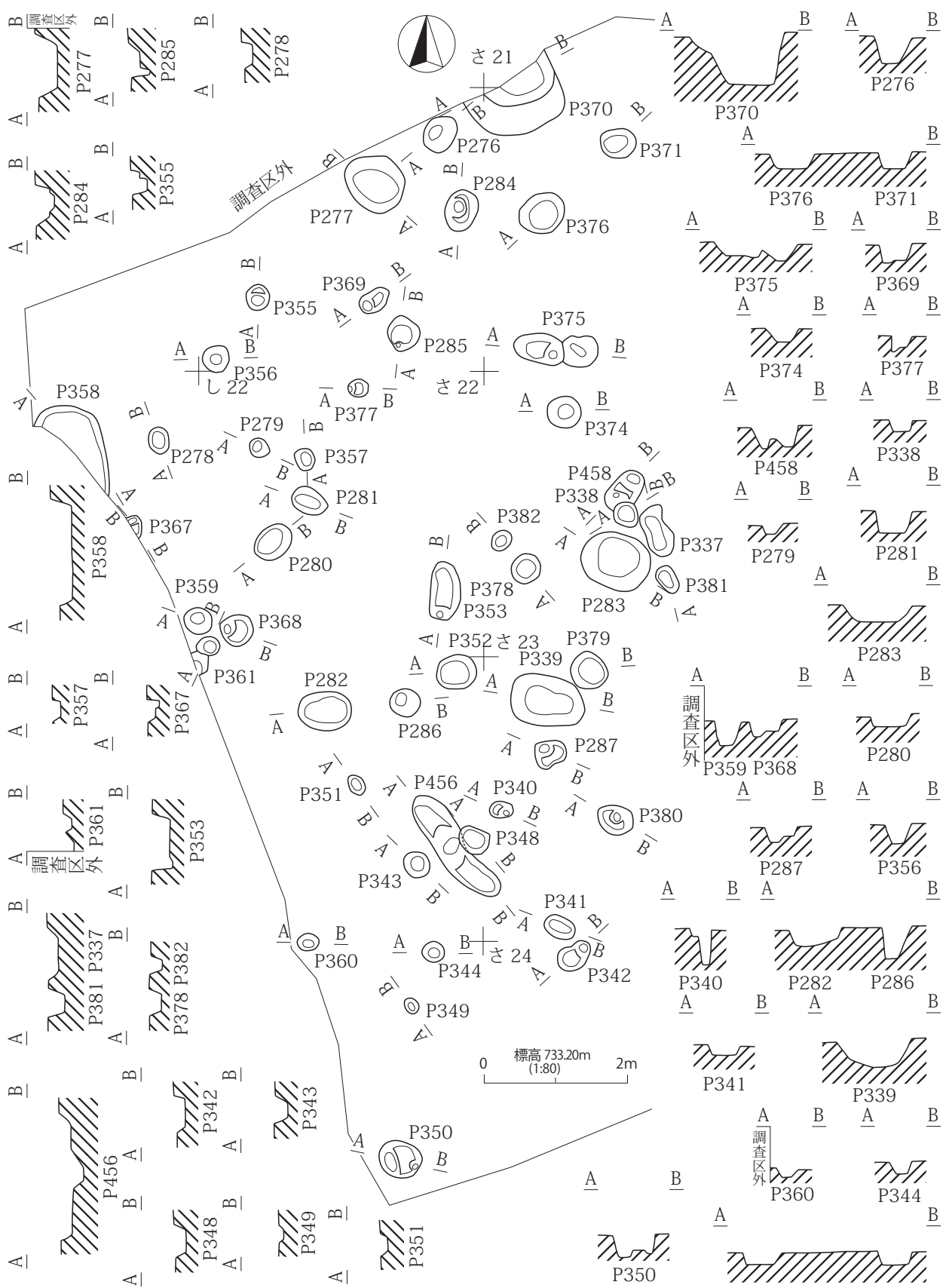
第40図 ピット(8)





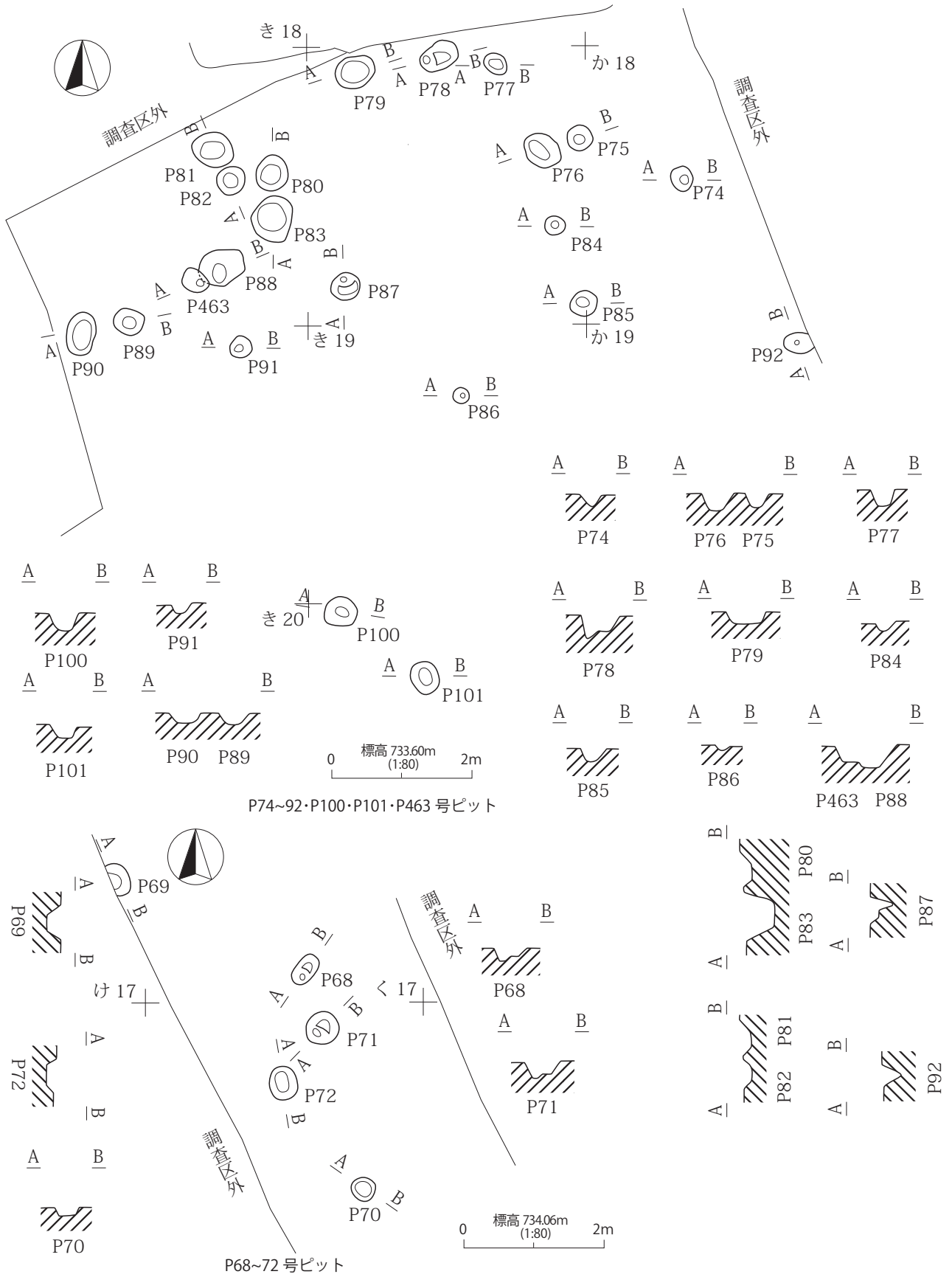
P159・P160・P165~168・P184~187・P190・P191・P223・P224・P242・P248~250・P269~275・P288・P289・P332~336・P345・347・P362・P364~366・P372・P373・P457・P475 号ピット

第43図 ピット(11)

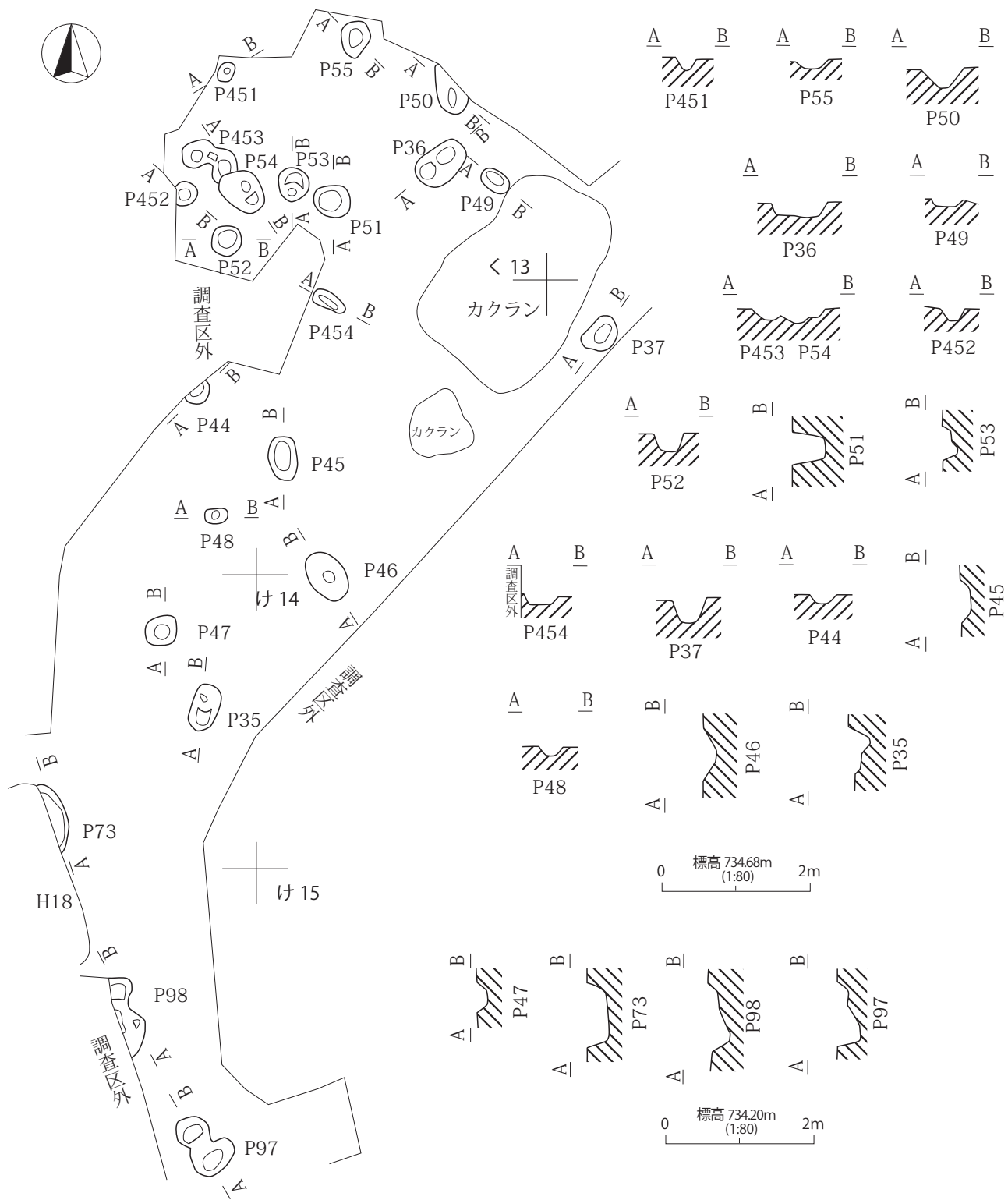


P276~287・P337~344・P348~353・P355~361・P367~371・P374~382・P456・P458

第44図 ピット(12)

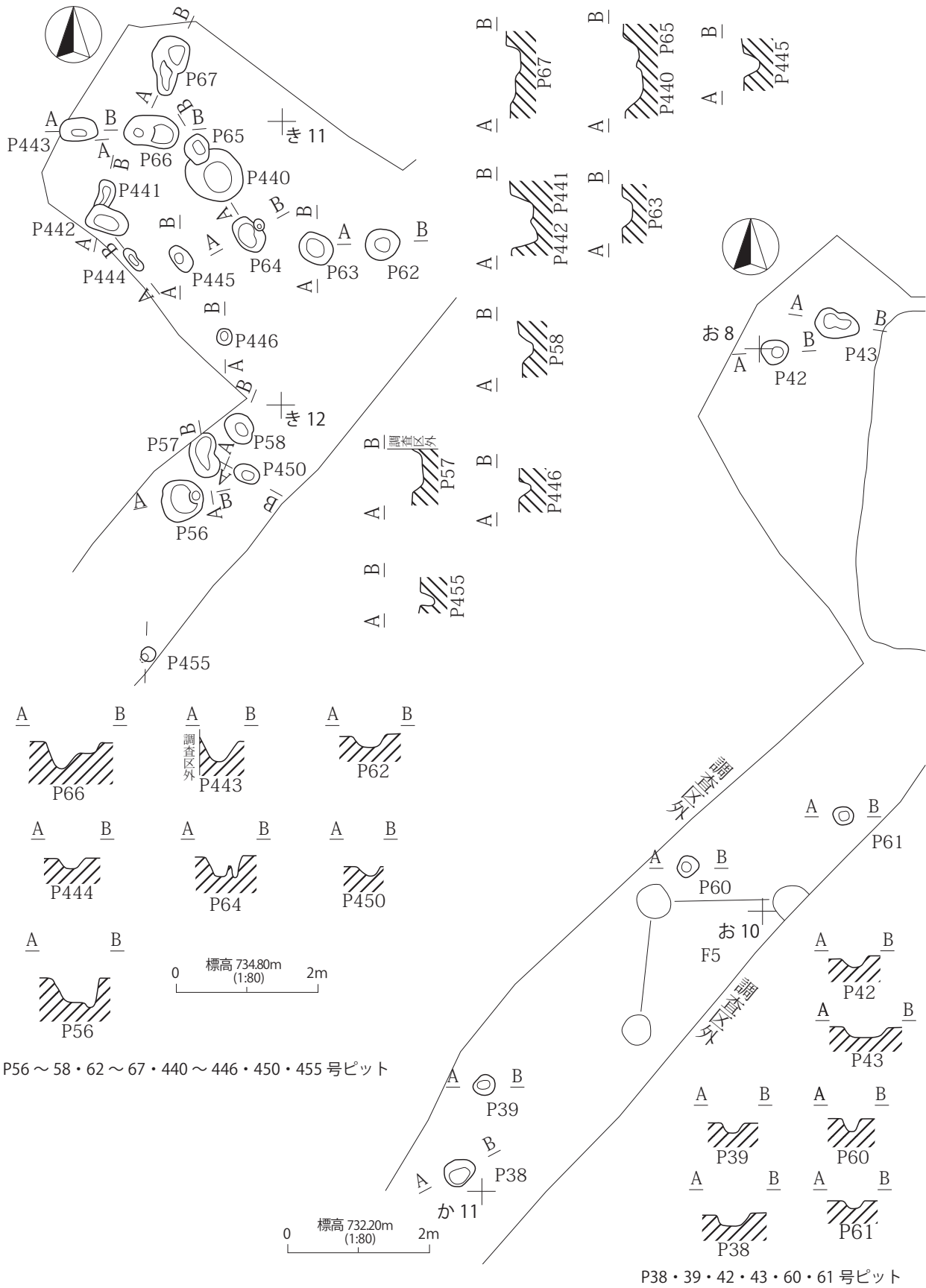


第45図 ピット(13)

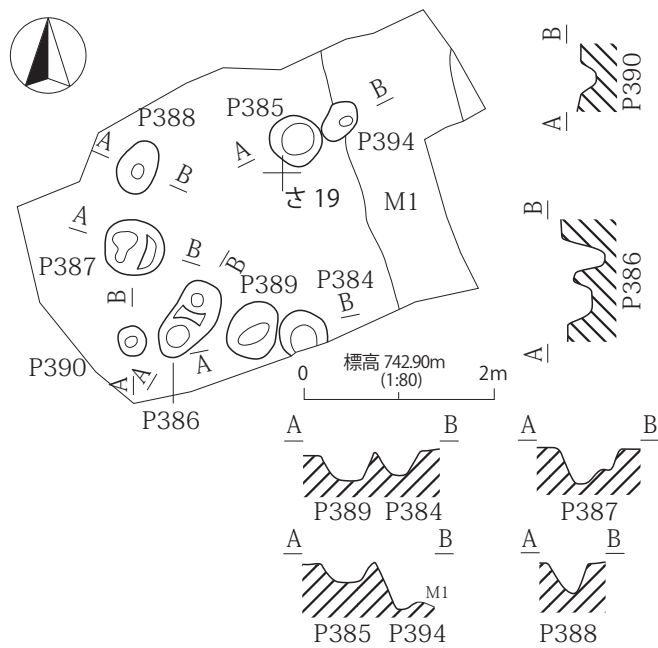
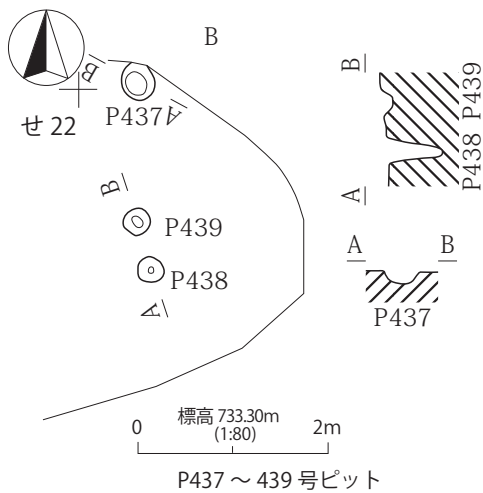


P35~37・P44~55・P73・P97・P98・P451~454 号ピット

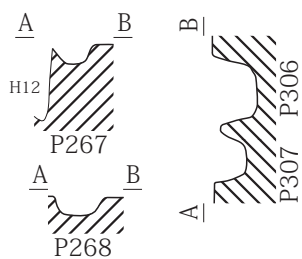
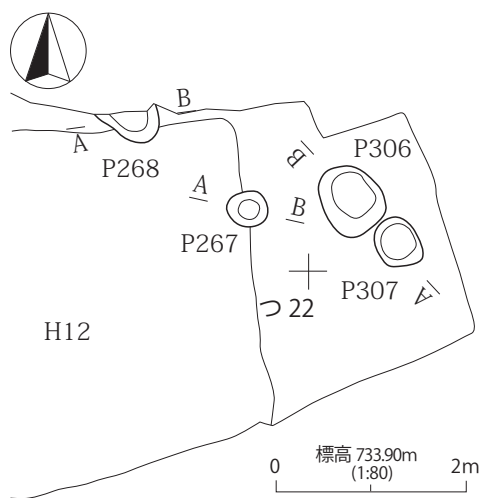
第46図 ピット (14)



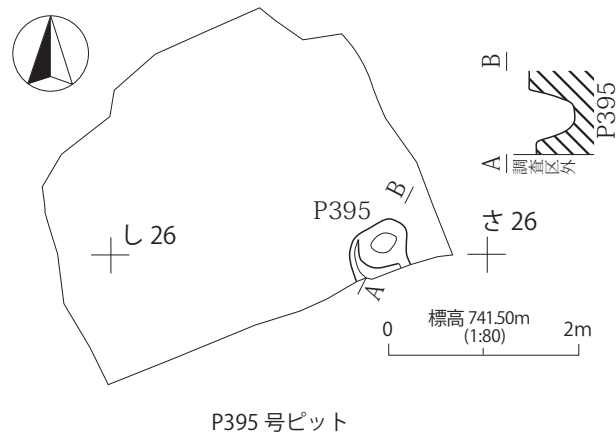
第47図 ピット(15)



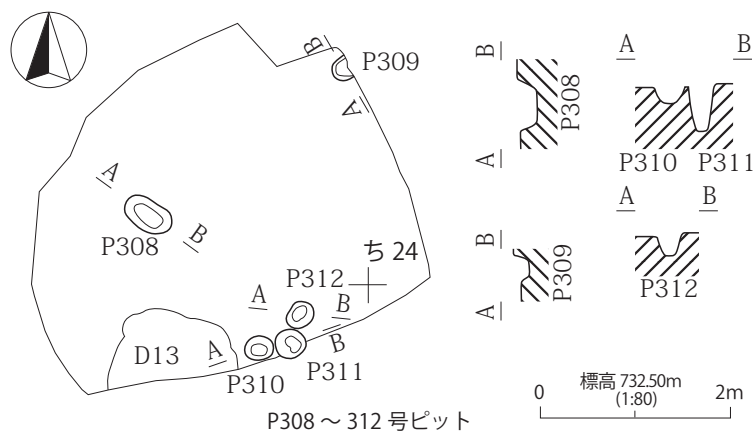
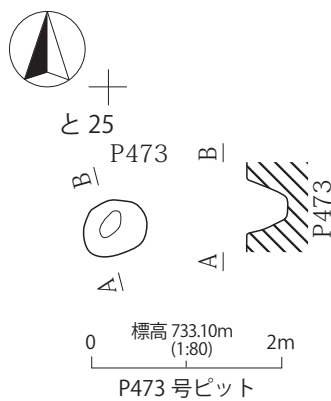
P384 ~ 390・394 号ピット



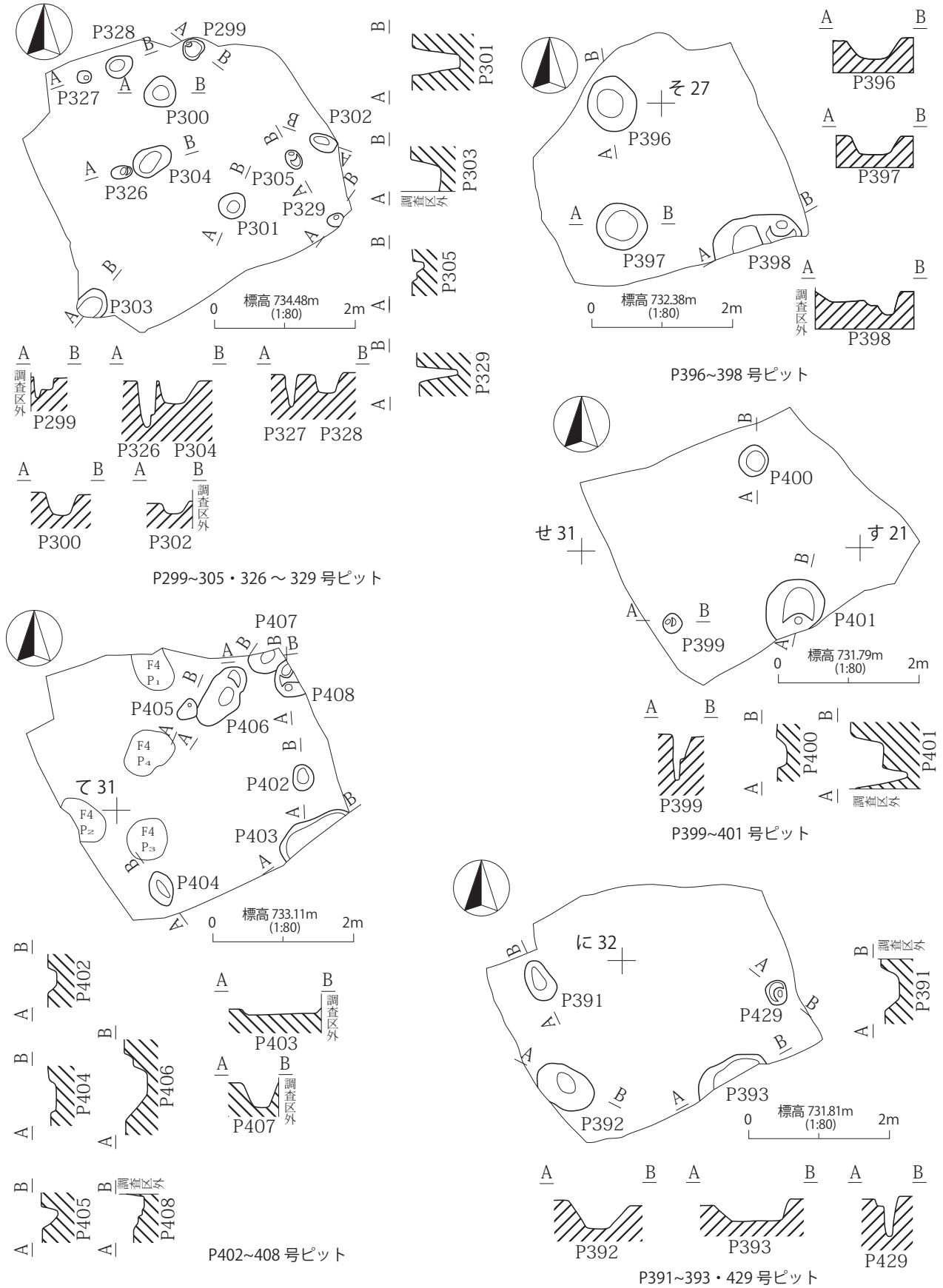
P267・268・306・307 号ピット



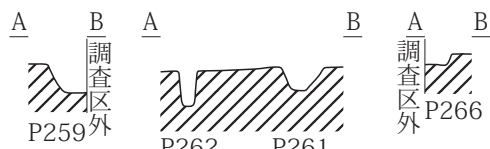
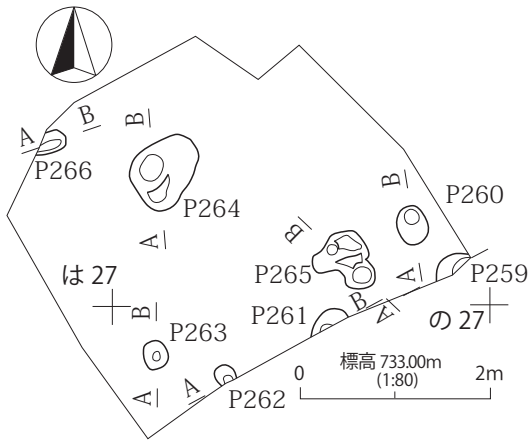
P395 号ピット



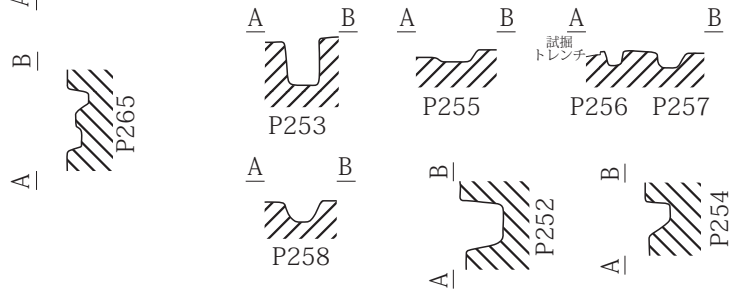
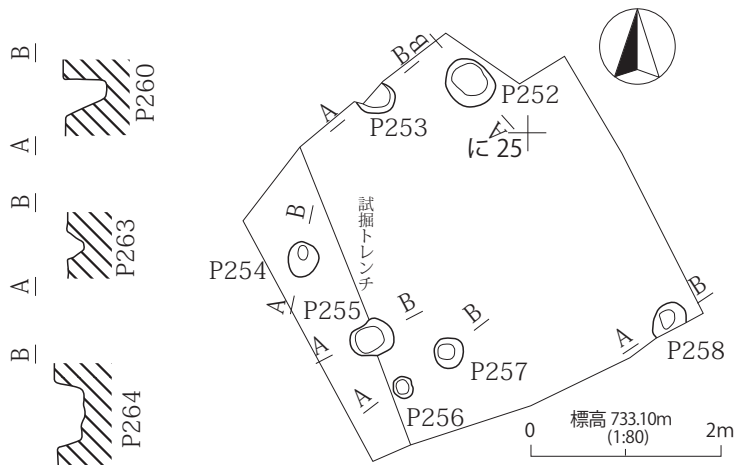
第 48 図 ピット (16)



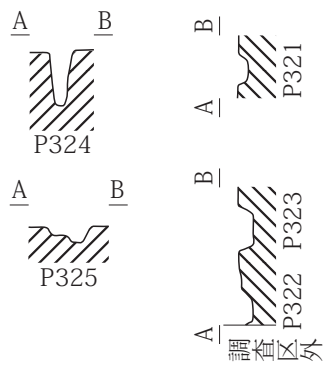
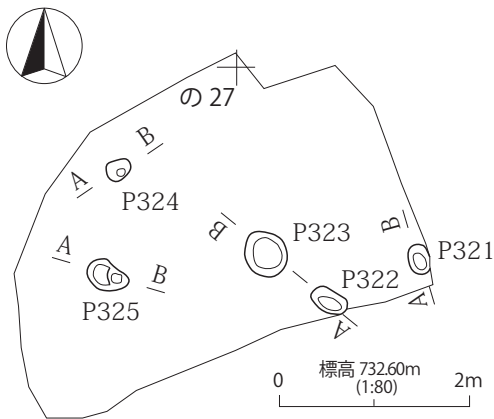
第49図 ピット(17)



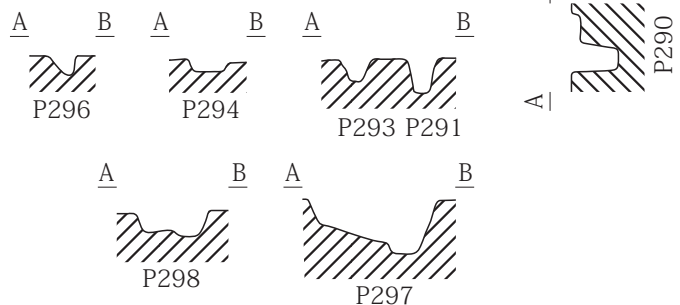
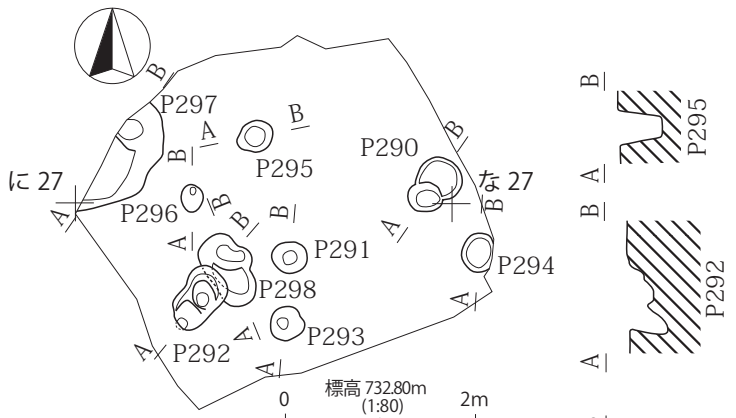
P259~266号ピット



P252~258号ピット



P321~325号ピット



P290~298号ピット

第50図 ピット(18)

ビット計測表(1)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P1	楕円形	0.42	0.34	0.11	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P2	円形	0.30	0.28	0.20	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P3	(円形)	(0.55)	0.54	0.57	調査区外にのびる。	10YR4/6 ローム粒子多含。	な 21
P4	楕円形	0.50	0.40	0.19	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P5	円形	0.55	0.53	0.25	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	に 21
P6	円形	0.34	0.31	0.16	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	に 20
P7	円形	0.37	0.36	0.14	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	に 21
P8	楕円形	0.53	0.44	0.23	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	ぬ 21
P9	楕円形	(0.65)	0.53	0.23	調査区外にのびる。	10YR4/6 ローム粒子多含。	ね 22
P10	楕円形	0.47	0.35	0.18	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	ね 22
P11	円形	0.74	0.69	0.35	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	ぬ 21
P12	楕円形	0.80	0.66	0.28	—	10YR2/2。	ぬ 21
P13	円形	0.64	0.61	0.42	—	10YR2/2。	ふ 23
P14	楕円形	0.32	0.26	0.19	—	10YR4/6 ローム粒子多含。	ふ 23
P15	—	—	—	0.51	調査区外にのびる。	10YR2/2。	な 19
P16	楕円形	0.83	0.58	0.42	—	10YR2/2。	ね 20
P17	楕円形	0.52	0.37	0.23	—	10YR2/2。	ぬ 19
P18	楕円形	(1.50)	0.99	0.82	調査区外にのびる。	10YR2/2。	と 18
P20	楕円形	0.37	0.25	0.20	—	10YR2/2。	に 21
P21	楕円形	1.14	0.53	0.32	—	10YR4/6。	つ 18
P22	楕円形	0.36	0.27	0.24	—	10YR4/6。	た 16
P23	楕円形	1.21	0.71	0.24	—	10YR2/2。	そ 16
P24	—	—	—	0.39	調査区外にのびる。	10YR2/2。	せ 16
P25	楕円形	0.80	0.59	0.63	—	10YR4/6 ローム含。	さ 9
P26	楕円形	0.42	0.36	0.27	—	10YR4/6 ローム含。	さ 9
P27	楕円形	0.46	0.29	0.20	—	10YR4/6 ローム含。	さ 9
P28	楕円形	0.66	0.58	0.17	—	10YR4/6 ローム含。	こ 9
P29	楕円形	0.45	0.39	0.18	—	10YR4/6 ローム含。	こ 9
P30	楕円形	0.54	0.40	0.20	—	10YR3/2 ローム含。	こ 8
P31	円形	0.25	0.25	0.27	—	10YR5/2 ローム含。	く 6
P32	楕円形	0.47	0.27	0.16	—	10YR2/2。	く 6
P33	楕円形	0.59	0.49	0.10	—	10YR2/2 ローム含。	き 5
P34	楕円形	0.51	0.43	0.17	—	10YR2/2。	き 4
P35	楕円形	0.64	0.38	0.21	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P36	楕円形	0.74	0.46	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	く 12
P37	楕円形	0.54	0.38	0.37	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 13
P38	楕円形	0.46	0.38	0.17	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	か 10
P39	円形	0.29	0.28	0.19	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	お 10
P42	楕円形	0.40	0.32	0.14	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 7
P43	楕円形	0.62	0.34	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 7
P44	—	—	—	0.12	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 13
P45	楕円形	0.58	0.38	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 13
P46	楕円形	0.70	0.40	0.22	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 13
P47	楕円形	0.48	0.40	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P48	楕円形	0.32	0.20	0.13	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 13
P49	楕円形	0.40	0.26	0.11	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P50	楕円形	(0.74)	(0.32)	0.29	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P51	楕円形	0.52	0.44	0.45	—	10YR6/4 (ローム2次堆積)。柱痕(10YR3/2) φ 16cm	く 12
P52	円形	0.42	0.40	0.29	—	10YR6/4 (ローム2次堆積)。	け 12
P53	円形	0.46	0.42	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P54	楕円形	0.66	0.46	0.23	P453を切る。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P55	楕円形	0.50	0.40	0.18	—	10YR5/3 7/4 ローム少含。	く 12
P56	円形	0.58	0.56	0.43	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P57	楕円形	(0.62)	0.36	0.22	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P58	楕円形	0.44	0.38	0.19	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P60	楕円形	0.30	0.22	0.18	—	10YR5/3 7/4 ローム少含。	お 9
P61	楕円形	0.29	0.26	0.12	—	10YR5/3 7/4 ローム少含。	え 9
P62	円形	0.46	0.42	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	か 11
P63	楕円形	0.50	0.42	0.15	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	か 11
P64	不整形	0.52	0.48	0.29	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 11
P65	円形	0.40	0.36	0.19	P440を切る。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 11
P66	楕円形	0.80	0.44	0.41	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 10
P67	楕円形	0.80	0.44	0.41	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 10
P68	楕円形	0.47	0.28	0.18	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 16
P69	—	—	—	0.19	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 16
P70	円形	0.34	0.34	0.12	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17

ピット計測表(2)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P71	円形	0.50	0.46	0.25	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17
P72	楕円形	0.48	0.40	0.16	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17
P73	—	—	—	0.31	H18 に切られる	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P74	楕円形	0.36	0.32	0.18	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	お 18
P75	円形	0.36	0.36	0.20	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	お 18
P76	楕円形	0.58	0.44	0.24	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P77	楕円形	0.36	0.28	0.24	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P78	楕円形	0.60	0.40	0.36	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P79	楕円形	0.60	0.46	0.18	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P80	楕円形	0.52	0.44	0.16	—	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P81	楕円形	0.60	0.52	0.16	—	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P82	円形	0.42	0.40	0.14	—	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P83	楕円形	0.64	0.56	0.48	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 18
P84	円形	0.32	0.30	0.16	—	10YR4/3 ローム多含。	か 18
P85	円形	0.40	0.36	0.20	—	10YR4/3 ローム多含。	お 18
P86	円形	0.24	0.24	0.08	—	10YR6/6 黒色土ブロック多含。	か 19
P87	円形	0.42	0.40	0.32	—	10YR3/3。	か 18
P88	楕円形	0.58	0.50	0.40	P463 を切る。	10YR3/3。	き 18
P89	楕円形	0.42	0.36	0.16	—	10YR3/3。	き 18
P90	楕円形	0.64	0.38	0.14	—	10YR3/3。	き 18
P91	円形	0.33	0.32	0.18	—	10YR4/3。	き 19
P92	楕円形	(0.44)	0.30	0.26	調査区外にのびる。	10YR4/3 ロームブロック・軽石多含。	お 18
P93	円形	0.36	0.34	0.16	—	10YR4/3。	お 20
P94	楕円形	0.32	0.25	0.12	—	10YR4/3。	お 20
P95	楕円形	0.48	0.32	0.16	—	10YR4/3。	お 20
P96	楕円形	0.44	0.32	0.12	—	10YR4/3。	お 20
P97	不整形	0.82	0.30	0.58	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 15
P98	—	—	—	0.33	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 15
P99	楕円形	0.51	0.27	0.41	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	き 19
P100	楕円形	0.45	0.40	0.25	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 20
P101	楕円形	0.48	0.40	0.20	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 20
P102	楕円形	0.58	0.52	0.71	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 20
P103	楕円形	0.36	0.32	0.14	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	お 20
P104	円形	0.48	0.46	0.10	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	お 20
P105	楕円形	0.32	0.24	0.08	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	え 20
P106	楕円形	0.30	0.26	0.12	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	お 20
P107	円形	0.45	0.42	0.57	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 22
P108	楕円形	0.75	0.39	0.15	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 22
P109	楕円形	0.73	0.48	0.30	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム含。	か 22
P110	円形	0.36	0.35	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 21
P111	楕円形	0.49	0.37	0.47	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 21
P112	円形	0.26	0.24	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 21
P113	楕円形	0.80	0.67	0.27	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 21
P114	円形	0.51	0.49	0.30	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 20
P115	楕円形	0.76	0.40	0.27	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 20
P116	円形	0.48	0.44	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 21
P117	円形	0.70	0.64	0.64	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 20
P118	円形	0.68	0.64	0.62	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 21
P119	楕円形	1.00	0.64	0.34	H7 を切る。	10YR4/3 2/2・7/4 ローム少含。	え 20
P120	楕円形	0.36	0.32	0.27	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 21
P121	楕円形	0.48	0.26	0.36	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 21
P122	楕円形	0.32	0.24	0.48	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 21
P123	楕円形	0.56	0.44	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 22
P124	楕円形	0.60	0.32	0.36	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P125	円形	0.24	0.24	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P126	円形	0.43	0.39	0.35	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	か 21
P127	円形	0.48	0.46	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P128	楕円形	0.64	0.40	0.32	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P129	楕円形	0.56	0.48	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 22
P130	楕円形	0.52	0.44	0.14	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 22
P131	楕円形	0.52	0.44	0.24	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	う 22
P135	楕円形	0.44	0.24	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 24
P136	楕円形	0.46	0.36	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 24
P137	楕円形	0.60	0.44	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 24
P138	楕円形	0.48	0.40	0.10	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 23
P139	楕円形	0.64	0.32	0.48	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P140	楕円形	0.52	0.28	0.14	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22

ビット計測表(3)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P141	楕円形	0.76	0.52	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P142	楕円形	0.38	0.30	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P143	楕円形	0.60	0.50	0.36	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P144	—	—	—	0.44	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P145	楕円形	0.68	(0.48)	0.48	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	か 22
P146	楕円形	0.56	0.44	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 25
P147	楕円形	0.40	0.28	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 25
P148	楕円形	0.56	0.40	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	う 25
P149	楕円形	0.62	0.52	0.32	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	う 25
P151	楕円形	0.48	0.40	0.52	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P152	楕円形	0.32	0.28	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 26
P153	楕円形	0.44	0.36	0.34	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P154	楕円形	0.68	0.35	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P155	楕円形	0.38	0.32	0.32	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P156	楕円形	0.64	0.36	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P157	楕円形	0.46	0.40	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P158	楕円形	0.50	0.43	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P159	楕円形	0.39	0.30	0.68	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 20
P160	円形	0.30	0.29	0.11	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P161	円形	0.32	0.30	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P162	楕円形	0.77	0.55	0.36	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 21
P163	楕円形	0.84	0.58	0.74	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 22
P164	楕円形	0.72	0.54	0.63	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P165	楕円形	0.67	0.58	0.50	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 22
P166	楕円形	0.41	0.28	0.20	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P167	円形	0.42	0.41	0.39	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P168	楕円形	0.53	0.38	0.35	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 23
P169	楕円形	0.88	0.62	0.41	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 22
P170	不整形	1.62	1.32	0.78	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 21
P171	楕円形	0.51	(0.40)	0.37	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	な 37
P172	円形	0.36	0.34	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 37
P173	—	—	—	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 38
P174	—	—	—	0.51	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	な 38
P175	楕円形	0.28	0.25	0.51	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	な 38
P176	—	—	—	0.29	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム少含。	な 38
P177	—	—	—	0.60	調査区外にのびる、P209を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	に 35
P178	楕円形	0.55	0.46	0.36	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P179	楕円形	1.00	(0.51)	0.27	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P180	—	—	—	0.17	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P181	楕円形	0.72	0.52	0.40	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P182	楕円形	0.35	0.30	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 35
P183	楕円形	1.03	0.92	0.31	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 36
P184	楕円形	0.94	0.60	0.72	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P185	楕円形	0.67	0.57	0.15	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P186	楕円形	0.48	0.41	0.24	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	く 22
P187	円形	0.36	0.36	0.12	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	く 22
P188	楕円形	0.86	0.66	0.33	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	き 22
P189	円形	0.27	0.26	0.75	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	き 21
P190	円形	0.27	0.26	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	く 21
P191	楕円形	0.44	0.34	0.95	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	く 22
P192	—	—	—	0.21	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	な 38
P193	—	—	—	0.10	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	に 37
P194	不整形	(1.08)	1.00	0.33	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	な 38
P195	楕円形	0.29	0.25	0.15	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	に 36
P196	楕円形	0.32	0.27	0.17	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 35
P197	不整形	0.59	0.28	0.17	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 33
P198	楕円形	0.52	0.40	0.36	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 33
P199	—	—	—	0.16	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 32
P200	—	—	—	0.31	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 32
P201	楕円形	1.56	0.20	0.36	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 32
P202	楕円形	0.28	0.20	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	ぬ 32
P203	楕円形	0.32	(0.24)	0.13	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P204	楕円形	0.48	0.32	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P205	楕円形	0.54	0.36	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P206	楕円形	0.80	0.60	0.29	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	の 32
P207	楕円形	0.45	0.40	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	の 32
P208	楕円形	0.76	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32

ピット計測表(4)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P209	楕円形	(0.54)	0.37	0.76	P177 に切られる	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 35
P210	不整形	0.35	0.29	0.11	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	ぬ 34
P211	楕円形	0.55	0.43	0.24	P461 を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	き 20
P212	不整形	—	—	0.54	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム・4/3 少含。	ぬ 33
P213	不整形	1.62	1.08	0.64	調査区外にのびる、P214 を切る。	10YR2/2 7/4 ローム・4/3 少含。	ね 33
P214	楕円形	(1.32)	(0.80)	0.60	P213・調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム・4/3 少含。	の 32
P215	楕円形	0.76	0.64	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32
P216	楕円形	0.48	(0.32)	0.12	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32
P217	楕円形	0.40	0.32	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 31
P218	—	—	—	0.24	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 31
P219	楕円形	0.58	(0.48)	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 31
P220	楕円形	0.57	0.38	0.33	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	は 30
P221	楕円形	1.33	(0.68)	0.35	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P222	—	—	—	0.34	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 26
P223	不整形	0.76	0.62	0.50	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 22
P224	楕円形	0.98	0.48	0.78	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	け 22
P225	楕円形	0.42	(0.26)	0.58	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 33
P226	楕円形	0.88	0.60	0.25	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P227	円形	0.54	0.53	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 33
P228	楕円形	0.68	0.56	0.38	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 31
P229	—	—	—	0.22	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P230	—	—	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P231	楕円形	0.58	0.49	0.19	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム少含。	ひ 26
P232	円形	0.45	0.41	0.23	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム少含。	ふ 25
P233	楕円形	0.42	0.28	0.14	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 25
P234	楕円形	0.36	0.30	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 24
P235	楕円形	(0.35)	0.29	0.13	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	へ 24
P236	楕円形	0.40	0.35	0.11	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 24
P237	—	—	—	0.18	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	ひ 26
P238	楕円形	0.44	0.33	0.40	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P239	円形	0.38	0.36	0.15	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P240	楕円形	0.36	0.31	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P241	円形	0.28	0.28	0.12	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P242	楕円形	0.32	0.28	0.19	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P243	楕円形	0.62	0.46	0.33	P459 を切る。	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P244	楕円形	0.38	0.30	0.23	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P245	楕円形	0.43	0.37	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P246	楕円形	0.56	0.51	0.42	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P247	楕円形	0.49	0.39	0.25	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 20
P248	楕円形	0.73	0.58	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P249	楕円形	0.57	0.49	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P250	円形	0.43	0.43	0.51	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 22
P251	楕円形	0.34	0.30	0.19	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P252	楕円形	0.55	0.47	0.47	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 24
P253	—	—	—	0.50	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 24
P254	楕円形	0.38	0.31	0.25	トレンチに切られる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 25
P255	楕円形	0.46	0.32	0.13	トレンチに切られる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 25
P256	楕円形	0.24	0.20	0.15	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 25
P257	円形	0.32	0.39	0.17	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 25
P258	楕円形	0.38	(0.28)	0.22	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	な 25
P259	—	—	—	0.30	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P260	楕円形	0.40	0.32	0.46	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P261	—	—	—	0.25	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P262	—	—	—	0.38	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P263	楕円形	0.30	0.25	0.19	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P264	楕円形	0.84	0.64	0.31	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P265	不整形	0.66	0.58	0.24	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P266	楕円形	(0.28)	0.22	0.15	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	は 26
P267	円形	0.44	0.40	0.22	H12 を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	つ 21
P268	—	—	—	0.19	H12 を切る。	10YR7/4 ローム主体、4/3・2/2 少含。	つ 21
P269	楕円形	0.58	0.49	0.30	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 23
P270	楕円形	0.50	0.32	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P271	円形	0.24	0.24	0.07	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P272	円形	0.40	0.37	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P273	楕円形	0.62	0.52	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 24
P274	円形	0.59	0.55	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 23
P275	円形	0.57	0.52	0.41	P457 を切る。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23

ビット計測表(5)

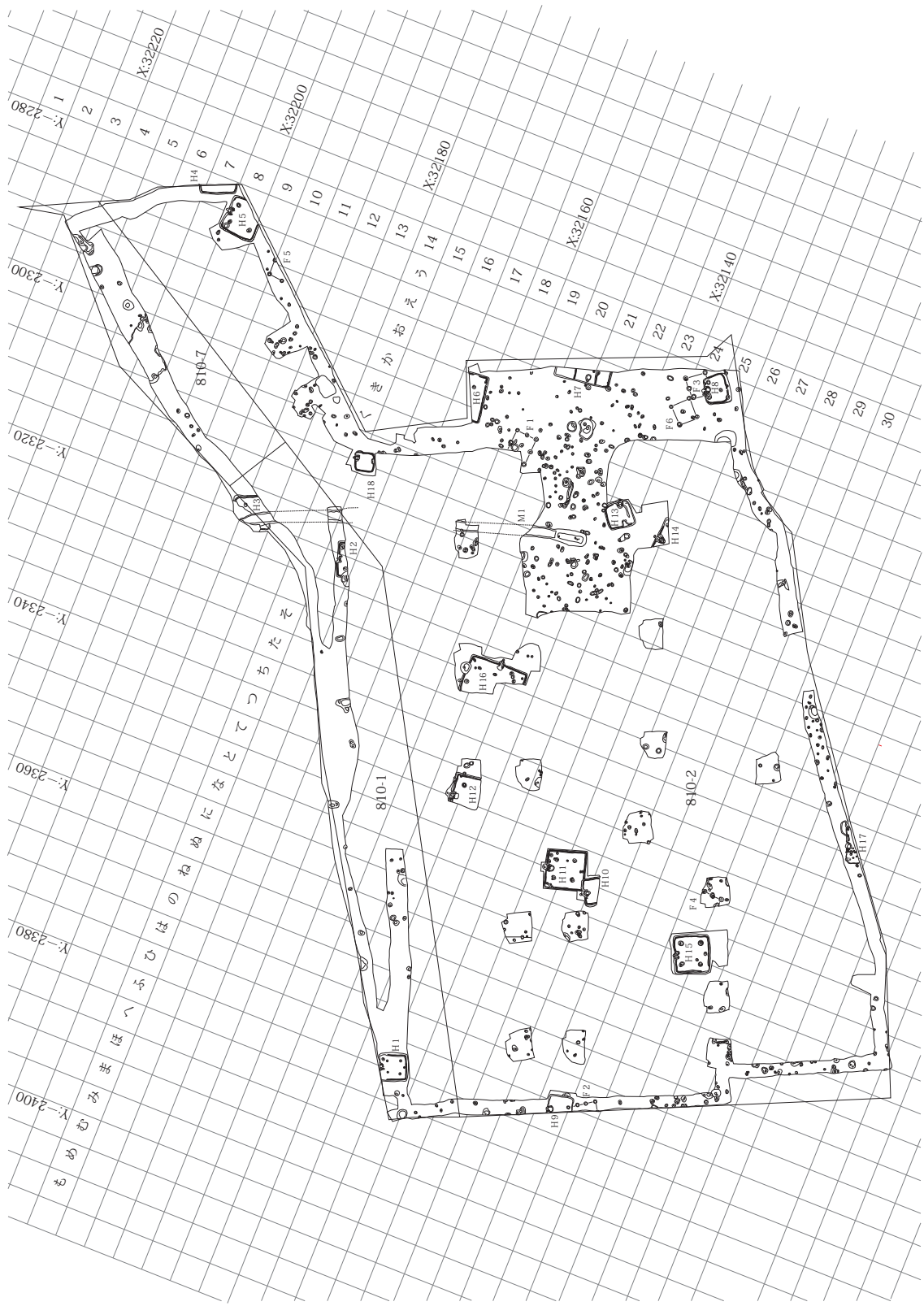
遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P276	楕円形	0.56	0.42	0.41	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P277	楕円形	0.88	0.76	0.33	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P278	楕円形	0.37	0.29	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 22
P279	楕円形	0.30	0.25	0.15	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P280	楕円形	0.58	0.42	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P281	楕円形	0.51	0.36	0.33	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P282	楕円形	0.74	0.54	0.26	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 23
P283	楕円形	0.99	0.77	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P284	楕円形	0.59	0.45	0.27	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P285	円形	0.50	0.46	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P286	円形	0.42	0.40	0.46	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 23
P287	楕円形	0.45	0.34	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 23
P288	(円形)	0.43	(0.32)	0.35	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	け 23
P289	楕円形	—	0.74	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 23
P290	楕円形	0.65	0.48	0.52	—	10YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	と 26
P291	楕円形	0.38	0.32	0.37	—	10YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	な 27
P292	楕円形	0.68	0.44	0.41	P298 を切る。	10YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	な 27
P293	円形	0.36	0.35	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	な 27
P294	楕円形	0.42	(0.32)	0.12	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	と 27
P295	楕円形	0.38	0.33	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	な 26
P296	楕円形	0.28	0.23	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	な 26
P297	—	—	—	0.58	調査区外にのびる。	10YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	な 26
P298	楕円形	0.79	0.52	0.27	P292 に切られる。	10YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	な 27
P299	楕円形	0.34	0.27	0.29	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	ち 27
P300	円形	0.44	0.43	0.33	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	ち 27
P301	円形	0.38	0.37	0.69	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	ち 27
P302	楕円形	0.40	0.24	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	ち 27
P303	—	—	—	0.41	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	つ 28
P304	楕円形	0.58	0.39	0.34	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	ち 27
P305	楕円形	0.29	0.20	0.18	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	ち 27
P306	楕円形	0.78	0.60	0.45	—	10YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	ち 21
P307	楕円形	0.56	0.44	0.34	—	10YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	ち 21
P308	楕円形	0.54	0.32	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	ち 23
P309	—	—	—	0.17	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム多含。	ち 23
P310	楕円形	0.30	0.26	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	ち 24
P311	円形	0.32	0.30	0.49	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ち 24
P312	楕円形	0.30	0.24	0.22	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	ち 24
P313	楕円形	1.00	0.60	0.31	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	か 27
P314	円形	0.44	0.40	0.41	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 27
P315	—	—	—	0.40	調査区外にのびる。	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 28
P316	楕円形	1.04	0.36	0.14	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 27
P317	楕円形	0.24	0.16	0.90	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	お 27
P318	楕円形	0.56	0.32	0.16	—	10YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P319	楕円形	0.28	0.22	0.18	—	10YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P320	円形	0.60	0.58	0.52	P331 を切る。	10YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P321	楕円形	0.32	(0.20)	0.12	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	ね 28
P322	楕円形	(0.40)	0.22	0.13	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 28
P323	楕円形	0.50	0.43	0.13	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 28
P324	楕円形	0.28	0.21	0.60	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 28
P325	楕円形	0.46	0.30	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 28
P326	楕円形	0.28	0.18	0.67	—	10YR6/4 7/4 ローム含。	ち 27
P327	円形	0.20	0.18	0.49	—	10YR6/4 7/4 ローム含。	つ 27
P328	楕円形	0.40	0.32	0.30	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	ち 27
P329	楕円形	0.24	(0.20)	0.59	調査区外にのびる。	10YR6/4 7/4 ローム含。	ち 27
P330	楕円形	0.50	0.40	0.32	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	お 26
P331	楕円形	0.76	0.48	0.42	P320 に切られる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	か 27
P332	楕円形	0.88	0.60	0.32	—	10YR4/3 2/2・7/4 ローム少含。	け 23
P333	楕円形	0.83	0.48	0.53	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 24
P334	楕円形	2.00	—	0.81	P272 に切られる。	10YR5/3 7/4 ローム少含。	け 24
P335	楕円形	0.80	0.41	0.25	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	け 23
P336	楕円形	0.37	0.25	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	け 23
P337	楕円形	0.70	0.38	0.17	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P338	円形	0.36	0.35	0.17	P458 を切る。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P339	楕円形	1.06	0.70	0.42	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P340	楕円形	0.32	0.24	0.51	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P341	楕円形	0.44	0.29	0.14	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P342	楕円形	0.52	0.38	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 24

ピット計測表 (6)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P343	円形	0.39	0.35	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 23
P344	楕円形	0.31	0.28	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 24
P345	円形	0.44	0.40	0.20	H8 を切る。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	い 24
P346	円形	0.20	0.18	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	い 24
P347	不整形	3.54	1.47	0.51	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 21
P348	楕円形	0.46	0.35	0.17	P456 を切る。	10YR6/4 7/4 ローム含。	こ 23
P349	楕円形	0.23	0.18	0.08	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	さ 24
P350	楕円形	0.62	0.51	0.33	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	さ 24
P351	楕円形	0.30	0.22	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	さ 23
P352	楕円形	0.57	0.47	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 23
P353	楕円形	0.81	0.43	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P354	楕円形	0.64	0.40	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 23
P355	楕円形	0.36	0.32	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 21
P356	円形	0.38	0.36	0.29	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 21
P357	楕円形	0.32	0.28	0.13	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P358	—	—	—	0.30	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	し 22
P359	円形	0.40	0.36	0.14	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P360	楕円形	0.30	0.24	0.13	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 23
P361	楕円形	(0.42)	0.20	0.15	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P362	楕円形	0.65	0.36	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P364	楕円形	0.30	0.26	0.10	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 24
P365	楕円形	0.54	0.41	0.48	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 21
P366	楕円形	0.70	0.42	0.65	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P367	—	—	—	0.18	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 22
P368	円形	0.46	0.46	0.23	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P369	楕円形	0.46	0.30	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	さ 21
P370	—	—	—	0.75	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム多含。	こ 20
P371	楕円形	0.50	0.43	0.23	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	こ 21
P372	楕円形	1.26	—	0.27	M1 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 22
P373	楕円形	0.80	0.63	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P374	円形	0.47	0.43	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P375	楕円形	1.18	0.44	0.27	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 21
P376	楕円形	0.65	0.57	0.21	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 21
P377	楕円形	0.29	0.26	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P378	円形	0.42	0.39	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P379	円形	0.52	0.48	0.22	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 23
P380	楕円形	0.54	0.42	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 23
P381	楕円形	0.42	0.26	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P382	楕円形	0.31	0.24	0.17	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P383	楕円形	(2.00)	(0.40)	0.41	D12 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	お 26
P384	—	—	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 19
P385	円形	0.53	0.52	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 19
P386	楕円形	0.88	0.44	0.46	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	さ 19
P387	円形	0.63	0.58	0.40	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	さ 19
P388	楕円形	0.58	0.42	0.33	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 18
P389	楕円形	0.60	0.50	0.32	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 19
P390	円形	0.30	0.28	0.25	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 19
P391	楕円形	0.61	0.38	0.26	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 32
P392	楕円形	0.86	0.47	0.40	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 32
P393	—	—	—	0.32	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	な 32
P394	楕円形	0.56	0.30	0.52	M1 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 18
P395	—	—	—	0.57	調査区外にのびる。	10YR5/3 7/4 ローム多含。	さ 25
P396	楕円形	0.80	0.70	0.30	—	10YR6/3 7/4 ローム少含。	そ 26
P397	楕円形	0.72	0.66	0.26	—	10YR6/3 7/4 ローム少含。	そ 27
P398	—	—	—	0.38	調査区外にのびる。	10YR6/3 7/4 ローム少含。	せ 27
P399	円形	0.27	0.27	0.66	—	10YR6/3 2/2 ローム少含。	す 31
P400	円形	0.44	0.42	0.14	—	10YR6/3 2/2 ローム少含。	す 30
P401	(楕円形)	(0.88)	0.76	0.80	調査区外にのびる。	10YR6/3 2/2・7/4 ローム含。	す 31
P402	楕円形	0.36	0.30	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P403	—	—	—	0.11	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 31
P404	楕円形	0.52	0.34	0.11	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 31
P405	楕円形	0.32	0.24	0.14	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P406	楕円形	0.97	0.50	0.33	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P407	—	—	—	0.34	P408 を切る。	10YR6/3 7/4 ローム含。	つ 30
P408	—	—	—	0.25	P407 に切られる。	10YR6/3 7/4 ローム含。	つ 30
P409	楕円形	(0.69)	0.58	0.20	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 36
P410	楕円形	0.60	0.53	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 36

ビット計測表(7)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P411	—	—	—	0.41	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	な 37
P412	—	—	—	0.09	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 37
P413	楕円形	0.24	0.20	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 37
P414	楕円形	0.50	0.42	0.13	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	た 34
P415	楕円形	0.41	0.32	0.34	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	た 34
P416	楕円形	(0.78)	0.60	0.30	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 33
P417	楕円形	0.69	(0.44)	0.34	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P418	楕円形	0.46	0.30	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 31
P419	楕円形	0.36	0.25	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 31
P420	楕円形	0.44	0.20	0.11	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 31
P421	楕円形	0.42	0.33	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 31
P422	円形	0.40	0.38	0.41	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 32
P423	楕円形	0.56	(0.36)	0.51	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 32
P424	楕円形	0.28	0.22	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P425	円形	0.42	0.38	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 32
P426	楕円形	0.55	0.34	0.22	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P427	楕円形	0.37	0.26	0.44	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 33
P428	楕円形	0.57	(0.28)	0.34	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	す 33
P429	楕円形	0.37	0.30	0.55	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	な 32
P430	円形	0.28	0.28	0.23	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	す 32
P431	楕円形	0.48	0.30	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P432	円形	0.40	0.40	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P433	楕円形	0.49	0.26	0.22	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P434	楕円形	0.28	0.22	0.15	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P435	円形	0.34	0.32	0.21	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P436	—	—	—	0.63	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 32
P437	楕円形	0.42	(0.32)	0.15	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 21
P438	円形	0.28	0.26	0.59	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 22
P439	楕円形	0.30	0.26	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 22
P440	楕円形	(0.80)	0.70	0.23	P65 に切られる	10YR3/2 7/4 ローム含。	き 11
P441	楕円形	(0.40)	0.18	0.26	P442 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P442	楕円形	0.60	0.34	0.32	P441 を切る。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P443	楕円形	(0.50)	0.32	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P444	楕円形	0.34	0.12	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P445	楕円形	0.40	0.25	0.22	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P446	楕円形	0.24	0.20	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P447	円形	0.44	0.42	0.51	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P448	楕円形	0.30	0.24	0.19	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P449	—	—	—	0.33	H9 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	は 28
P450	楕円形	0.40	0.24	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 12
P451	楕円形	0.30	0.20	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P452	楕円形	(0.36)	0.30	0.19	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P453	不整形	(0.76)	0.22	0.17	P54 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P454	楕円形	0.50	0.20	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	く 13
P455	円形	0.20	0.20	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	
P456	楕円形	1.78	0.47	0.31	P348 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	さ 23
P457	楕円形	0.70	(0.34)	0.20	P275 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 23
P458	楕円形	0.66	0.41	0.32	P338 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P459	—	—	—	0.23	P243 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P460	楕円形	0.64	0.43	—	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P461	—	—	—	0.16	P211 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P462	円形	0.97	0.97	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 19
P463	楕円形	0.40	0.32	0.22	P88 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 18
P464	楕円形	(0.32)	0.24	0.16	F1P2 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 19
P465	円形	0.40	0.38	0.42	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	き 22
P466	楕円形	(1.08)	0.76	0.64	カクランに切られる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	く 29
P467	楕円形	0.80	0.64	0.42	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 29
P468	円形	0.64	0.62	0.88	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 29
P469	楕円形	0.72	0.38	0.18	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 30
P470	楕円形	0.24	0.20	0.16	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	く 28
P471	楕円形	(0.60)	0.42	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	こ 29
P472	楕円形	0.52	0.45	0.50	—	セクション図有	き 19
P473	楕円形	0.68	0.60	0.44	H11 を切る。	10YR4/3 2/2・10R7/1 粘土少含。	て 25
P474	楕円形	0.52	0.40	0.54	H8 を切る。	1-10YR4/4 6/4 粘土少含。2-10YR4/4 6/4 粘土少含。 柱痕 10YR2/2	う 24
P475	楕円形	0.86	0.65	0.37	—		け 21
P476	楕円形	0.88	0.56	0.16	—		う 23



第 51 図 下芝宮遺跡VI全体図 (1/800)



H 1号住居址 完掘



H 1号住居址 掘方



H 1号住居址 遺物出土状況



H 2号住居址 完掘



H 2号住居址 カマド



H 2号住居址 掘方



H 3号住居址 完掘



H 3号住居址 掘方



H 5号住居址 完掘



H 5号住居址 カマド



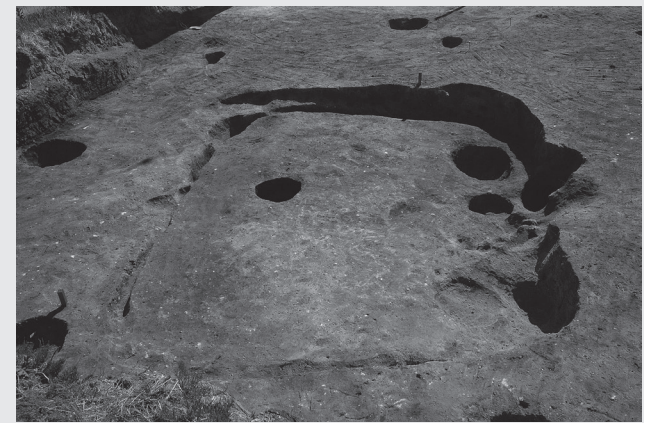
H 4号住居址 完掘



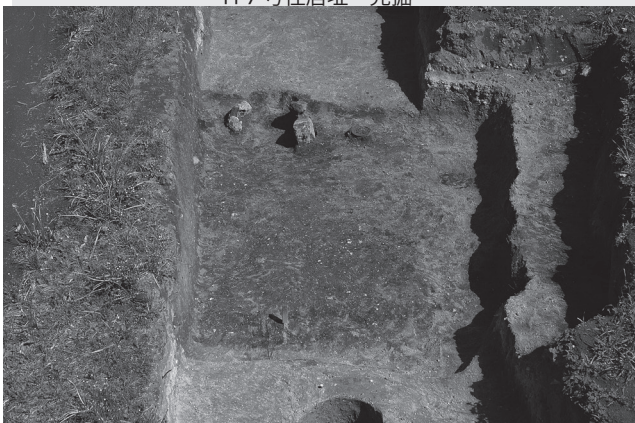
H 6号住居址 完掘



H 7号住居址 完掘



H 8号住居址 完掘



H 9号住居址 完掘



H 9号住居址 カマド



H 10 号住居址 完掘



H 10 号住居址 掘方



H 10 号住居址 カマド



H 11 号住居址 完掘



H 11 号住居址 カマド



H 12 号住居址 完掘



H 12 号住居址 掘方



H 13 号住居址 完掘



H 13 号住居址 カマド



H 13 号住居址 カマド芯材



H 14 号住居址 完掘



H 14 号住居址 掘方



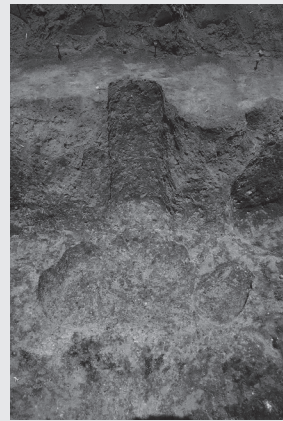
H 15 号住居址 完掘



H 15 号住居址 掘方



H 15 号住居址 カマド



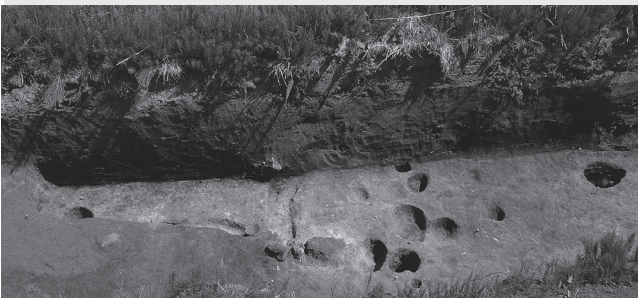
H 15 号住居址 カマド掘方



H 16号住居址 完掘



H 16号住居址 掘方



H 17号住居址 完掘



M 1号溝址 土層



H 16号住居址 カマド



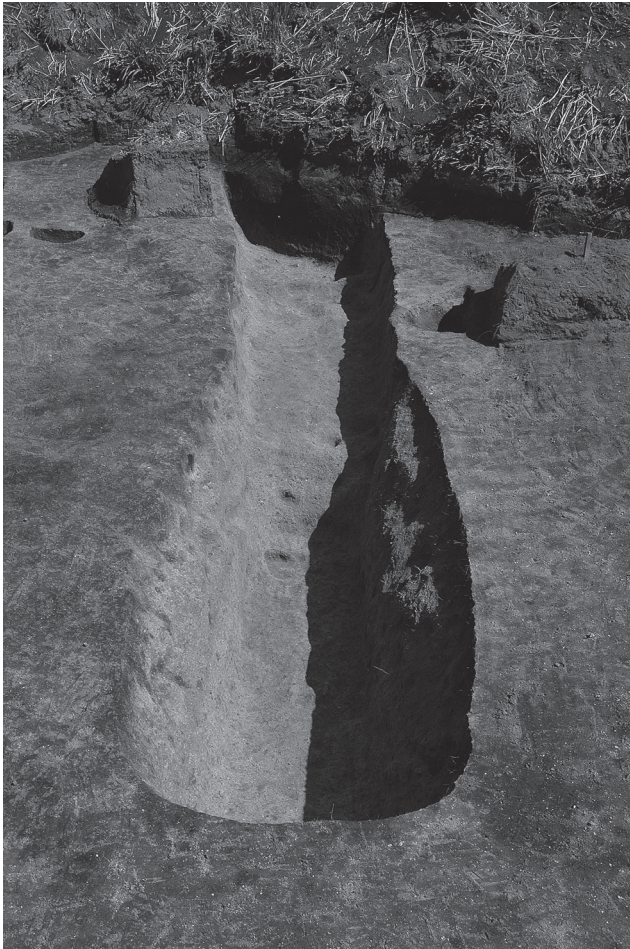
H 16号住居址 旧カマド



H 18号住居址 完掘



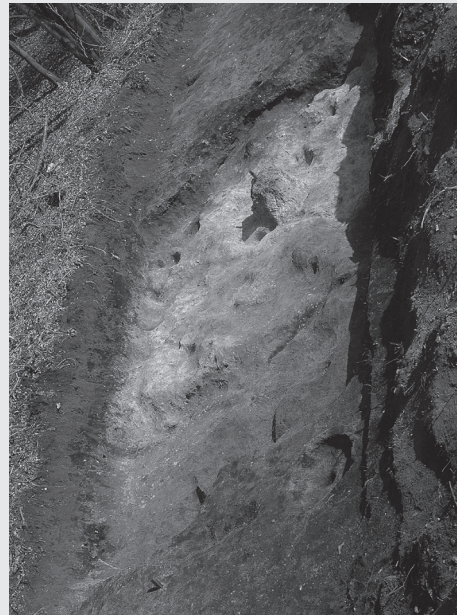
H 18号住居址 カマド



M 1号溝址 南端部



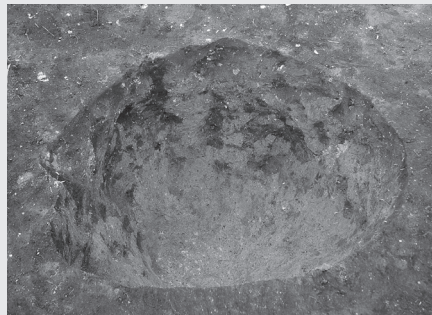
M 1号溝址 中間部



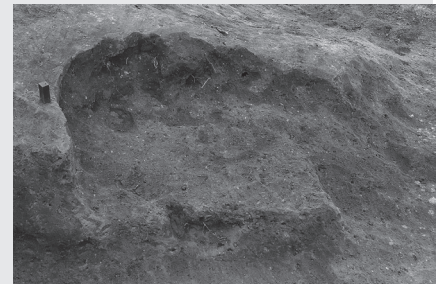
D 7号土坑



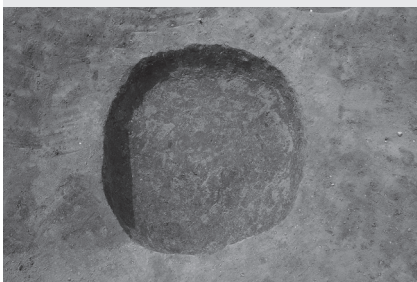
D 5号土坑



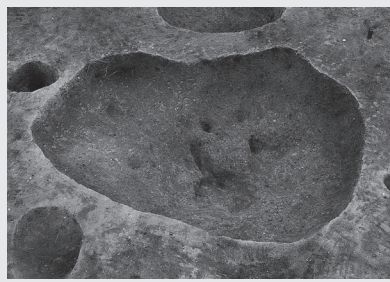
D 6号土坑



D 8号土坑



D 9号土坑



D 10号土坑



D 14号土坑



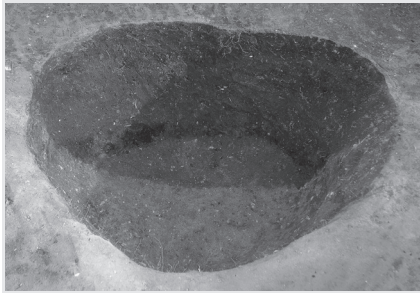
D 11 号土坑



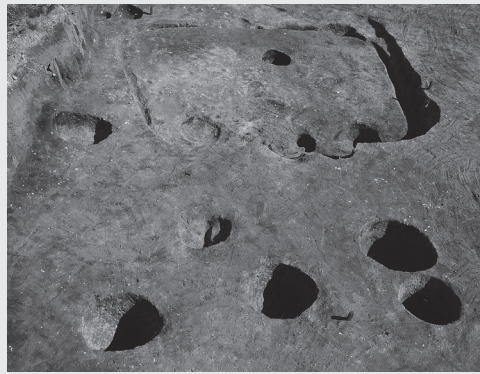
D 12 号土坑



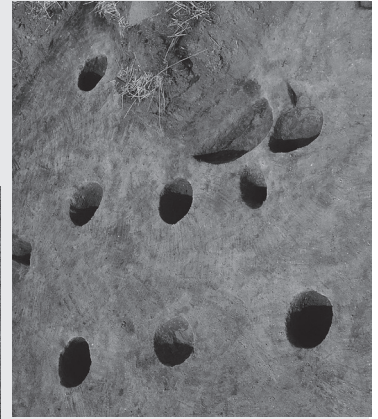
D 13 号土坑周辺



D 15 号土坑



F 3 号掘立柱建物址



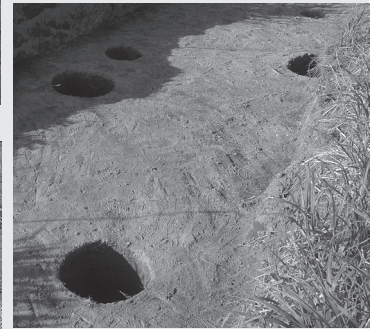
F 1 号掘立柱建物址



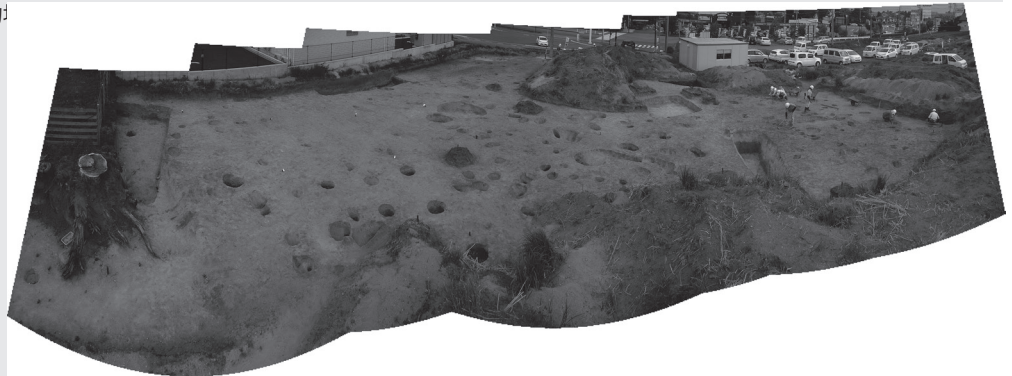
F 2 号掘立柱建物址



F 4 号掘立柱建物址



F 5 号掘立柱建物址



道路予定部分全景

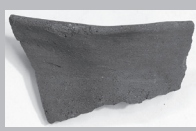


19 (原寸)

H 1 号住居址出土遺物 (1)



H 1号住居址出土遺物 (2)



H 2号住居址出土遺物



6



2



9



4



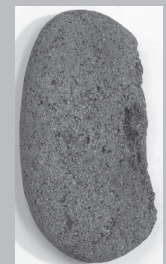
10



5



H 3号住居址出土遺物 (1)



11



13



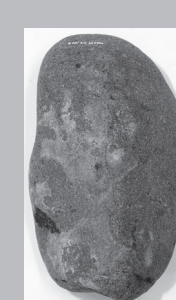
4



5



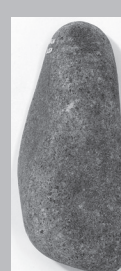
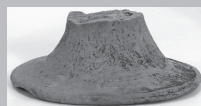
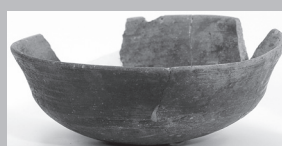
H 3号住居址出土遺物 (2)



17

H 4号住居址出土遺物

2



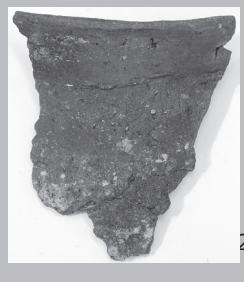
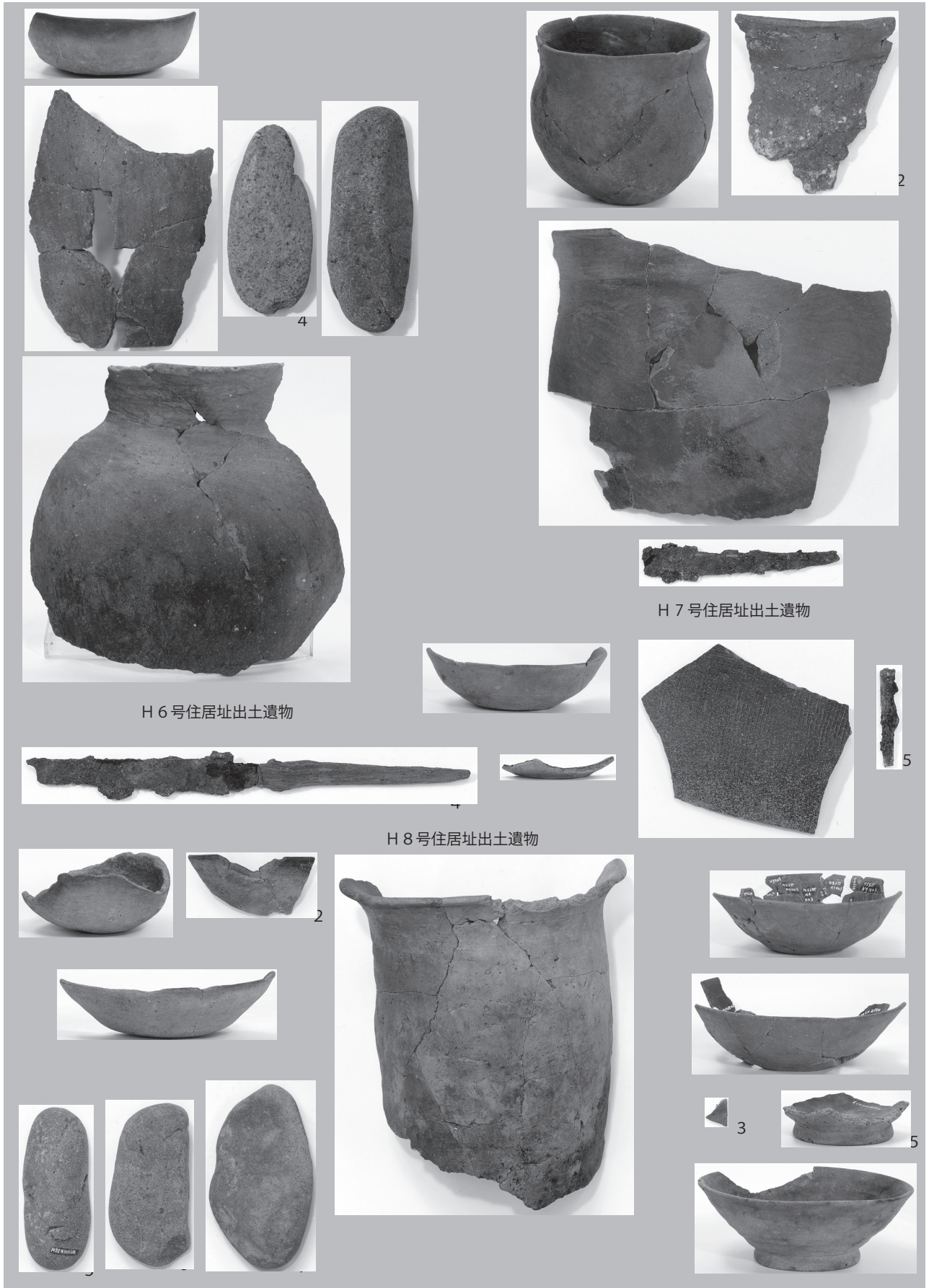
16



18



H 5号住居址出土遺物



4



H 7 号住居址出土遺物

H 6 号住居址出土遺物



5



H 8 号住居址出土遺物



2



3



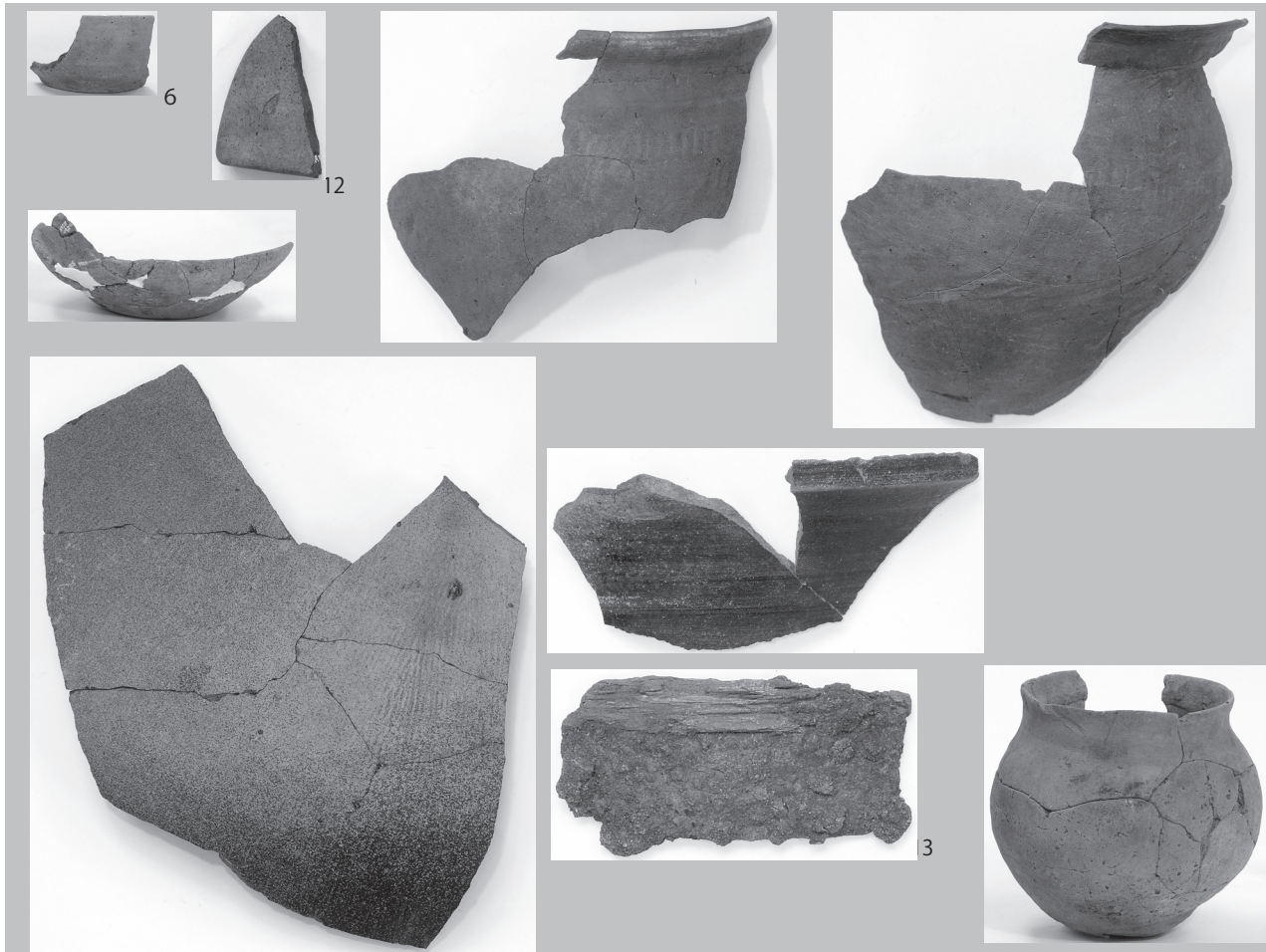
5



H 11 号住居址出土遺物



H 9 号住居址出土遺物 (1)

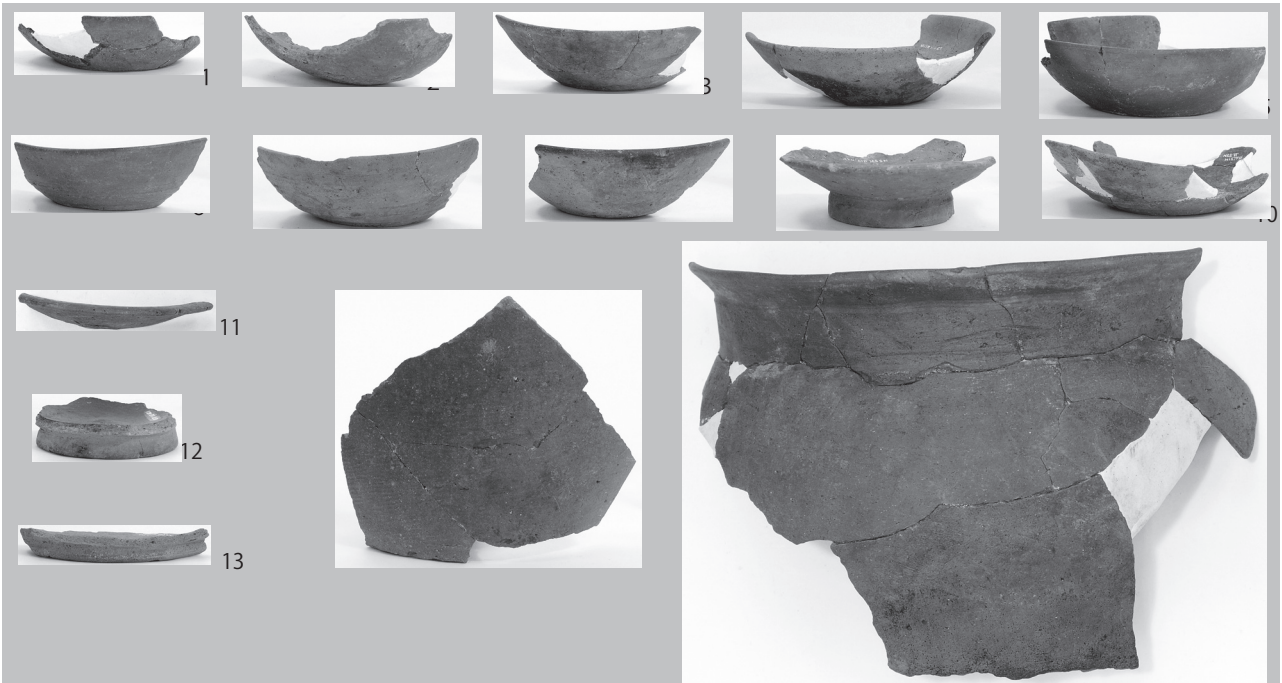


H 9 号住居址出土遺物 (2)



H 12 号住居址出土遺物

H 10 号住居址出土遺物



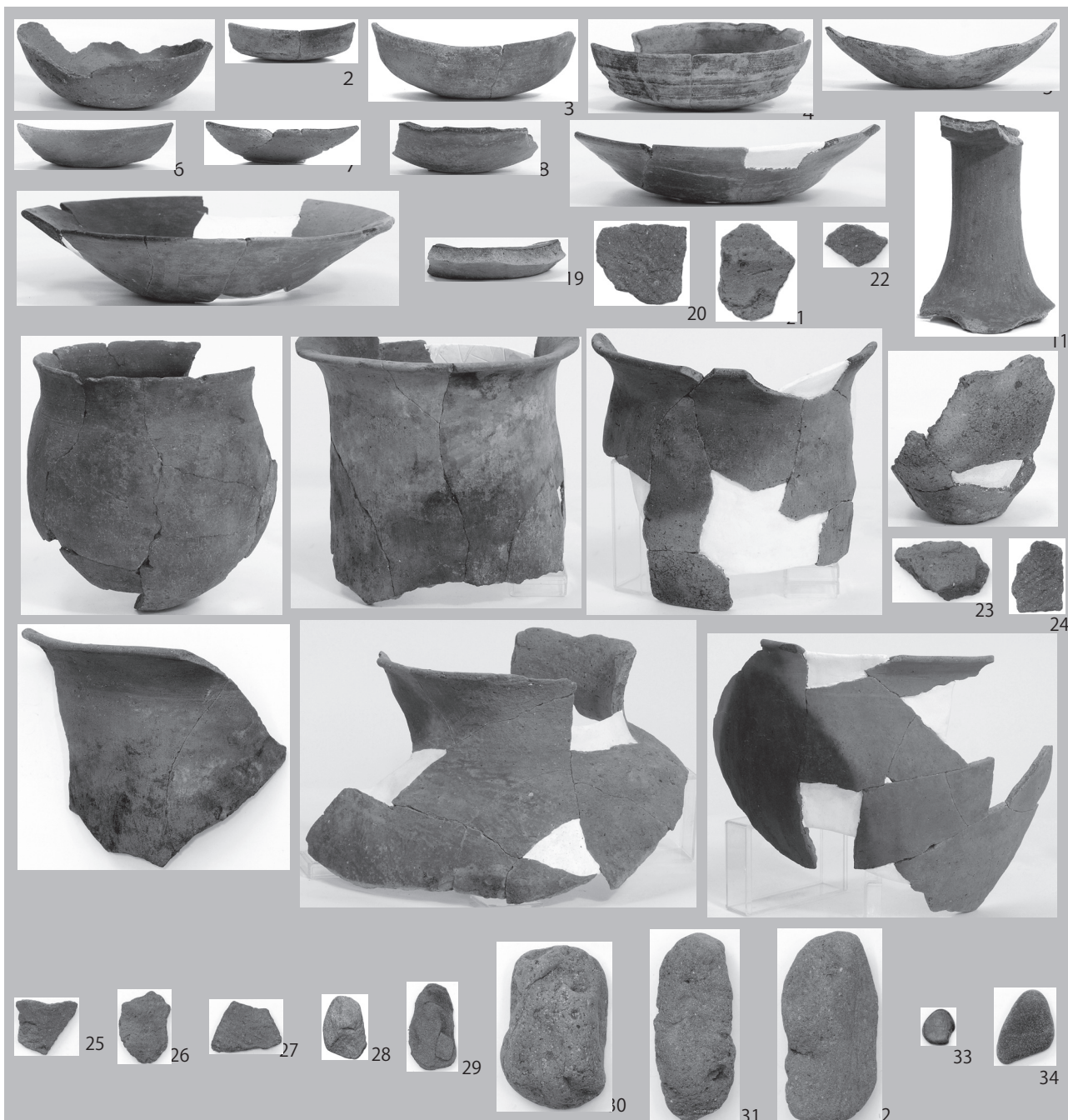
H 13 号住居址出土遺物



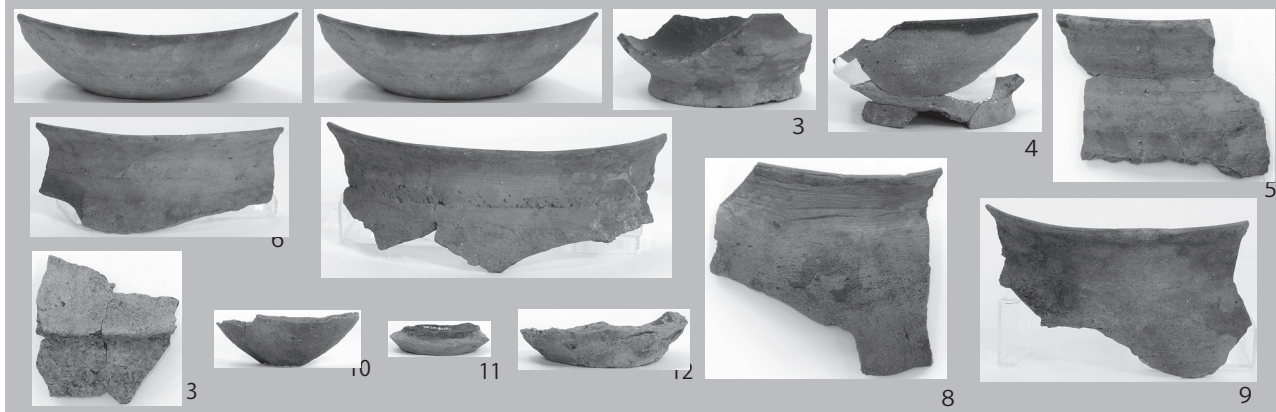
H 14 号住居址出土遺物



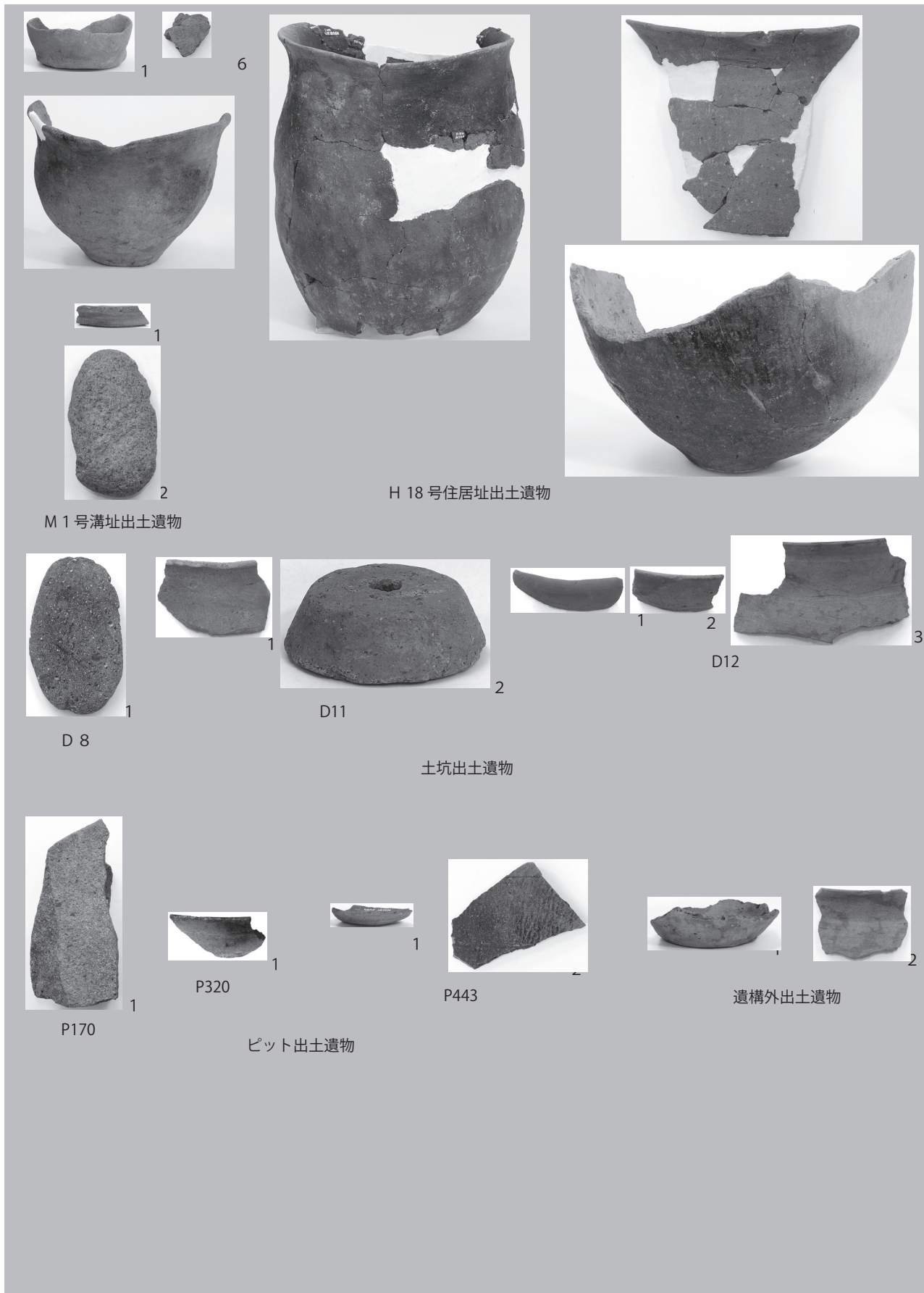
H 15 号住居址出土遺物



H 16 号住居址出土遺物



H 17 号住居址出土遺物



報 告 書 抄 録

ふ り が な	しもしばみやいせきろく
書 名	下芝宮遺跡VI
シ リ ー ズ 名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 245 集
編 集 者 名	小林眞寿
編 集 機 関	佐久市教育委員会
発 行 機 関	佐久市教育委員会
発 行 年 月 日	20170331
郵 便 番 号	385-0006
電 話 番 号	0267-68-7321
住 所	長野県佐久市志賀 5953
ふ り が な	しもしばみやいせきろく
遺 跡 名	下芝宮遺跡VI
ふ り が な	ながのけんさくしながとろしもしばみやななひやくはちじゅういちのごほか
遺 跡 所 在 地	長野県佐久市長土呂下芝宮 7 8 1 - 5 他
遺 跡 番 号	8
北 緯	36.17.24.0381
東 経	138.28.26.8505
調 査 期 間	20160301 - 20161220
調 査 原 因	集合住宅建設
調 査 面 積	1,906㎡
種 別	集落遺跡
主 な 時 代	古墳～平安時代
遺 跡 概 要	遺構—竪穴住居址 18 (古墳～平安)、掘立柱建物址 4 (古墳～平安)、土坑 16 (古墳～平安)、溝 1 (不明)、ピット 471 (古墳～平安・不明) 遺物—土師器 (古墳時代後期～平安)、須恵器 (平安)、縄文土器 (前～後期)、石器・石製品、鉄器
特 記 事 項	古墳後期、平安時代の集落址

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 245 集

芝宮遺跡群 下芝宮遺跡Ⅵ

平成 29 (2017) 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒 385-0006 長野県佐久市志賀 5953

TEL 0267-68-7321

印刷所
